

○治安維持法違反被告事件 (昭和八年(れ)第八七三號 棄却)

(昭和八年九月四日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 清水 弘 辯護人 (高橋田 潔武)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

結社ノ擴大強化ヲ圖ル團體ノ目的遂行ト結社ノ目的遂行

○判決要旨

團體ノ變革竝私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル結社ノ擴大強化ヲ目的トスル團體ノ存在スル場合ニ於テ其ノ結社及團體ノ組織及目的ヲ認識シナカラ其ノ團體ノ目的ニ屬スル活動ヲ爲ストキハ假令結社ト有機的ニ直接ノ連絡ヲ有セサルトキト雖其ノ行爲ハ治安維持法第一條ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ニ該當ス

【參照】 治安維持法第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中三百日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ石川縣立第一中學校ヲ卒業後大正十五年四月關西學院文學部ニ入學シ當時同學院社會科學研究會ニ參加シ居リタルカ昭和二年三月同學院ヲ除名セラレ次テ昭和三年四月日本大學豫科文科ニ入學シ間モナク同大學豫科社會科學研究會ニ加入シ社會科學ノ研究ニ從事シ遂ニマルクス主義ヲ信奉スルニ至リプロレタリア解放運動ニ從事セントコトヲ決意シ其ノ一方法トシテ政治的自由獲得勞農同盟後ノ勞農同盟ニ參加シ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ暴力手段ニ依リ我國ノ立憲君主制ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリア獨裁政治ヲ行ヒ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現セントコトヲ目的トスル秘密結社ナル事實及前記同盟カ日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナル事實ヲ知リ乍ラ昭和四年九月下旬ヨリ同年十一月下旬ニ至ル迄ノ間該同盟全國委員會ノ連絡ニ關スル任務ニ

結社ノ擴大強化ヲ圖ル團體ノ目的遂行ト結社ノ目的遂行

就キ當時東京市内外ニ於テ反帝同盟新聞無産青年解放運動犠牲者救援會等ト連絡ヲ執リ各方面ノ情勢ヲ聽取シ之ヲ前記勞農同盟全國委員會ニ傳達シ該同盟發行ノニュース概其ノ他ノ文書ト右ノ如ク連絡ヲ執レル右團體發行ノ文書及新聞無産青年トヲ交換シ是等ノ文書ヲ右各團體ニ分配スル等ノ活動ヲ爲シ以テ日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ一面ニ於テ昭和三年勅令第二百二十九號治安維持法改正ノ件第一條第一項後段ニ該當シ他面ニ於テ同條第二項ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ所爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ法條ニ定メタル刑ニ從ヒ其ノ懲役刑ヲ選擇シ右所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人蓬田武上告趣意書第一點本件ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルモノト信ス(一)思想ハ處罰ノ對象タルモノニアラス原審判決ハ一被告人ハ石川縣立第一中學校ヲ卒業後大正十五年四月關西學院文學部ニ入學シ當時同學院社會科學研究會ニ參加シ居リタルカ昭和二年三

月同學院ヲ除名セラレ次テ昭和三年四月日本大學豫科文科ニ入學シ間モナク同大學豫科社會科學研究會ニ加入シ社會科學ノ研究ニ從事シ遂ニマルクス主義ヲ信奉スルニ至リプロレタリア解放運動ニ從事センコトヲ決意シ一ト判示スレトモ被告ヲシテ關西大學及日本大學ニ於テ社會科學ノ研究ニ趨カシメタルハ實ニ現代ノ生々シキ客觀的社會現象其ノモノニシテ階級對立ノ激化日ニ益々甚シキ貧富ノ懸隔ノ増大勞働者農民小市民階級ノ加速度的生活ノ窮乏化產業合理化ノ美名ノ下ニ職ヲ奪ハルル底知レサル失業群ノ激増等之等資本主義現在社會ノ内在的諸矛盾ニ對シテ現實ヲ直視シ純眞ニシテ敏銳ナル感覺性ニ富ム青年學徒被告カカカル社會現象ノ研究解明ニ熱意セルニ至リタルハ極メテ自然ニシテ敏上ノ如キ過程ヲ辿リマルクス主義ヲ信奉シプロレタリア解放運動ニ從事センコトヲ決意スルニ至リタルモノニシテ而カモ被告カ多年研究ノ結果共產主義思想ヲ持スルニ至レルトモソハ被告ノ自由ニシテ何等處罰ノ對象タリ得ルモノニアラサルナリ(二)日本共産黨ト勞農同盟トニ付テノ被告ノ認識ニ對スル著シキ誤認アリ次ニ原判決ハ「プロレタリア解放運動ノ一方法トシテ政治的自由獲得勞農同盟後ノ勞農同盟ニ參加シ日本共産黨カ國際共産黨ノ日本支部ニシテ暴力手段ニヨリ我國ノ立憲君主制ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリア獨裁政治ヲ行ヒ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ナル事實及前記同盟カ日本共産黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナル事實ヲ知リナカラ一ト判示スレトモ被告カ日本共産黨ノ存在ヲ知ルニ至リタルハ昭和三年夏頃大阪新聞ノ九州方

面ニ於ケル共產黨員ノ一齊檢舉ノ新聞記事ヲ讀ミテ知リタルモノナリトノ公判廷ニ於ケル供述ニ觀ルモ被告ノ其ノ認識タルヤ甚タ粗雜ナルモノニスキス尙勞農同盟カ日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナル點ノ認識ハ全然被告ノ否認スルトコロナリ而シテ日本共產黨ノ組織目的等カ判示ノ如キモノト假定スルモ本件カ目的罪タル性質上被告ノ其ノ認識ハ具體的ニ科學的ナル詳密ニ互ル認識ヲ有シ其ノ目的ヲ知悉シテ積極的ニ之ニ協力スル特別ナル目的ニ出テタルモノナラサルヘカラスト解ス然ルニ原審判決ハ唯新聞常識的ナル認識ノ程度ヲ以テセル被告ノ行爲ニ對スル責任ヲ問擬セントスルモノニシテ妥當ナルヲ得ス(三)勞農同盟ノ本質ニ對スル誤認アリ原判決ハ「勞農同盟ハ日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナリ」ト判示スレトモ該同盟ハ勞働者農民小市民ノ一般的結合體トシテ成立シタルモノニシテ勞働者農民一般小市民ノ日常ニ於ケル生活利益ノ擁護ノ爲ニ果敢ニ鬭爭スル政治的カンパニアニ過キス最高唯一ノ政治團體ナリト謂ハルル共產黨ノ組織トハ全然別個ノモノニシテ又共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スルモノニアラサルコトハ被告ノ公判廷ニ於ケル供述ニヨリテ極メテ明白ナリ然ルニ該同盟ヲ目シテ日本共產黨ノ指導下ニ直接活動スル團體ノ如ク斷セラルハ甚シキ事實ノ誤認ナリト信ス(四)因果關係ノ飛躍アリ日本共產黨カ原審判決判示ノ如キモノト假定スルモ勞農同盟員トシテノ被告ノ行爲ハ何等有機的直接的ニ日本共產黨ト關聯アル行爲ニアラス當時被告ノ思惟シタル最有效果適切ナルプロレタリア解放運動ノ一方法トシテノ活動ニスキサルナリ唯

偶勞働者農民小市民ノ日常生活利益ヲ擁護シテ最モ果敢ニ鬭爭セシコトノ結果ニ於テ日本共產黨ノ活動ト相一致セシコトアラシモノ之ヲ以テ日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トスル行爲ナリトシテ處斷センカ世ノアラユル反資本主義的行爲ハ總テ治安維持法ヲ以テ處罰セサルヲ得サルヘカラサルニ至ルヘク現行刑法上ノ通説ニシテマタ御院ノ判例タル相當因果關係說ヲ沒却シ驚クヘキ因果關係論ノ飛躍矛盾ニ陥ラサルヲ得ス甚シキ事實ノ誤認アリ(五)豫審調書ハ信スルニ足ラス原審判決ハ勞農同盟カ日本共產黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル團體ナルコトヲ被告カ認識セル點ノ立證トシテ第一回及第六回豫審調書ヲ引用シタレトモ被告ノ豫審調書ハ秘密暗黒身體ノ拘束威壓ノ裡ニ作成セラレタルモノニシテ被告ノ獄内ニ於ケル孤獨懊惱ハソレ自身一種ノ拷問ト謂フヘク豫審廷ノ供述ハ自然タルモノニアラス被告マタ公判廷ニ於テ之ヲ全部的ニ否認セルトコロニシテ直接審理口頭審理主義ノ大原則ニ則リタル公判廷ノ自由ナル被告ノ供述コソ眞ニ證據トシテ信セラルヘキモノニシテ豫審調書ヲ引用シテ判示セルハ事實ノ認定上妥當ナラスト信ス(六)結論要スルニ本件ハ自然發生的ニ下ヨリ捲キ起サレタル勞働者農民小市民ノ日常生活利益擁護ノ爲ニプロレタリア解放ノ純良ナル念慮ニ基キ當時ノ社會情勢ノ先頭ニ立チテ果敢ニ行爲セル被告ノ行爲ニ對シテ治安維持法ヲ以テ問擬セントスルモノニシテ甚シキ事實ノ誤認アリト信スト云フニ在レトモ

(一) 原判決理由ノ冒頭ヨリプロレタリア開放運動ニ從事センコトヲ決意シ迄ノ所論事實ハ我國體ノ

變革私有財産制度否認ヲ目的トスル結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル罪ヲ犯シタリトスル本件犯罪行爲ニ對スル動機ヲ敘述シタルモノニシテ原審ハ之ヲ以テ所論ノ如ク被告人處罰ノ對象ト爲シタルモノニ非ス而シテ犯罪事實ヲ認定スルニ當リ之カ動機ニ關スル事實ヲ判示スルコトハ毫モ法ノ禁スル所ニ非サルナリ(二)被告人カ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ暴力手段ニ依リ我國ノ立憲君主制ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリヤ獨裁政治ヲ行ヒ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現セシコトヲ目的トスル秘密結社ナル事實ヲ認識シ居タルコトハ原判決舉示ノ原審公廷ニ於ケル被告人ノ供述ニ依リ明ニシテ又被告人カ勞農同盟ハ日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナル事實ヲ認識シ居タル事實ハ原判決舉示ノ被告人ニ對スル豫審第一回及第六回訊問調書中ノ各供述記載ニ依リ之ヲ認ムルニ足ル而シテ被告人ハ日本共產黨及勞農同盟ナル結社ノ組織及目的カ右ノ如クナルコトヲ認識シナカラ原判決示ノ如キ行動ヲ敢テシタル以上茲ニ治安維持法第一條第一項後段第二項ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル犯罪ヲ構成スルモノニシテ右結社ノ組織及目的ニ對スル被告人ノ認識カ新聞ノ記事ニ依リテ得タルモノナルト其ノ他如何ナル方法ニ依リテ得タルモノナルトハ敢テ問フ所ニ非サルナリ(三)勞農同盟ノ本質ハ原判決示ノ如ク日本共產黨ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル團體ナルコト及被告人カ右ノ事實ヲ知悉シ居タルコトハ原判決ノ舉示セル被告人ニ對スル豫審第一回及第六回訊問調書中ノ各供述記載ニ依リテ明ナリ所論ハ畢竟原審ノ採用セサル證據ニ立脚

【要旨】

シ又ハ自己ノ見解ニ基キテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非難スルニ歸ス記録ヲ精査スルモ原判決ニ右同盟ノ本質ニ對スル誤認アルコトヲ認ムルヲ得ス(四)凡ソ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認セントスル結社ノ擴大強化ヲ目的トシテ活動スル行爲ハ其ノ結社ノ組織及目的ニ付直接ナルト將間接ナルトヲ問ハス治安維持法第一條第一項後段第二項ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス從ツテ右ノ如キ目的ヲ有スル結社ノ擴大強化ヲ目的トスル團體ノ存在スル場合ニ於テ其ノ結社及團體ノ組織及目的ヲ認識シナカラ其ノ團體ノ目的ニ屬スル活動ヲ爲ス者ハ假令右結社ト有機的ニ直接ノ連絡ヲ有セサルトキト雖其ノ行爲ハ前示治安維持法違反ニ該當スルコト言フ俟タス翻テ證據ニ依リテ認メラレタル原判決事實ヲ查閱スルニ日本共產黨ハ我國體ノ變革及私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル秘密結社勞農同盟ハ右結社ノ擴大強化ヲ目的トスル團體ニシテ被告人ハ右共產黨及同盟ノ組織及目的ヲ認識シナカラ右同盟ノ爲ニ判示ノ如キ活動ヲ敢テシタルコト明白ナルカ故ニ被告人ノ右行爲ハ明ニ右日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス然レハ原判決ニハ其ノ間所論ノ如キ因果關係ノ飛躍アリト認ムルコトヲ得サルナリ(五)證據ノ取捨判斷ハ原審ノ專權ニ屬スル所ナレハ原審カ勞農同盟ハ日本共產黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル團體ナルコトヲ被告人ニ於テ認識シ居タル證據トシテ被告人ニ對スル豫審第一回及第六回訊問調書中ノ各供述記載ヲ採用シ被告人ノ公廷ニ於ケル反對ノ供述ヲ排斥シタルハ毫モ違法ニ非ス

記録ヲ査スルニ該豫審調書カ所論ノ如ク被告人ノ不任意ノ供述ニ基キ作成セラレタルモノト斷スヘキ形迹ヲ認メス(六)之ヲ要スルニ原判示事實ハ其ノ擧示セル各證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ認ムルニ足リ而シテ該事實ハ明ニ治安維持法第一條第一項後段第二項ニ所謂結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノニ該當スルコト寸毫ノ疑ナシ所論ハ原審ノ採用セサル證據ニ立脚シ又ハ原判決認定事實ト異レル獨自ノ見解ニ基キ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非難攻撃スルニ歸ス記録ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルヲ發見セス論旨總テ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○殺人未遂及同幫助被告事件(昭和八年(九)第九二一號 同年十一月六日第一刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 神原剛事 佐郷屋留雄 外一名 辯護人 中川孝太郎 平松市良 角岡高三 秋山高明 鶴澤總明 外七名

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑ノ適用ニ關スル標準——未遂減輕酌量減輕ト刑ノ量定——先例ト刑ノ量定

○判決要旨

- 一 刑ノ適用ニ付テハ犯罪ノ動機其ノ他諸般ノ情狀ヲ參酌スヘキモノニシテ犯罪ノ動機ノミヲ標準ト爲スヘキモノニアラス從テ動機ノ一部面ニ宥恕スヘキモノアルモノ之ノミヲ以テ必スシモ犯情罪責ノ重大性ヲ左右スヘキモノニ非ス【要旨第一】
- 二 未遂減輕又ハ酌量減輕ヲ爲スヘキヤ否ニ付テモ諸般ノ情狀ヲ參酌スヘキモノニシテ犯罪ノ動機ノ一點ノミヲ標準ト爲スヘキモノ

刑ノ適用ニ關スル標準 未遂減輕酌量減輕ト刑ノ量定 先例ト刑ノ量定

ノニアラス【要旨第二】

三刑ノ量定ニ付テハ裁判所ハ先例ニ拘泥スルコトナク常ニ獨自ノ裁量ニ基キ各事件ニ付個別的ニ之ヲ判斷スヘキモノトス【要旨第三】

【参照】 刑法第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

同法第二百三條 第二百三十九條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

第二審ハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人佐郷屋留雄ヲ死刑ニ處ス被告人松木良勝ヲ懲役八年ニ處ス但被告人松木良勝ニ對シ原審ノ未決勾留日數百八十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人中村嘉三郎 熊瀬鐵丸 垣崎憲吾 丸山敏治 大村豊吉 佐郷屋岩雄ニ給シタル分ハ被告人佐郷屋留雄ノ負擔トシ豫審ニ於ケル證人小川身治(第一、二回) 小川義夫 樋口美津雄 酒田征時 辻敬山 本昇三 木場真一 加藤重兵衛 大手重太郎 大濱忠太郎 細島長吉(第一、二回)及原審公判ニ於ケル證人清野謙次 鑑定人緒方知三郎 同清野謙次ニ各給シタル分ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ

爲シタリ

第一 被告人佐郷屋留雄ハ滿洲吉林省ニ生レ幼ニシテ父母ノ膝下ヲ離レ稍長スルニ及ンテ船員生活ニ入り十八歳ニ到ル迄火夫トシテ外國航路ニ從事シ世界各地ヲ遍歴シ來リタルカ夙ニ思フ滿洲ノ曠野ニ馳セ船員生活ヲ罷メテヨリ滿洲浪人タラント志シテ暫ラク滿蒙地方ヲ流浪シタルモ志ヲ得スシテ内地ニ歸還シ爾來黑龍會白狼會等各種ノ右翼團體ニ寄食シ次テ昭和五年七月頃岩田愛之助ヲ知り同人ヲ盟主トシ大陸積極政策ノ遂行共產主義ノ排擊等ヲ主義綱領トスル思想團體愛國社ニ身ヲ寄スルニ至リタルモノナルカ昭和四年濱口内閣ノ成立以後東京市外各所ニ於テ政友會院外團主催ノ下ニ開催セラレタル不景氣打開演說會ヲ聞キ或ハ政友會ヨリ發行セラレタル「バンフレット」其ノ他新聞雜誌等ノ論說ヲ閱讀シテ濱口内閣ハ金解禁ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲組閣當初ノ聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥ナル事態ヲ惹起スルモノナリト信シ同内閣ヲ更迭セシメサル可カラストノ念ヲ有スルニ至リタルカ前記岩田愛之助被告人松木良勝其ノ他ノ愛國社同人等ニ接近シテ其ノ持論ヲ聞キ且其ノ後引續キ深刻ナル不景氣ノ爲失業者倒産者犯罪者等簇出スル世相ヲ見ルニ及ンテ益々同内閣ノ施政ニ對スル不滿ノ情ヲ強メツツアリシ一面倫敦條約ニ關シ外交軟弱統帥權干犯等ノ諸問題相踵テ起ルヤ被告人亦政教社ノバンフレット「統帥權問題詳解」及「賣國的回訓案ノ暴露」等ヲ讀ミ以上ノ諸問題ニ付濱口内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮少條約ヲ締結セルハ之レ我カ外交ノ一大汚辱ニ

刑ノ適用ニ關スル標準 未遂減輕酌量減輕ト利ノ量定 先例ト利ノ量定

シテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ惹テ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果遂ニ昭和五年十月十二、三日頃東京市麴町區永田町二丁目一番地葵ホテル内ニ於テ自己ノ一身ヲ賭シテモ濱口内閣ヲ倒壞セシムヘク時ノ内閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺害セムト決意シ其ノ頃濱口首相ニ交付スヘキ公開狀及斬奸狀ヲ起草シ且同首相ヲ途ニ擁シテ狙撃スルコトノ準備トシテ同年同月中旬頃前後二回ニ互リ或ハ湘南鎌倉ニ於ケル同首相ノ別莊附近ヲ徘徊シ或ハ同別莊ト横濱間ノ自動車通路ノ實地踏査ヲ爲シ以テ之カ決行ノ機ヲ窺ヒ其ノ間右ノ決意ヲ前記岩田愛之助ニ打明ケタルコトモアリシカ同月二十四日附東京朝日新聞夕刊紙上ニテ濱口首相カ軍備縮少ニ關スルヲチオ放送ノ爲觀艦式陪觀先ナル神戸ヨリ同月二十七日午後四時五十五分東京驛著列車ニテ歸京スヘキコトヲ知り此機ニ乘シ東京驛ニ於テ決行セントシ同月二十三日夜東京市赤坂區田町二丁目十三番地被告人松木良勝方ニ於テ同人ニ對シ濱口内閣倒壞ノ目的ヲ以テ濱口首相ヲ殺害ノ決意アリ來ル十月二十七日夕刻東京驛ニ於テ之ヲ決行セントスル意圖ナル旨ヲ告ケテ右兇行ニ使用スヘキ拳銃ノ貸與方ヲ求メ次テ同月二十七日朝被告人良勝ヲ促シ同被告人カ前記葵ホテル内愛國社事務所(第十七號室 内本箱ノ抽斗ニ藏置保管セル「モーゼル」式八連發拳銃(昭和五年押第一四九一號ノ一)ヲ携帶シ相共ニ元東京府荏原郡目黒町字下目黒六百五十二番地所在ノ樋口美津雄ノ所有ニ係リ當時日堂則義ノ居住セル邸宅ニ到リ同庭園内ニ於テ右拳銃ノ試射ヲ行ヒ發射ノ確實

ナルコトヲ確メタル上實包六發裝填ノ右拳銃ヲ携ヘテ同日夕刻東京驛ニ赴キ降車ホームニ同首相ヲ邀撃セントシテ之ヲ待受ケ同日午後四時五十五分著ノ列車ヨリ同首相カ下車シタル際正ニ其ノ身邊三尺ノ距離ニ近附キタルモ其ノ意ヲ果サス更ニ其ノ機ヲ窺ヒ居ル中同年十一月一日ヲチオ放送ニ依リ續キテ同月二日附東京日日新聞朝刊記事ニ依リ同月十四日午前九時發列車ニテ濱口首相カ岡山縣下ニ於ケル陸軍特別大演習陪觀ノ爲東京驛ヲ出發スルコトヲ知り愈々此機ニ於テ決行セントヲ決意シ同月九日頃前記葵ホテル内ニ於テ被告人良勝ニ對シ其ノ旨ヲ告ケタルカ次テ同月十三日深更前記葵ホテル内ニ於テ被告人良勝ニ對シ明朝九時決行ニ使用スヘキニ付同被告人ノ保管ニ係ル前記拳銃ヲ貸與セラレ度シトノ意ヲ告ケ同被告人ヨリ右拳銃ノ藏置シ在ル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ受領シタル上翌十四日午前七時頃右鍵ヲ使用シテ該抽斗内ヨリ實包六發裝填ノ右拳銃ヲ取出シ之ヲ携ヘテ同日午前八時三十分頃東京市麴町區有樂町東京驛ニ到リ乗車ホームニ於テ濱口首相ノ來ルヲ待受ケ居タルトコロ午前八時五十五分頃同首相カ乗車セントシテ其ノ歩ヲ進メ被告人ノ前方約七尺ノ地點ニ差蒐リタルヨリ所携ノ右拳銃ヲ以テ同首相ノ上腹部ヲ狙ツテ一發射撃シタル爲彈丸ハ同首相ノ下腹部ニ命中シ腹壁ヲ貫キ腹腔内ニ於テ空腸五箇所ヲ貫通シ尙空腸間膜其ノ他ヲ損傷スルニ至リタルモ殺害ノ目的ヲ遂クルニ至ラス

第二 被告人松木良勝ハ前記愛國社同人ナルトコロ昭和五年九月下旬頃前記岩田愛之助ヨリ小川身治

刑ノ適用ニ關スル標準 未遂減輕酌量減輕ト刑ノ量定 先例ト刑ノ量定

ヲ介シ實包八發裝填ノモーゼル式八連發拳銃(昭和五年押第一四九一號ノ一)ノ交付ヲ受ケタル後
 東京市赤坂區田町二丁目十三番地ノ自宅又ハ前記葵ホテル内ノ愛國社事務所(第十七號室)内本箱
 ノ抽斗ニ之ヲ藏置シテ保管シ來リタルトコロ前項記載ノ如キ被告人佐郷屋留雄ト略同様ノ理由ニ依
 リ濱口内閣ヲ更迭セシムヘシトノ意見ヲ抱懷シ居リタル折柄前項記載ノ如ク昭和五年十月二十三日
 夜前記自宅ニ於テ被告人留雄ヨリ同被告人カ濱口内閣倒壞ノ目的ヲ以テ時ノ内閣總理大臣濱口雄幸
 ヲ同月二十七日夕刻東京驛ニ邀ヘテ暗殺セムトスル決意アル旨ヲ告ケラレ且右兇行ニ使用スヘク前
 記拳銃ノ貸與方ヲ求メラレ次テ右二十七日朝被告人留雄ヨリ決行ニ先タチ右拳銃ノ試射ヲ爲スヘキ
 コトヲ促サレテ之ニ同意シ右拳銃ヲ携ヘテ共ニ前記ノ日堂則義居住ノ邸宅ニ赴キ其ノ庭園内ニ於テ
 被告人良勝自ラ二回ノ射撃ヲ爲シテ發射ノ確實ナルコトヲ確メタルコトアリ又同日夕刻被告人留雄
 カ該拳銃ヲ携ヘテ東京驛ニ到リ濱口首相ヲ邀撃セントシタルモ偶々同首相ノ下車ニ先タチ皇族殿下
 ノ下車セラレタルヲ知り恐懼ノ餘決行ヲ果サスシテ前記葵ホテルニ歸リタル後同被告人ヨリ右顧末
 ノ報告ヲ受ケタルコトアリシカ其ノ後同年十一月九日頃前項記載ノ如ク右葵ホテル内ニ於テ被告人
 留雄ヨリ同首相カ來ル十四日午前九時東京驛發ノ列車ニテ出發西下セントスルニ際シ同驛ニ於テ愈
 同首相ノ殺害ヲ決行スヘキ意圖ナル旨ヲ告ケラレ次テ同月十三日深更右葵ホテル内ニ於テ被告人留
 雄ヨリ右兇行ニ使用スル爲前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之

ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シ乍ラ同被告人ニ對シ右拳銃(實包六發裝填)ノ藏置
 シアル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ前項記載ノ
 犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

タルモノナリ

檢事ハ濱口雄幸ハ昭和六年八月二十六日死亡シタルカ其ノ死因ハ左上腹部放線狀菌病ニシテ同病ハ同
 人カ昭和五年十一月十四日東京驛頭ニ於テ被告人佐郷屋留雄ノ爲ニ加ヘラレタル空腸損傷ノ爲腸内ヨ
 リ漏出セル放線狀菌カ脾臟附近膜面ニ附著シテ發生セルニ因リテ起レルモノナルニヨリ本件ハ殺人既
 遂ヲ以テ論スヘキモノナリト主張スルニ付按スルニ抑一定ノ行爲ト一定ノ結果トノ間ニ刑法上ノ因果
 關係アリト云ハンカ爲ニハ該行爲ヨリ該結果ノ發生スルコトカ日常經驗上一般ナルコトヲ要スルモ
 ノニシテ該結果ノ發生カ全ク偶然ナル事情ノ介入ニ因ル稀有ノ事例ニ屬シ常態ニアラサルトキハ刑法
 上因果關係ナキモノト解スルヲ相當トス然リ而シテ濱口雄幸カ昭和六年八月二十六日放線狀菌病性左
 側橫隔膜下膿腸竝之ニ繼發セル隣接諸臟器ノ罹患ニ因リ死亡シタルコトハ鑑定人緒方知三郎ノ作成ニ
 係ル鑑定書及原審第四回公判調書中證人鹽田廣重ノ供述記載ニ依リ明ナレトモ右死亡ノ直接原因ヲ爲
 セル病竈ノ形成ニ働キタル放線狀菌カ被告人佐郷屋留雄ノ加ヘタル銃創ニ因ル空腸穿孔ヲ通シテ腸内
 ヨリ腹腔内ニ漏出シタルモノニシテ斯クノ如キハ日常經驗上一般ナルナリト認ムヘキ證據ナク却テ鑑定

人清野謙次同緒方知三郎ノ作成ニ係ル各鑑定書ニ依レハ斯ル感染例ハ極メテ稀有ノ事例ナルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ結局被告人佐郷屋留雄ノ判示所爲ト濱口雄幸ノ死亡トノ間ニハ刑法上ノ因果關係ヲ認メ得サルニ歸ス

法律ニ照スニ被告人佐郷屋留雄ノ判示所爲ハ刑法第九十九條第二三三條ニ被告人松木良勝ノ判示所爲ハ同法第九十九條第二三三條第六十二條第一項ニ各該當スルヲ以テ被告人佐郷屋留雄ニ對シテハ其ノ所定刑中死刑ヲ選擇シテ處斷シ被告人松木良勝ニ對シテハ其ノ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ從犯ナルヲ以テ同法第六十三條第六十八條第二號ニ則リ法律上減輕ヲ施シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八年ニ處シ尙同被告人ニ對シ同法第二十一條ニ依リ原審ノ未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中豫審ニ於テ證人中村嘉三郎熊瀬鐵丸垣崎憲吾丸山敏治大村豊吉佐郷屋岩雄ニ給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人佐郷屋留雄ノ負擔トシ豫審ニ於テ證人小川身治(第一、二回)小川義夫樋口美津雄酒田征時辻敬山本昇三木場眞一加藤重兵衛大手重太郎大濱忠太郎細島長吉(第一、二回)原審公判ニ於テ證人清野謙次鑑定人緒方知三郎清野謙次ニ給シタル分ハ同法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ從ヒ被告人兩名ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人中川孝太郎上告趣意書第一點第一審裁判所ハ上告人佐郷屋留雄カ東京驛ニ於テ濱口雄幸ヲ射撃シタル行爲ヲ以テ殺人ノ既遂ナリト認定シ之ニ死刑ヲ科シタリ辯護人等ハ其ノ事實認定ハ採證ノ原則ニ違反シ不當ナル旨ヲ以テ原審ニ於テ論說シタル結果原審ハ佐郷屋ノ行爲ヲ以テ殺人未遂ナリト認定スルニ至レルモ尙ホ之ニ死刑ヲ科シタリ殺人ノ未遂ニ對シ死刑ヲ科スト減輕スルトハ元ヨリ裁判所ノ自由ニ屬スト雖然カモ實際上極メテ稀有ノ事ニ屬ス死刑ヲ科スニ付テノ論議ハ幾多アリト雖要スルニ(一)其ノ行爲カ極メテ兇惡ナルコト(二)犯人ノ性質カ極メテ殘猛ナルコト(三)犯人ノ生存カ社會ノ不安ヲ招クコト等ヲ主ナル理由トセサルヘカラス辯護人ハ決シテ死刑廢止論者ニ非ス之ヲ適當ニ用フレハ利益アル制度ニシテ古來一般ニ採用セラレ今尙ホ多クノ國ニ於テ實行セラルル處ナルニ徴シ一片ノ空理ヲ以テ廢スヘキニ非スト信スルモノナリ然レトモ之ヲ本件佐郷屋ノ行動ニ照シ其ノ犯行カ殺人未遂ニ終リシニ拘ラス尙ホ之ニ死刑ヲ科スヘキモノナリヤヲ研究セシニ一、上告人ノ殺人行爲ハ拳銃ヲ以テ濱口雄幸ノ腹部ヲ唯一回射撃シタルニ止マリ強大ナル鈍器ヲ用ヒ或ハ銳利ナル刀劍ヲ以テ被害者ニ慘害ヲ加ヘタルニ比シ決シテヨリ以上兇惡ナリトハ言ヒ難シ元

ヨリ生命ニ危険ヲ及ホスコトハ均シクシテ甲乙ヲ分ツ能ハサルヘク又苦痛ノ多少ノ如キハ到底區別スルコト難カルヘシト雖拳銃發射カ特ニ一般兇惡ナル殺人手段ナリト云フハ當ラス二、犯人ノ性質ハ決シテ特ニ犷猛ナリト云フヘキ徵證ナシ犯人ハ不幸ニシテ父母ノ恩愛ニ浴スルコト淺ク他人ノ手ニテ養育セラレタルコト多カリシモ其ノ本性ハ極メテ醇良ナリシナルヘシ少シモ社會ノ惡風ニ感染スル處ナク純潔眞ニ愛スヘキ性格ヲ露出シ普通人ナラハカカル生立ニ遇ヒテハ必スヤ不良性ヲ多分ニ具フルニ至ルヘキニ反シ前記ノ性格ヲ有スル事ハ其ノ本性ノ非常ニ優秀ナルニ依ラスンハアラス三、犯人ハ前記ノ如キ性質ヲ具ヘ猥リニ兇猛ナル行爲ヲナスヘキモノニ非ス唯熱烈ナル愛國ノ至情ニ出テ不得止シテ本件ノ犯行ヲ敢テシタルモノナリ少シク其ノ事情ヲ述ヘンニ本件事實ノ發生ノ原因ハ元ヨリ單ナルモノニ非スト雖其ノ尤モ重要ナリシモノハ彼倫敦條約ノ締結ニ在リ此ノ條約タルヤ軍人タルト常人タルトヲ問ハス直接國家海軍力ノ消長ニ關スルコト至大ナレハ何人モ憂慮措ク能ハサルモノアリシニ拘ラス當時ノ政治家ハ專門海軍軍人(海軍軍令部及軍事參議官會議ノ結果等)ノ發表シタル倫敦條約ハ我海軍力ヲ弱クスルモノナリトノ意見ヲ無視シ内閣ハ國防ノ責任ヲ負フモノナリト宣言シ軍令部ノ意見ヲ參照セスシテ何故カ我々ニ不利ナル海軍軍縮條約ヲ締結シ愛國ノ士ヲシテ痛根止ム能ハサラシメ其ノ幾多ノ陳情忠言其ノ他ノ行動ヲ顧ルコトナク遂ニ御批准ヲ奏請スルニ至リ其ノ間統帥權ノ干犯ノ問題ヲ生シ舉國騒然或ハ草刈少佐ノ自殺トナリ或ハキヤツスル問題ヲ惹起シ其ノ他世情甚タ穩カナラ

サルモノアリ辯護人ノ如キモ此ノ儘ニテハ此ノ不平ノ氣ハ遂ニ如何ナル危險ヲ惹起スルヤヲ憂慮シタルコトアリ然ルニ久シカラスシテ銃聲一發遂ニ濱口雄幸ヲ東京驛頭ニ倒シタルモノアリ辯護人ハ當日朝品川驛ヨリ乗車シ兇行ノ數分前東京驛ニ著シ事務所ニ向フ際コトアリタルカ爲今尙ホ追憶シテ長嘆之ヲ久シクセサルヲ得ス幸ニシテ鹽田博士ノ治療效ヲ奏シ一旦本復シタルモ放射狀菌ノ爲遂ニ立ツ能ハサリシハ同氏ノ爲ニ哀悼ニ堪ヘサル所ナリ本件ノ事實右ノ如シ上告人ハ至誠國ヲ愛シ我海軍力ノ薄弱ハ我國運ノ全部ニ波及シ恐ルヘキ結果ヲ來スコトヲ憂フルヤ甚深ナルモノアリ然ルニ濱口其ノ他ノ政治家ハ之ヲ憂フルノ模様ナキノミカ軍人ノ權勢ヲ刪減スルニ汲々トシテ國難ノ來ルコトヲ知ラスコレ上告人カ痛憤ノ極此ノ舉ニ出テタルモノニシテ眞ニ同情ニ堪エス彼ハ何等ノ私利ヲ營ムニ非ス私慾ヲ充サントスルニ非ス一身ヲ以テ國家ヲ救ハントスルモノニシテ其ノ動機ノ美シキコト比スヘキモノナシ濱口雄幸ハ當時ノ内閣總理大臣ナリ然レトモ海軍力ヲ縮少シ國家ノ利益ヲ省ミス黨勢ノ擴張ノミニ熱中シ眞ニ政治家トシテノ價值ヲ疑ハシムルコトハ今日ノ現狀ニ於テ尤モ良ク顯ハルルニ非スヤ過般行ハレタル海軍大演習及大觀艦式ニ際シテ吾人ノ感慨ハ果シテ如何ナリシソ又其ノ直前ニ行ハレタル防空演習ニ於テ吾人ハ如何ナル結論ヲ得タリヤ其ノ答ニ曰ク敵飛行機カ我帝都ノ大空ニ現ハルル時ハ帝都全滅ノ時ナリ宜シク海上ニ在リテ完全ニ之ヲ防カサルヘカラスト海上ニ在ツテ空襲ヲ防クニハ海軍ノ動作ニ待タサルヘカラス而シテ海軍力ハ英米ノ口舌ノ威力ノ爲ニ先年既ニ倫敦及華盛頓ニ

於テ屈從シタル後ナリ六割ノ兵力ヲ以テ大海ノ上ニ十割ノ敵ト戰フ豈ニ必勝ヲ期スヘケンヤ今ニ至リテ切齒慷慨スルモ既ニ遲シ元ヨリ我ニ忠勇ナル將士アリト雖六ヲ以テ十ニ勝ツヘシト要求スルハ到底忍フ處ナランヤ今日カカル狀勢ニ至レルコト抑モ何人ノ罪ナリトスヘキカ假リニ濱口一人其ノ責ヲ負フテ死シタリトスルモ豈ニ之ヲ以テ満足スヘケンヤ國家目前ノ危急ハ濱口如キモノノ死ニ依リテ何等償ハルル處ナシ横濱港ニ於テ式ヲ拜觀シタル者ニシテ英米ニ屈從シタルコトヲ遺憾ニ思ハサリシモノソレ幾何ナリシソ海軍大演習防空演習ノ結果ヲ深ク御研究アラハ佐郷屋ノ行動カ愛國ノ至誠ニ出テタルコト一點ノ疑ナク又彼ノ滿洲事變ノ勃發ニモ重大ナル關係アリ血盟團ノ蹶起スル又元ヨリ愛國ノ至情ニ出ツル社會ヲ震憾シタル五・一五事件ノ發生モ亦倫敦條約其ノ他政黨內閣ノ軟弱外交ニ主因ヲ有スルコト今日ニ在リテハ明々白々ノ事實ニシテ上告人佐郷屋ハ偶々此等政治ノ腐敗ヲ天下ニ暴露シ國民ニ對シテ警鐘ヲ亂打シタルモノナリ一、二審裁判所共之ニ擬スルニ死刑ヲ以テシタル如キハ天下後世夫レ之ヲ何トカ評スヘキ辯護人ハ貴院カ眞ニ佐郷屋被告ノ心情ヲ洞察シ斯カル愛國ノ志士ニ對シテハ充分ノ御同情ヲ以テ刑訴法第四百十二條ニヨリ改メテ擬律アランコトヲ懇請スト云ヒ」被告人佐郷屋留雄辯護人平松市藏 角岡知良 林逸郎上告趣意書第一點原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ刑事訴訟法第四百十二條ニ該當スル違法アルモノ也原判決ハ其ノ理由第一ノ後段ニ於テ「被告人佐郷屋留雄ハ昭和五月十一月十四日午前八時三十分實包六發裝填

ノ拳銃ヲ携ヘテ東京驛ニ至リ濱口首相ノ來ルヲ待チ受ケ同首相ノ上腹部ヲ狙ツテ一發射撃シタル爲彈丸ハ同首相ノ下腹部ニ命中シ腹壁ヲ貫キ腹腔内ニ於テ空腸五箇所ヲ貫通シ尙空腸間膜其ノ他ヲ損傷スルニ至リタルモ殺害ノ目的ヲ遂クルニ至ラス」ト判示シ以テ被告ノ行爲ニ對シ殺人未遂ノ事實ヲ認定シ刑法第九十九條第二三條ヲ適用シタリ然ルニ其ノ主文ニ於テハ「被告人ヲ死刑ニ處ス」ル旨ヲ判決シ殺人既遂罪ノ最高罪惡タルモノト同一ナル極刑ヲ科シタルハ不當背理ノ量刑也以下其ノ理由ヲ開陳スヘシ抑々未遂犯ニ付テハ犯罪及刑罰ノ基本觀念ニ基キ立法上種々ナル主義アリト雖我刑法ハ原則トシテ之ヲ罰セサルモノトシ其ノ之ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ特ニ之ヲ規定スヘキモノト爲シタリ而シテ其ノ之ヲ罰スル場合ト雖任意未遂ハ刑ヲ減輕シ又ハ免除スヘク障礙未遂ハ單ニ刑ノ減輕ヲ爲シ得ルニ止メタリカクノ如ク我刑法カ任意未遂ト障礙未遂トヲ區別シ前者ニ付テハ法律上當然刑ヲ減輕シ又ハ免除スヘク後者ニ付テハ裁判官ノ自由裁量ニ委シタルハ全ク犯人ノ主觀的意識狀態ノ如何ヲ基準トスルモノニシテ犯罪ノ結果ヲ基準トスルモノニ非サルヤ勿論ナリ即チ任意未遂ノ場合ニ在リテハ犯人カ悔悟其ノ他ノ事由ニヨリ犯意ノ中止撤廢ニヨリ結果ノ發生ヲ防止シタル爲未遂トナルモノナレハ未遂トナレル事由ハ全ク犯人ノ主觀的意識狀態ノ變更ニ在ルモノナリ然ルニ障礙未遂ノ場合ニ在リテハ犯意ニハ何等ノ變更ナク未遂トナル事由ハ全ク犯人以外ノ客觀的事情ニ因ルモノナリ此ノ如ク未遂カ犯人ノ主觀的方面ニヨル場合ハ刑罰カ法律上當然ニ輕減セラレ又ハ免除セラレ又未遂カ犯

人以外ノ客觀的方面ニヨル場合ハ單ニ裁判官ノ諸般ノ情狀ニヨル自由裁量ニ依リテ減輕セララルニ過キサルモノト爲ル之ヲ要スルニ右ノ區別ニヨリテ比較考覈スルトキハ刑罰ノ輕重ハ結局犯人ノ主觀的方面ヲ基準トシテ決定セラルヘキモノナル事ヲ知ルニ足ルト共ニ此ノ如キ律意ハ我刑法ノ根本條件トシテ存スルモノナルコトヲ明認スルヲ得ヘシカクノ如ク刑法典ノ法文上又刑法ノ根本精神上未遂犯ニ於ケル刑ノ輕重ヲ以テ一ニ犯人ノ主觀的方面ヲ基準トシテ之ヲ決スヘキモノトナス以上本件ノ如キ障礙未遂ノ場合ニ於テモ其ノ刑罰ヲ輕減スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ一ニ犯人ノ主觀的方面即チ被告人佐郷屋ノ動機犯意等ヲ國家的社會的道德的ニ檢討吟味シ以テ被告人佐郷屋ノ行爲ノ價值ヲ嚴正ニ批判シ未遂減輕ヲ行フヘキヤ否ヤヲ決定セサルヘカラサル也果シテ然ラハ被告人佐郷屋ノ犯罪ノ動機犯意其ノ他ノ主觀的狀態ハ未遂減輕ヲ行フニ足ラサル極惡非道ナル無價值ノモノナルヤ否ヤ深ク之ヲ考察スルヲ要ス原審ハ被告人佐郷屋ノ犯罪動機其ノ他ノ主觀的狀態ニ付テ判示シテ曰ク「被告人佐郷屋留雄ハ昭和四年濱口内閣ノ成立以後東京市内外各所ニ於テ政友會院外團主催ノ下ニ開催セラレタル不景氣打開演說會ヲ聞キ或ハ政友會ヨリ發行セラレタル「パンフレット」其ノ新聞雜誌等ノ論說ヲ閱讀シテ濱口内閣ハ金解禁ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲組閣當初ノ聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥ナル事態ヲ惹起スルモノナリト信シ同内閣ヲ更迭セシメサルヘカラストノ念ヲ有スルニ至リタルカ前記岩田愛之助被告人松木良勝其ノ他ノ愛國社同人等ニ接近シテ其ノ持論ヲ聞キ且ツ其ノ後引續キ深刻ナル不景氣ノ爲

失業者倒産者犯罪者等簇出スル世相ヲ見ルニ及ンテ益々同内閣ノ施政ニ對スル不滿ノ情ヲ強メツツアリシ一面倫敦條約ニ關シ外交軟弱統帥權干犯等ノ諸問題相踵テ起ルヤ被告人佐郷屋モ亦政教社ノパンフレット「統帥權問題詳解」及「賣國的回調案ノ暴露」等ヲ讀ミ以上ノ諸問題ニ付濱口内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮少條約ヲ締結セルハ之レ我カ外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ惹テ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果云々ト是ニ由リテ之ヲ觀レハ原審ハ被告人佐郷屋ノ犯罪ヲ以テ全ク憂國慨世ノ志ヨリ出タル公憤ノ結果ナルコトヲ認定シタルモノ也而カモ斯ル公憤ハ果シテ總テノ減輕ニ値セス其ノ判決ノ如キ極刑ヲ以テ臨マサルヘカラサル無價值ノモノナリヤ如何惟フニ總テノ減輕ノ基本ヲ形成スル犯罪行爲ノ價值判定ノ標準ナルモノハ實ニ犯罪行爲ノ決意ヲ促セル動機及其ノ犯罪行爲ニヨリテ生シタル結果ノ二者ナルコトハ言フ俟タヌ而テ未遂犯ニ於テハ我刑法ハ客觀主義ヲ採ラスシテ主觀主義ヲ採リタルコト前述ノ如クナル以上我刑法ノ下ニ於テハ未遂犯ノ行爲價值ハ一ニ犯人ノ動機ニヨリテ決定セラルヘキモノナリ今原審ニ於テ認メラレタル前示被告人佐郷屋ノ動機ヲ考察スルニ被告人佐郷屋ハ全ク私利私慾ヲ去リテ私憤ヲ交ヘス日本國民トシテ日本國家ノ現在及ヒ將來ヲ憂慮スル公憤ニヨリ一身ヲ挺シテ國家ノ爲ニ蹶起セルモノナルコト明ナリ唯其ノ認定中若干政黨的色彩ヲ帶フルカ如キ點ナキニ非サルモ是レ白璧ノ微瑕ニシテ爲ニ憂國ノ志士タルコトヲ失フモノニ非ス即チ

被告人佐郷屋ノ行爲及其ノ動機ハ之ヲ國家道德ヨリ觀察スルトキハ寧ロ大ニ賞讃ニ値スルモノト謂ハサルヘカラス加之社會的ニモ將又道德的ニモ日本國ヲ中心トシ其ノ愛國心ヲ基準トスル限リ何等非難ヲ容ルヘキ缺陷ノ存スルアルヲ見ス凡ソ國民ノ本務ハ盡忠至誠ノ愛國心ヲ持シ之ヲ宣揚スルコトニ在ルハ日本國家ヲ否定スル非國民ニ非サル限リ之ヲ否定スル者アラサルヘシ而シテ被告人佐郷屋カ弱冠白面ノ一寒生ナルニモ拘ラス能ク我國體ノ精華タル皇室ヲ尊崇シ公私ノ道義觀念ヲ辨別シ且ツ國家的理性ノ批判ヲ誤ラサリシコトハ被告人佐郷屋ノ犯行後始ト同一ノ動機ニ基ケル所謂血盟團又ハ五・一五事件ノ續出セル點ヨリ觀ルモ明也尙又之ヲ左ノ事實ニ依リテ觀ルモ右被告人ノ皇國精神ノ一斑ヲ明認スルニ足ルヘキモノアリ則チ(一)昭和五年十月二十七日被告人佐郷屋カ濱口首相ヲ暗殺センカ爲東京驛ニ至リ首相ノ傍近ク僅カ三尺ノ地點ニ至リタル所 皇族(宮殿下)ノ下車アルヲ知り直ニ犯行ヲ中止シタル事實(豫審及公判調書)(二)被告人佐郷屋ハ濱口首相ノ死ニ對シ私情ニ於テ忍ヒサルモノアリト爲シ濱口首相ノ一周忌ニ際シテハ獄中ニ於テ私カニ哀悼ノ意ヲ表シ喪ニ服シタルノ事實(原審公判供述)(三)被告人佐郷屋カ獄中ヨリ提出シタル第二審裁判所宛上申書ハ右被告人カ何等ノ參考書ヲモ有セスシテ倫敦條約ニ關スル極メテ明確ナル批判ヲ爲シタル事實(此ノ事實ハ陸海軍ノ將校等ヲシテ感奮興起セシメ遂ニ特別辯護人ノ任ニ當ランコトヲ申請スルニ至ラシメタルモノナリ)斯ノ如ク被告人佐郷屋ノ犯行ノ動機ハ國家道德ヨリ觀テ賞讃ニ値スルモノアルニモ拘ラス殺人ノ重大犯人トシテ

其ノ罪ヲ問ハルル所以ノモノハ其ノ善美ノ動機ヨリ招來セル行動カ全ク非合法的手段ニ依リテ實現セラレタルコトニ在ルカ故ニ右被告人ノ刑事責任ハ此ノ非合法的手段タル濱口首相ノ暗殺ノ行爲ニ局限セラレ而モ其ノ行爲ノ刑法的價值ハ私利私慾私怨ニ出テタル殺人犯ノ如キ無價值ナルモノニ非ラサル特質ヲ有ス此ノ國家道德的犯罪ハ彼ノ所謂貧民ヲ匡救センカ爲ニスル義賊孝養ヲ竭クサンカ爲ニスル盜犯者ノ如キ私的犯罪ト比較シ其ノ行爲ノ價值性ニ於テ同日ノ談ニ非ス故ニ濱口首相ノ死モ亦單ナル私的無價値的ノ横死ニ非スシテ將士カ戰場ニ於テ斃レタルカ如キ極メテ有意義ナル國家的犠牲者タルモノナリ於是被告人佐郷屋ノ行爲ノ價值ヲ決定シ量刑ノ基準タルヘキ動機ヲ評價スルトキハ正ニ未遂減輕ヲ受クヘキモノナルコトハ刑法未遂犯ノ規定及其ノ精神ニ照シテ明ニシテ而モ更ニ進ンテ法ノ許ス限リノ酌量減輕ヲ受クヘキ資格ヲ有スルモノナリ然ルニ原審ハ前示判決ノ如ク未遂減輕ノ規定及其ノ精神ヲ無視シ單ニ與ヘラレタル自由裁量ノ權限ヲ形式的機械的ニ運用スルニ止マリ未遂減輕ハ勿論極刑タル死刑ヲ以テシタルハ蓋シ刑法ヲ正當ニ運用セサルモノニシテ從テ刑ノ量定甚ダシク不當背理ナルモノト云フヘク當然破毀ヲ免レサルモノト思料スト云ヒ一 同第二點原判決ハ更ニ他ノ方面ヨリ視テ第一點ト同一ノ不當量刑ニ陷レルモノト思料ス即チ第一點ハ主トシテ未遂犯ノ規定タル刑法第四十三條及第四十四條ノ規定及其ノ規定ノ精神ヲ根據トシ且ツ原審ノ認定シタル事實ニ依リテ被告人ノ犯

罪カ未遂減輕及ヒ酌量減輕ヲ受クヘキモノナルコトヲ演繹シタルモノナリ然レトモ本論點ニ於テハ主トシテ犯人以外ノ諸般ノ事實及事情ヨリ歸納シテ裁判ノ公正ト威信トノ爲ニ未遂其ノ他ノ減輕ヲ爲ササルヘカラサル所以ヲ論結セント欲スルモノナリ抑モ我國史ヲ按スルニ上代ニ於テハ惟神ノ精神ニ依リ總テノ刑罰ハ板ニヨリテ行ハレ其ノ後支那法制ノ輸入ニヨリ極惡非道ノ者ニ對スル死刑ノ制起リタリサレト其ノ後幾何モナク奈良朝ニ入ルヤ其ノ制ハ聖武天皇ノ時代ヨリ以後勅宣ヲ以テ廢セラレ爾來數百年ノ久シキニ互リテ死刑ヲ行ハス然ルニ源賴朝幕府ヲ開キテヨリ武家法制現ハレ其ノ刑罰ハ漸次ニ峻嚴トナリ豊臣秀吉ノ一錢切ニ至リテ其ノ極點ニ達シ德川幕府ニ至リテモ其ノ度ヲ弛メス殊ニ幕府ニ反抗スル政事の犯罪ニ對シテ概ネ死刑ヲ以テセリ明治維新トナリテ王政古ニ復スルヤ刑制モ亦漸次ニ寬トナリ死刑ノ制ハ未タ廢セララルニ至ラスト雖磔、梟、斬等ノ極刑ノ階段ハ廢セラレ唯單ニ絞ノ一種ノミトナレリ斯クノ如ク我國ノ刑制ハ霸道政治タル武家政治ノ苛酷ナル刑罰ヲ除キテハ寬容仁慈ヲ以テ國民ヲ愛撫スル精神ニ基キ死刑ノ如キ極刑ハ極惡非道ノ者ニ限ラレタルナリ是レ我カ國體カ神制ノ一大血族國家ニシテ上皇室ヲ本崇トシ萬民ヲ其ノ一族トスル一君萬民ノ制ヨリ必然的ニ招來セラルヘキモノナリ之ヲ近時ノ實例ニ徵スルモ死刑ハ大逆犯人強盜殺人私怨ノ爲ニスル恩人殺害其ノ他慘虐ナル數人殺害ノ如キ極惡非道ナル犯人ニ對シテノミ科セラレ私利私慾私憤ニ出テタルニ非サル殺人犯ノ如キ者ニ對シテ科セラレタルコトナシカノ東京市政ノ中心ヲ成セル巨傑星享ヲ殺害シタル伊庭

想太郎原首相ヲ斃シタル中岡良一ノ如キモ皆既遂ナルニモ拘ラス死刑ヲ科セラレタルモノアラヌ更ニ進テ目下審理中ニ屬シ未決ノモノタルトハ言ヘ我國體ト相容レサル異端思想タル共產主義者ノ首魁三田村某カ官人ヲ殺傷シタルニモ拘ラス第一審ニ於テハ死刑ヲ科セラレサルヲ見ル然ルニ獨リ被告人佐郷屋ノ犯行カ前例ノ數者ニ比シ其ノ情狀輕キモノ少クトモ重シト斷スルコト能ハサルモノナルニモ拘ラス之ニ對シ死刑ヲ以テ臨ミタルハ刑ノ權衡ヲ失シ裁判ノ公正ト威信トヲ害スルハ勿論我國刑罰發展ノ史的過程ヲ逆轉セシメ武家政治ノ苛刑制度ニ復歸セシメタルモノト謂フヘシ更ニ均シク死刑ヲ科セラレタル極惡非道ノ大逆犯人殘虐ヲ極メタル幾多ノ殺人犯人ト本件被告人佐郷屋トヲ比較シテ其ノ罪質ヲ考フルトキ誰カ又其ノ不公平ナルニ驚カサル者アラシヤ被告人佐郷屋ノ犯行ハ強盜殺人ヨリモ惡行非道ナリト謂フニ至リテハ我々日本國民ノ法律感情ハ果シテ不安ヲ感セシテ之ヲ許容シ得ルヤ實ハカカル人々ノ法律感情ト公平ノ觀念ノ要求トハ既ニ死刑ニモ幾多ノ階段ヲ設ケシメ斬ヨリ梟、磔、鋸引、火烙、釜煮等ノ酷刑ニ至ラシメ以テ犯情ニ適應スル刑ヲ科シ而シテ刑ノ公正ヲ維持シテ人々ノ法律感情ヲ満足セシメタルモノナリ是レ各國ニ於ケル死刑制度ノ發展史カ雄辯ニ證スル所ノモノナリ更ニ現代ニ於ケル死刑制度論ト其ノ立法狀態トニ付テ之ヲ觀ルトキハ學說トシテハ死刑制度ハ之ヲ廢止スヘシトノ議論著シク擡頭シ來リ之カ通有思想トナリタルハ世人ノ周ク知ル所ニシテ又此ノ思想カ立法ノ上ニ實現シ來リ今ヨリ約六十年前西曆一八六三年白耳義カ刑法ノ條文ヨリ死刑ノ文字ヲ

刑ノ適用ニ關スル標準 未遂減輕酌量減輕ト刑ノ量定 先例ト刑ノ量定

除キ去ツテ以來るゝまにや、ぼるとがる、諾威、ちゝすととりや、でんまるく、ふいゝんらんど(濠洲)ノ諸國及瑞西ノ一部、亞米利加ノ一部(八州)ニ於テモ之カ廢止ヲ見タルコトハ人ノ知ル所也死刑制度ニ對スル輓近ノ大勢斯クノ如クナルニモ拘ラス此ノ大勢ニ逆行シ被告人佐郷屋ニ對シテ前例ナキ死刑ヲ科スルカ如キハ甚シク刑ノ量定ヲ誤レル不當ノ處置ナリト謂フヘシ又轉シテ現代ニ於ケル刑罰觀念ニ思フ致ス時ハ被告人佐郷屋ニ對スル死刑ノ言渡ハ倍々背理不當ナルコトヲ知ルヘシ即チ現今ノ刑罰觀念ニ於テハ刑罰ハ反座ニ非ス又復讐ニ非スシテ全ク犯人ヲシテ改過遷善セシメテ以テ社會改良ニ資スルニ在リ換言スレハ特別豫防カ刑罰ノ本格ニシテ一般豫防ハ刑罰ノ主ニ非ラス此ノ基本觀念ニ基キテ文明諸國ノ刑政大ニ行ハレ獄制ノ改善進歩シタルモノアルコトハ之レ亦周知ノ事實ナリ此ノ刑罰觀念ト其ノ實現トハ論理的必然ノ結果トシテ死刑ヲシテ最極限ニ縮少セシメ死刑ハ不俱戴天の極惡非道ノ殺人ニノミ已ムコトヲ得スシテ科スル最極例外的ノ刑罰タラシムルナリ然ルニ原審ハ此ノ刑罰觀念ノ通則ニ違背シ被告人佐郷屋ニ對シテ死刑ヲ科セルハ刑罰ノ基本法則ヲ無視セルモノト謂フヘシ惟フニ原審ハ以上ノ如キ死刑制度ノ大勢刑罰ノ根本觀念ヲ知ラサルニ非サルヘシ即チ能ク之ヲ知レリト雖モ尙近時澎湃トシテ起レル暗殺主義(テロリズム)ノ蔓延ヲ虞レ只管ニ之ヲ防遏センコトヲ圖リ所謂刑事政策的ニ被告人佐郷屋ノ犯行ニ付原諒スヘキ幾多ノ情狀アルヲ顧スシテ死刑ヲ言渡シタルモノナルヘシ果シテ然ラハ是レ甚タシキ短見ト謂ハサルヘカラス凡ソ國政ノ腐敗墜落ニ際シテ憂國慨世ノ士カ

蹶起シ其ノ因素ヲ成セル領袖又ハ官人ヲ斃スカ如キコトハ是レ畢竟血湧キ肉躍ル多血果敢ノ士カ一身ヲ挺シテ國事ニ捧クルモノニ外ナラサレハ之ニ對シテ死刑ヲ以テ臨ムモ素ヨリ何等ノ效果アルヘキモノニ非ラス單ニ其ノ犯人ノミニ對シテ效果ナキノミナラス一身ヲ抛チテ國政改造ノ爲ニ捨石トナル政事的犠牲犯人ヲ防遏スルニ足ラサルモノタルヤ勿論ナリト是レ我カ國幕末ニ際シ彼ノ安政ノ大獄ニ於テ吉田松陰 賴三樹三郎等數人ヲ梟シ一般人ニ大ナル警告ヲ與ヘタルニモ拘ラス次テ櫻田門ノ變坂下門ノ變トナリタル事實ニヨリテ觀ルモ更ニ又血盟團 五一五事件ノ相次テ起レル我國現下ノ狀勢ニ照ラシテ觀ルモ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘキニアラスヤ凡ソ社會ノ腐敗墜落ニ際シテ公憤ヲ發シ非合法的破壊的ナル直接手段ニ依リテ社會ヲ矯正セントスル運動ノ起ルモノナルコトハ古今東西ノ歴史ヨク之ヲ證明セリ殊ニ我民族ハ尊皇愛國ノ精神ニ富メルヲ以テ皇室ヲ蔑視シ國家ヲ荼毒スルカ如キ非國民的行動ヲ敢テスル者アル場合ニ於テ官憲能ク之ヲ彈壓懲罰スルコトナキニ於テハ憂國ノ志士簇出スルヲ以テ例ト爲スカカル場合ニ於テ公憤ニ依リテ起テテ爾者ヲ悉ク死刑ニ處スルモ到底之カ輩出ヲ防止スルコト能ハサルノミナラス却ツテ國民的感情ヲ激發シテ治安ヲ危態ニ導ク虞アリ蓋シ憂國慨世ノ士ハ「我レ國事ヲ憂ヒ愛國ノ精神ニ燃エ上天皇ニ奉スル犠牲者ナリ」トノ深キ確信ノ下ニ起ツモノナレハナリ故ニカカル國家的暗殺主義ヲ完全ニ防遏セントセハ政治家其ノ他ノ經世家カ須ラク國家社會ノ缺陷ヲ矯正シ以テ國民ノ公憤ノ原因ヲ除去セサルヘカラス斯ノ如クセスシテ單ニ結果的刑罰ヲ以テ之

ヲ防止セントスルカ如キハ其ノ尾ヲ見テ未タ其ノ首ヲ見サル皮相ノ見ナリ段鑑遠カラス之ヲ幕末ノ志士ニ對スル刑政ニ見ルコトヲ得ン即チ幕府ハ尊皇攘夷ノ士ニ對シ常ニ嚴刑ヲ以テ之ニ臨ミタルモ安政ノ志士、櫻田門ノ志士、阪下門ノ志士相次テ蜂起シ大磐石ノ如ク自信シ居タル幕府モ僅カ十年ヲ出テスシテ一大崩壞ヲ遂ケ王政復古ノ大業立所ニ成レルニ非ラヌヤ彼ノ一般豫防主義ノ下ニ於ケル刑事政策ナルモノカ斯クノ如キ國士ニ對シ少クトモ國士ヲ以テ任スル者ニ對シ何等ノ效果ナキコト洵ニ明瞭ナリトス以上諸般ノ社會的事實ヲ考察シ之ニヨリテ歸納的ニ究明スルモ亦被告人佐郷屋ニ對スル原裁判所ノ死刑宣告ハ徒ラニ一般國民ノ正義公正ノ感情ヲ刺戟スルニ止マリ條理上不當背理ノ量刑ナリト謂ハサルヘカラス則チ原判決ハ此ノ原由ニヨルモ亦破毀ヲ免レサルモノニシテ從ツテ被告人ニ對シテハ懲役刑ノ選擇ヲ以テ相當ト思料スルモノ也ト云ヒ被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人鶴澤總明上告趣意書第四點原判決ハ被告人留雄ヲ殺人未遂罪ニ問擬シ之ヲ死刑ニ處シタリ然レトモ死刑ハ我刑法ニ於ケル極刑ニシテ之ヲ科スルニハ(一)其ノ動機ニ惡ムヘキモノアリ(二)其ノ手段方法ノ殘虐ナルコト(三)被告人ノ性質極惡非道ニシテ到底濟フ能ハサルモノナルコトヲ要ス然ルニ被告人留雄ノ本件犯行ヲ決意スルニ至レルハ濱口内閣ハ金解禁ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲組閣當初ノ聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥ナル事態ヲ惹起シ極度ノ緊縮政策ハ益々不景氣ヲ招來シ失業者倒産者犯罪者等簇出シ被告人留雄カ斯カル世相ヲ見ルニ及ンテ益々同内閣ノ施政ニ對スル不滿ノ情ヲ強メツツアル際一面倫敦條約ニ關シ

外交軟弱統帥權干犯等ノ諸問題起ルヤ被告人留雄ハ以上ノ諸問題ニ付濱口内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈伏シ軍備縮少條約ヲ締結セルハ之レ我外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ惹テ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ憤激ノ結果遂ニ本件犯行ヲ爲スニ至レルモノナルコトハ原判決ノ認ムル所ニシテ濱口内閣ノ緊縮政策時機ヲ誤マレル金解禁ハ一部黨人及財閥ヲ除キテハ之ニ反對シ倫敦條約ハ國礎ヲ危フスル屈辱的條約ニシテ其ノ兵力量決定ニ對スル大權ヲ干犯セルモノトシテ之又一部黨人財閥ヲ除キテハ未タニ一般國民ノ憤慨スル所ニ係リ純眞ニシテ愛國ノ至誠燃ユルカ如キ被告人留雄トシテハ無力ノ悲サハ合法的ニ之ヲ破毀スルノ力ナク已ムニ已マレヌ盡忠至誠ノ進リハ遂ニ本件ヲ生スルニ至ラシメタルモノニシテ其ノ直接行動ニ出テタルハ遺憾トスルモ一身ヲ犠牲ニシテ國難ヲ救ハントシタル其ノ心情ニ至ツテハ大ニ同情スヘキモノアリ而モ被告人留雄ハ昭和五年十月二十七日東京驛ニ於テ濱口首相ヲ狙撃セントシ首相ノ身邊三尺ノ地點ニ近付タルニ拘ラス偶々 宮殿下ノ御降車アルヲ見 殿下ヲ御驚シ奉ルノ不敬ナルヲ思ヒ之ヲ中止シ次ニ本件犯行ノ當日濱口首相ニ一彈ヲ見舞ヒ次テ第二彈ヲ發セントシタルモ他人ニ命中スルヲ虞レ之ヲ中止シタル事實及被告人留雄ハ濱口首相ノ死ニ對シ私情ニ於テ忍ヒサルモノアリトナシ濱口首相ノ一周忌ニ際シテハ獄中ニ於テ私カニ哀悼ノ意ヲ表シ喪ニ服シテ之カ冥福ヲ禱リタル事實ハ記録上明白ニシテ其ノ純情愛スヘク被告人留雄ノ本件犯行ハ其ノ動機ニ於テ毫モ惡ムヘキモノナク

其ノ性質極惡非道ノモノニアラサルノミナラス其ノ手段モ亦毫モ殘虐性ノ認ムヘキモノ存スル所ナシ
 裁判ハ公正無私ニシテ其ノ量刑ノ如キモ權衡ヲ維持シ被告人ノ心事當時ノ事情ニ依リテ之ヲ決スヘキ
 モノニシテ其ノ人ニ依リ之ヲ二、三ニスヘキモノニアラス曾テ東京驛頭原首相ヲ倒シタル中岡良一ハ
 殺人既遂ニシテ猶且極刑ヲ免レ近クハ共產黨事件ニ於テ警察官ヲ狙撃シ重傷ヲ負ハシメタル某被告モ
 亦第一審ニ於テ極刑ヲ免カル然ルニ獨リ其ノ動機ニ於テ其ノ性質ニ於テ毫モ惡ムヘキモノナキ憂國ノ
 志士被告留雄ニ對シ強盜殺人犯人ニシテ其ノ未遂ナルニ於テハ容易ニ科セラレサル死刑ヲ以テ臨ムハ
 量刑ノ權衡ヲ得タルモノト謂フヲ得ス況ヤ該行爲ハ未遂ナルニ於テヤ仍テ原判決ニ於テハ未遂減刑
 及酌量減刑ヲ爲シ寛大ナル處分アルヘキヲ相當トスルモノナルニ事茲ニ出テサリシハ科刑著ク不當ニ
 シテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云ヒ」被告人佐郷屋留雄辯護人林逸郎上告趣意書第一點第二審判
 決ハ被告人佐郷屋留雄ヲ死刑ニ處シタリ按スルニ被告人佐郷屋留雄カ事案ニ於ケルカ如キ行爲ヲ敢行
 スルニ至リタル所以ノモノハ恩怨ノ情ニ驅ラレタルニアラス利害ノ慾ニ迷ヒタルニアラス第二審判決
 カ其ノ理由ニ於テ判示スルカ如ク「倫敦條約ニ關シ外交軟弱統帥權干犯等ノ諸問題相踵テ起ルヤ被告
 人亦政教社ノ「パンフレット」「統帥權問題詳解」及「賣國的回訓案ノ暴露」等ヲ讀ミ以上ノ諸問題ニ付
 濱口內閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮少條約ヲ締結セルハ之レ我カ外交ノ一大汚
 辱ニシテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ惹テ國家ノ存立ヲ危ク

スルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果遂ニ自己ノ一身ヲ塔シ時ノ內閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺害セ
 ント決意シ」タルニ因ルモノニシテ公憤ト云ハサル可カラス義憤ト斷セサル可カラス惟フニ單ナル私
 憤怨憤ニ發シタル行爲ナリト雖モ殆ント常ニ酌量減輕ノ恩典ニ浴スルアルヲ見ルニ當リ獨リ此ノ公憤
 義憤ノミニ發シタル事案ニ對シ國家ノ情法律ノ涙タル酌量減刑ノ寛容ヲ示ス能ハストスルノ理由果シ
 テ何レノ所ニ存スルヤ即チ第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ真正日本人ノ盡忠報國ノ赤誠ヲ無視シ罪
 者猛罰ノ峻嚴苛酷ナルニ出テタルニ於テ著シク失當ナルモノアリト云ヒ」同第二點畏クモ 明治天皇
 ハ明治元年十二月七日「賞罰ハ天下ノ大典朕一人ノ私スヘキニアラス宜シク天下ノ衆議ヲ集メ至正公
 平毫釐モ誤ナキヲ決スヘシ」ト御詔勅ヲ下シ給ヒ錦旗ニ刃向ヒ多數ノ官兵ヲ殺傷シタル會津藩主松平
 容保ノ死一等ヲ減セシメ給ヒタリ唯一人ノ臣容保ノ生命ニサヘ斯クノ如キ寛大慈仁ノ有難キ御沙汰ヲ
 垂レ給ヘルナリ蒼生ヲ御軫念遊ハサル御窺慮恐懼ニ堪ヘサルナリサレハコソ三千年金甌無缺ノ我國
 體ノ變革ヲ企劃シ私有財産制度ヲ根本ヨリ否認シ國土ト國民トヲ舉ケテ「ソビエツトロシア」ノ治下ニ
 投センカ爲其ノ異體同心タル「コンミンテルン」ヨリ資金ヲ仰キ指令ヲ受ケ黨ヲ組ミテ反逆スル非國
 民賣國奴ニ對シテサヘモ一人トシテ之ヲ極刑ニ處セントハセス徐ニ臨ムニ感化遷善ヲ以テシ所謂思想
 ノ轉向ヲ待テタルニアラスヤ知ルヘシ慈悲仁愛至ラサルナキハ即チ日本法律ノ寛容ナリト 天皇ノ御名
 ニ於テ宣言セラルル裁判ハ實ニ夫レ斯クノ如シ然ルニ何ソヤ獨リ被告人佐郷屋留雄ノミニ對シテハ決

シテ然ラス其ノ動機ハ統帥權ヲ干犯シ樞密院會議ヲ欺瞞シタル大奸ヲ斃シ以テ正氣尙神州ニ存スルヲ明ニスルト共ニ不戰屈敵ノ條約ヲ締結シタル責任者ヲ屠リテ來ルヘキ太平洋戰ノ血祭ニ擧ケ以テ祖國ヲ泰山ノ安キニ擁護セントスル崇高ナル道義ニ出テ其ノ結果ハ僅ニ殺人未遂ニ終リタルニモ拘ラス之ニ科スルニ冷血無慈悲ナル死刑ヲ以テセントハ即チ知ル第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ日本法律ノ直髓ヲ忘レ畏クモ 明治天皇ノ御詔勅ノ有難キニ感泣スル所ナカリシモノノ如ク眞正日本人ノ情操カ斷シテ許容スル能ハサル失當アリト云ヒ 同第三點刑法第四十三條ニ於テ「犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得」ト規定シ刑法第六十六條ニ於テ「犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得」ト規定シタリ從テ行爲未遂ニ終リタルトキハ當然刑一等等ヲ減輕セラル可ク情狀憫諒スヘキモノアルトキハ當然亦更ニ刑一等等ヲ減輕セラル可シトハ何人ト雖之ヲ確信シテ疑ハサル所ナリ即チ國民ノ此ノ法律ニ對スル認識ハ「得」ヨリ發展飛躍シテ「要ス」ニマテ到達シタリト斷スルモ過言ニアラス此ノ故ニ被告人佐郷屋留雄カ殺人未遂ニシテ尙且死刑ニ處セラレタリトノ報一度傳ハルヤ辯護人等ニ對シ「國體ヲ擁護セントシテ行爲偶々法ニ觸レタルモノニシテ當然酌量減輕ヲ受クヘキニ拘ラス之ニ對シ死刑ヲ課シタルハ如何ナル法律ニ準據スルヤ」又ハ「殺人未遂罪ニシテ尙且之ヲ死刑ト爲スカ如キ惡法ハ果シテ何レノ國ノ法律ナリヤ」等ノ問合セ頻々ト來リタリ以是觀之モ日本國民ノ法律常識ハ被告人佐郷屋留雄ニ對シ死刑ヲ宣告シタル第二審判決カ刑ノ量定ニ

於テ著シク不當ナリトノ不同意ヲ明確ニシタルモノナルヲ斷スルニ足ルト云ヒ 同第四點刑法第九十九條ハ「人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス」ト規定シタリ即チ等シク殺人罪ナリト雖其ノ個々ニ付如何ナル人カ如何ナル人ヲ如何ナル場合如何ナル理由ニ依リテ殺シタリヤ審理究明シ其ノ事情如何ニ依リ或ハ輕ク三年ヲ以テ處斷シ或ハ重ク死刑ヲ以テ處斷スヘキヲ明示シタリ公明正大一點ノ私心ナキ純一無雜ノ青年カ高位ニ座スルモノ朝廷ノ尊嚴ヲ蔑ニシ國家爲ニ危シト確認シ殺身爲仁ノ一撃ニ出テタルカ如キニ對シ處斷ノ輕重果シテ何レニ據ルヲ恰當ナリト爲スヤ言ヲ要セサルナリ高士山鹿素行士道論ニ於テ説テ曰ク「聖人君子ハ輕重ヲ能ク辨ス輕重ト云フハ君父兄弟ハ我カ爲ニ重ク臣子弟幼婦ハ我カ爲ニ輕シ天下國家ハ身ヨリモ重ク視聽言動ハ心ヨリモ輕シ此ノ輕重ヲ詳ニ究理スルトキハ惑此ニ止ムヘシ其ノ故ニ生死ノ場此ノ一刹那ニアリト云フトキ君ノ爲又ハ人ノ爲其ノ外重キモノノ爲ニ害アラシニ於テハ速ニ死シテ顧ルヘカラス」ト被告人佐郷屋留雄ノ心事洵ニ茲ニ在リ之ヲ審判スルモノ豈一掬ノ涙ナクシテ可ナランヤ果シテ然ラハ第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ道義國日本隨一ノ精華タル武士ノ情ヲ知ラサリシモノト云フヲ得可ク從テ其ノ失當ナルヤ論ヲ俟タスト云ヒ 同第五點第一審判決ハ其ノ理由ニ於テ「(前略)右拳銃ヲ以テ同首相ノ上腹部ヲ狙ヒテ一發射撃シタル結果彈丸ハ同首相ノ下腹部ニ命中シ空腸其ノ他ヲ損傷シテ體內ニ止リ其ノ際右空腸內ニ存セシ放線狀菌其ノ他ノ雜菌ハ右銃創ニ基ク穿孔ヨリ腹腔內ニ漏出シタル爲放線狀菌病性左側橫隔膜

下膿瘍(即チ左側横隔膜下ニ於ケル放線狀菌病性化膿性限局性腹膜炎)竝之ニ續キテ隣接諸臟器ノ罹患ヲ惹起シ因テ同首相ヲシテ昭和六年八月二十六日東京市小石川區小日向水道町百八番地ノ自宅ニ於テ死亡セシメ」ト判示シ被告人佐郷屋留雄ヲ死刑ニ處シタリ茲ニ於テ被告人竝ニ辯護人等ハ適法ノ控訴ヲ爲シタリ然リ而シテ第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「(前略)拳銃ヲ以テ同首相ノ上腹部ヲ狙ツテ一發射撃シタル爲彈丸ハ同首相ノ下腹部ニ命中シ腹壁ヲ貫キ腹腔内ニ於テ空腸五箇所ヲ貫通シ尚空腸間膜其ノ他ヲ損傷スルニ至リタルモ殺害ノ目的ヲ達スルニ至ラス」ト判示シナカラ依然トシテ被告人佐郷屋留雄ヲ死刑ニ處シタリ按スルニ刑事訴訟法第四百三條ハ「被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス」ト規定シタリ右ハ被告人竝ニ被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタルモノヲシテ控訴シタリシヨリモ寧ロ第一審判決ニ服シタルノ優レルヲ悔ユルカ如キ矛盾ナカラシメントスルノ趣旨ニ出テタルモノニシテ日本法律ノ美シキ情合ナリト云ハサル可カラス本件事案ニ於テ之ヲ見ルニ第二審判決ハ其ノ刑ニ於テハ第一審判決同様死刑ヲ言渡シタルモノナルニ因リ敢テ第一審ヨリ重キ刑ヲ言渡シタリト斷スルコトヲ得サレトモ其ノ理由ヲ檢討スルニ第一審判決ニ於テ殺人既遂ト認定セラレタル同一事實ハ第二審判決ニ於テハ殺人未遂ト認定セラレタリ果シテ然ラハ第二審判決ニ於テハ第一審判決ヨリモ犯狀遙カニ輕キコトヲ認定シタルモノナルニ依リ刑モ亦之ニ準シテ輕減セラレサル可カラサルヤ事理當然ナリ然ルニ拘ラス敢テ其ノ事ナ

シ斯クテハ控訴シタルカ爲ニ却テ犯狀ト刑トノ均衡ヲ失シ爲ニ以テ刑ノ言渡カ第一審判決ヨリモ第二審判決ニ於テ著シク苛酷トナリタリトノ非難ヲ免ルル能ハス即チ第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ滿腔ノ信賴ヲ法律ニ捧ケントスル國民ノ情操ニ挑戰シタルニ於テ著シク失當アリト云ヒ」同第六點史實ニ就キテ精査スルニ舊刑法制定以來刺客ニシテ未タ曾テ死刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアルヲ見ス其ノ殺人未遂ナルモノハ素ヨリ其ノ殺人既遂ナルモノト雖之ニ對シ死刑ヲ以テ臨ミタルハ斷シテ其ノ事例ヲ見ルコト能ハサルナリ然リ而シテ茲ニ被告人佐郷屋留雄ニ於テ始メテ死刑ヲ宣告セラル而モ事ハ未遂ニ屬シ因ハ統帥權ヲ干犯シ畏クモ御前會議ヲ詐リタル大奸ヲ排除セントスル崇高無限ノ忠誠ニ基ク爰ンソ斯ク冷酷無慘ナル課刑ヲ以テスルノ所以アラシヤ左ニ前例ヲ列舉シテ至公至平ノ判斷ヲ俟タントス

(イ)板垣退助(未遂)刺客相原尙裴、相原尙裴ハ板垣退助ノ總理タル自由黨ハ自由民權ノ擴張ヲ主張シ其ノ赴ク所皇室ノ尊崇ヲ忘ルルモノナリト爲シ明治十五年四月六日板垣退助カ岐阜縣厚見郡富茂登村神道中教院ニ於ケル自由黨懇親會ヨリ退席スルニ際シ敬送ノ體ヲ示シテ接近シ短刀ヲ揮ヒテ其ノ胸部ヲ刺シ暗殺ヲ企テタルモ遂ケス明治十五年六月二十八日岐阜重罪裁判所ニ於テ無期徒刑ニ處セラル

(ロ)露國皇太子(未遂)刺客津田三藏、露國皇太子ニコラス・アレキサンドロウツチ我邦ニ來遊ス明治二十四年四月二十七日長崎ニ著シ各地ヲ巡覽シテ同年五月十日大津ニ來遊シ遊覽ヲ終リテ歸途護衛巡查津田三藏拔刀シテ頭部ヲ斬ル鮮血淋漓タリ車夫之ヲ阻止シテ既遂ニ至ラサルヲ得タリ朝野爲ニ

震駭シ明治天皇即夜御出門遊サレ該皇太子ヲ京都及ヒ其ノ軍艦ニ御見舞遊サル時ノ内閣津田三藏ヲ死刑ニ處センコトヲ強要シタルモ大審院長兒島惟謙儼然トシテ之ニ屈セス之ヲ無期徒刑ニ處シ司法權ノ危機ヲ救ヒタリ後世其ノ操守ヲ賞セサルモノナシ(松方正義内閣ニテ司法大臣ハ山田顯義ナリ)(ハ)李鴻章(未遂)刺客小山六之助、日清戰爭終リ媾和條件ヲ議スルカ爲メ李鴻章馬關ニ來ル明治二十八年二月二十四日李鴻章談判所ヲ出テテ旅館ニ引上クル途上小山六之助拳銃ヲ以テ李鴻章ヲ狙撃シ顔面ヲ傷ケタルモ死セス明治二十八年三月三十日山口地方裁判所ニ於テ小山六之助ヲ無期徒刑ニ處セリ伊藤博文内閣ニテ司法大臣ハ芳川顯正ナリ)(ニ)星亨(既遂)刺客伊庭想太郎、星亨剛慢ニシテ所思ヲ斷行シテ顧ミス殊ニ東京市會ヲ操縦シテ私アリ明治三十四年六月二十二日東京市會議事堂ニ於テ執務中伊庭想太郎ノ爲メ短刀ヲ以テ刺殺サレタリ當時奸ヲ誅シタリトノ聲アリ明治三十四年九月十日東京地方裁判所ハ伊庭想太郎ヲ無期徒刑ニ處シタリ(桂太郎内閣ニシテ司法大臣ハ清浦奎吾ナリ)(ホ)原敬(既遂)刺客中岡良一、大正七年九月二十九日政友會總裁原敬寺内内閣ノ後ヲ享ケテ内閣ヲ組織ス議會ヲ解散シテ絶對多數黨トナリ力ニ頼ミテ他ヲ顧ミス大正十年十一月黨務ノ爲メ京都ニ赴カントシテ東京驛ニ至ル中岡良一之ヲ改札口ニ要シ短刀ヲ揮ヒテ刺殺ス東京地方裁判所之ヲ無期懲役ニ處シタリ(加藤友三郎内閣ニテ司法大臣ハ岡野敬次郎ナリ)(ハ)濱口雄幸(未遂)刺客佐郷屋留雄、佐郷屋留雄カ濱口雄幸ヲ拳銃ヲ以テ狙撃シタルハ昭和五年十一月十四日ニシテ其ノ狙撃シタル部位ハ生命

ニ對スル危險比較的少ナキ下腹部ナリ從テ濱口ハ昭和六年三月七日鹽田 溝淵 眞鍋三主治醫ノ全快シタリトノ進言ヲ受ケ同月十日宮中ニ參内シ病氣全癒ノ御禮ヲ言上シ畏クモ優詔ヲ拜シ即日内閣總理大臣ニ復シタリ然ルニ驚クヘシ昭和七年四月二十二日東京地方裁判所ハ之ヲ殺人既遂ナリト認定シ死刑ノ宣告ヲ爲シ更ニ昭和八年一月二十四日東京控訴院ハ之ヲ殺人未遂ト認定シ乍ラ尙ホ且死刑ノ宣告ヲ爲シタリ以上ノ諸事例ヲ比較研究スルキトハ被告人佐郷屋留雄ニ對スル課刑ハ刑法制定以來ノ珍事ニシテ右五事件ニ比シ無慈悲無道極マレルモノト謂フヘシ特ニ所謂大津事件ト比スルトキ輕重大小天地宵壤ノ差アリト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ愛國者ヲ遇スルノ途ヲ辨ヘス爲メ八千萬國民ノ公敵タル孤城落日ノ中間支配階級ヲ擁護スルカ如キ結果ヲ招來シタルモノト斷スルヲ得ヘク其ノ失當ハ天人俱ニ宥スヘカラサル處ナリト云ヒ「被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人秋山高三郎 横田隼雄 菅野勘助上告趣意書第二點原審判決ニハ刑ノ量定甚シク過重ナリト思料スヘキ顯著ナル事由存ス原審判決ハ被告人留雄ニ對シ刑法第九十九條同第二百三條ヲ適用シ死刑ヲ以テ之ヲ處斷シタリト雖左ノ諸點ノ事情顯著ニ存スルニ不拘極刑ヲ科シタルハ量刑甚シク過重不當ナリト思料ス第一、情狀及未遂ノ酌量ヲ爲ササルハ不當ナリ被告人留雄カ本件ノ犯行ヲ爲スニ至リタル動機ニ關シテハ檢舉以來其ノ陳述一貫シ明白ナルトコロナリトス即チ昭和五年十一月十六日松坂檢事聽取書中三問、何故首相ヲ殺害スル考ヘニナツタカ、答濱口氏個人ニ對シテハ私ハ從來一面識モナク何

等ノ恩怨ハナイノテアリマシテ寧ロ謹嚴ナ真面目ナ方タト信シテ居リマス其ノ内閣ノ政策カ所謂緊縮政策ヲ金解禁以來不景氣深刻トナリ國民カ窮乏ニ陥リ生活難ニ苦シム者カ多ク斯ル政策ノ内閣ハ早ク倒壞サセナケレハナラヌ斯ノ内閣カ瓦解スレハ政黨政治ノ常道カラ第二黨タル政友會ニ行キ政友會カ内閣ヲ取レハ所謂積極政策ヲ行ヒ景氣モ恢復シ國民ヲ救フコトモ出來ヤウソレニツケテモ現内閣ヲ倒スニハ其ノ首班タル濱口首相ヲ暗殺スレハ他ノ閣員モ當然辭職スルテアラウト考ヘ濱口首相個人ニ對シテハ氣ノ毒テアリマスカ殺害スルト云フ考ヘカラ云々尙緊縮政策ノ問題ハカリテナクロンドン條約ニ於テ國民一般カラ七割ノ比率ヲ要求シテ居ルノニ六割ニ讓歩シタノハ之亦怪シカラヌ云々新聞紙ニ現ハレタ海軍軍人ノ談話ナトカラ見テモ六割テハ戰爭ノ場合ニ日本ハ非常ナ不利益ナ立場ニ立タネハナラヌ云々ト陳述シ豫審第一審及原審ニ於テモ亦同趣旨ノ供述ヲ爲セリ當時濱口内閣ノ採リタル緊縮政策及ロンドン海軍條約締結ノ結果及影響ニツキ國內ノ輿論ヲ回想シ之ヲ要約摘示スレハ一、財政ヲ極度ニ沈衰セシメタルコト二、我國產業ヲ極度ニ萎縮セシメタルコト三、前古未曾有ノ失業群ヲ發生セシメ日ヲ追フテ其ノ數ヲ累増セシメタリシコト四、國民ノ中堅タル農工商ノ勤勞階級ヲ驅ツテ生活苦ニ沈淪セシメタルコト五、財政ノ基礎ヲ動搖セシメタルコト六、以上ノ原因ニ基キ社會思想ノ險惡化ヲ來サシメタルコト七、ロンドン條約ノ六割讓歩ハ獨リ國防上ノ缺陷ヲ生シタルノミナラス統帥權ノ干犯ナリトシテ國民ノ憤慨スルトコロトナリ軟弱外交ノ弱腰ヲ暴露シテ屈辱的ニ英米ニ服從シタルコト

等ヲ擧クルコトヲ得ルト共ニ斯クノ如キ國內ノ情勢ナリシコトハ既ニ裁判上顯著ニシテ公知ノ事實ナリ獨リ被告人ノ妄信ニ非ラサリシナリ經濟政策ノ窮迫シタルハ豈只ニ我國ノミナラス所謂世界恐慌時代ヲ招來シアリタル時代ナリシト雖濱口内閣ノ政策ニモ亦以上ノ如キ失政上ノ責ヲ負フヘキモノ存シタルコトハ政變後ノ政策改變ニ伴フテ順次國內ノ輿論モ沈靜シ金ノ輸出再禁止失業對策產業政策思想對策等根本政策ヲ樹立セラレ國民ノ期待ニ添フ所以トナリシコト及國防上ノ缺陷ノ如キモ第六十四議會ニ於テ龐大ノ豫算ヲ可決シテ之ヲ補フトコロトナリタル等ヨリ觀テ明白ナリトス之等ノ事情ヨリ綜合考察スルトキハ被告人留雄ノ所信ハ正シカリシコトヲ知ルニ難カラス只ソノ手段ヲ誤リタルハ惜ミテモ餘アルトコロナリト雖憂國ノ至情ニ燃ヘタル被告人留雄ノ若サト血氣ニ驅ラレタル結果ニ外ナラスシテ之亦一掬ノ涙ヲ注クニ足ルヘキ同情存スルモノナリト云フヲ得ヘシ被告人ノ人格ニ關シテハ所謂殘虐狂暴性等ト云フカ如キモノナク昭和五年十一月十七日秋山豫審判事ノ訊問中三問ノ答ニ云々トシテ私ノ立ツテ居ル處カラ約二米ノトコロマテ來マシタトキ私ハ脱帽シテ少シ前方ニ身ヲカカメテ目禮ヲシテ云々及同十一月十六日松坂檢事ノ聽取書中五問ノ答ノ中ニ首相ノ下車ヲ待受ケマシタトコロ四時五十五分著ノ列車テ首相ハ到着セラレ私ハソノ一問許リ側ニ近ツキ狙撃シヤウカト思ヒマシタカ其ノ時ニハ別ノ箱(車輛)カラ何方カ存シマセヌカ 皇族殿下カ御降車ニナリ貴賓道ヲ御歩キニナツテ居ラレマシタノテ斯様ナ時ニ狙撃シテハ 皇族殿下ニ畏レ多イト考ヘ狙撃ヲ中止シ云々等ノ供述ア

ル等ヨリ之ヲ見レハ性格的ニ殘忍性狂暴性等絶無ノ人格所有者ナルコトヲ推知スルニ足ル加之公廷ニ於ケル被告人ノ言語態度等ハ大衆ノ力ヲ借りテ公判廷ニ於テ怒號シ紛争ヲ起スカ如キ共產黨一味ト自ラ異ナレルモノアリ罪ハ罪トシテ自ラ悔ユルニ躊躇スルトコロナク「國法ニ從フテ如何様ノ處斷モ甘ンシテ受クル」旨ヲ公廷ニ於テ陳述シタル等改悛ノ情顯著ナルモノアリ然ルニ原審判決ハ之等ノ情狀ヲ毫モ酌量スルトコロナカリシノミナラス被告人ノ行爲ヲ未遂ニ認定シタルニ不拘之亦何等量刑上減輕ヲ爲ササリシハ頗ル當ヲ得サルトコロナリトス濱口首相ノ死因ハ被告人留雄ノ行爲ト何等因果關係ナキ事實ヲ認定シタル以上ハ被告人ノ行爲ノ責任モ亦之以上ノ範圍ヲ超ユルモノニ非ス素ヨリ我刑法ハ第四十三條ニ於テ未遂犯處分ニ關シ減輕スルコトヲ得ル旨ノ規定存シ居リ裁判官ノ自由ナル裁量權ニ任シタル法意ノ如シ然リト雖本件ノ如クソノ情狀ニ於テ客觀的事情ノ存在シタルコト又右ノ如ク被告人ノ人格並主觀的事情ノ明白ニ存在スルニ不拘情狀ノ酌量モ未遂ノ減輕モ二ツナカラ之ヲ排斥スルカ如キコトハ之等裁判上ノ酌量未遂減輕ノ法意ヲ曲解シ或ハ無視シタルモノニ非サルカヲ疑ハシメ更ニ若シ本件ノ如キ事犯ノ再ヒ繰返サルルコトノアルヘカラスアルコトヲ念慮シテ右情狀酌量未遂減輕ヲ爲ササリシモノナランニハソノ謬見之ヨリ大ナルハナシト云ハサルヘカラス第二、死刑ハ刑罰ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス文明ノ進歩ハ刑事改新ノ氣運ヲ促シ近世ノ刑法ハ進ンテ死刑ノ廢止ヲ要求シツツアリ即チ死刑ハ一度之ヲ行フコトニ依リテ再ヒ回復スルコト能ハサルモノナリ刑罰ノ目的ハ犯人ノ改

悛ト社會ノ防衛ニ存スルモノナリ今若シ死刑ヲ科シタリトスルモ既ニ犯人ニ改悛遷善ノ機會ヲ與フルヲ得ス從テ刑罰ノ目的ハ達セラレサルニ等シク然ラハ刑罰ハ宗教道德ノ感化力ヨリモ劣ルト云フヲ得ヘシベカツリヤ曰ク殺人ノ行爲ヲ罰センカ爲法律自身殺人ノ行爲ヲ爲スハ奇怪ナリ人民ヲシテ暗殺ノ行爲ヲ爲ササラシメンカ爲法律自身之ヲ示スニ公然タル暗殺ヲ以テスルハ是豈刑法自ラ刑法ヲ殺スモノニ非スヤ又伊太利刑法カ死刑ヲ廢止シタル理由ノ一節ニ死刑ハ其ノ本體ニ於テ最モ殘虐ナル一犯罪……同胞ノ生命ヲ奪フノ罪ヲ模擬スルモノナリ而シテ死刑ハ畢竟吾人ノ最良ナル感情ヲ壓迫スルモノニシテ殺人的癡狂ノ増狂ヲ招ク以外何等ノ益ナシ(花井博士刑法俗論)ト謂フニ在リテソノ論旨寔ニ明快ナリト云ハサルヘカラス刑法ハ殺人ノ行爲ヲ罰シ更ニ自ラ死スル者ノ幫助ヲモ罰シアルニ不拘尙刑法ハ死刑ヲ採用シ居ルカ如キ事ハ矛盾撞著ノ感ナキニ非ス人ノ生命ハ如何ナル國家社會ト雖之ヲ恣ニ奪フヘカラスアルハ人類ノ最高道德トシテ之ヲ否定シ得ヘカラス況ンヤ目的主義特別豫防主義ニ依ル現下ノ刑罰理論ニ依ルトキハ死刑ハ到底刑罰ノ目的ヲ達スルモノニ非サルコト論ヲ俟タス加之死刑ノ最大ノ目的タル威嚇ニ至リテハ政治犯及之等ニ關係スル犯罪人ニ何等ノ效顯ナキノミナラス社會的ニモ亦威嚇ニ依ル防衛的效力存スルモノニ非ラス何トナレハ彼等ハ自ラ國士的鬪士トシテ從容死ヲ怖レス國民モ亦之ヲ賞讃スルカ如キコト稀ナラス死刑ハ倫理道德宗教上ヨリハ勿論ノコト政治上ニ於テモ亦有害無價値ノ制度ナリト云フヘク死刑ニ代フルニ長期ノ刑ヲ以テシ犯人ノ遷善改悛ヲ爲ス機會ヲ

與フルコトハ行刑ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルノミナラス人道的、社會的ニ之ヲ觀察スルモ蓋シ最モ妥當ナルモノト云ハサルヘカラス殊ニ前言シタルカ如ク此種犯人ニ對シテノ死刑ハ何等ノ威嚇力ナシ然ラハ絶對的ニ刑罰ノ目的ヲ達スル所以ニ非サルヲ以テ被告人留雄ニ對シテ爲シタル原審判決ノ死刑ニ代フルニ長期ノ刑ヲ以テスルニ於テ始メテ刑罰ノ目的主義並特別豫防主義等ニ合致スル所以ナリト確信ス第三、凡ソ刑ノ量定ニ際シテハ諸般ノ事情ヲ公明正大ニ判斷シ最モ適正ナラサルヘカラスハ論ヲ俟タス同一事實ノ下ニ同一事情ノ犯罪アリタルカ如キ場合一ノ裁判所ニ於テハ科刑著シク重ク他ノ裁判所ニ在リテハ甚シク減輕セラレタリト云フカ如キ事アリテハ裁判ニ對シ著シク國民ノ信賴ヲ失フ事明白ナルヘシ或ハ又之ヲ犯罪ノ動機目的ノ點ヨリ觀テ國體ヲ變革シ國權ヲ否認シ私有財産制度ヲ否認スル結社ヲ組織シ團體行動ヲ以テ目的達成ノ爲直接行動ヲ計劃シタルカ如キ被告事件ニ付一ノ裁判所ハ科刑比較的輕ク之ニ反シ他ノ裁判所ハ例ヘハ國家ノ前途ヲ憂フルノ餘犯行ノ止ムヘカラサリシ事情ノ下ニ敢テ顯臣暗殺等ノ擧ニ出テタリトスルカ如キ事案ニ對シテ科刑著シク過重ナリシト云フ場合ニ在リテモ亦裁判ニ對スル國民の信賴ノ影響スルトコロ前述ノ如ク大ナリト云ハサルヘカラス如何トナレハ共產主義ニ對スル國民ノ呪咀的感情ト之ニ反スル愛國的感情トハ甚シク相異シ居ルコト明白ナルカ爲ナリ彼ノ國際的重大ナル影響ヲ及シタル津田三藏ノ露國ニコラス殿下傷害事件或ハ原敬氏ヲ東京驛ニ於テ刺殺シタル中岡良一等何レモ無期懲役ト爲リ最近ノ三・一五事件並四・一六事件等ノ首謀

者佐野學 鍋山貞親及三田村四郎ニ對シテ無期刑ニ過キサレ等各其ノ目的動機等ヲ比較考察スレハ被告人留雄ニ對シテ爲シタル原審判決ハ其ノ科刑甚シク過重ニシテ不當ナリト思料スヘキモノアリ以上諸般ノ事情ヲ綜合考覈スルトキハ原審判決ハ刑ノ量定甚シク過重ナリト信スヘキ顯著ナル事由存スト思料スト云ヒ」被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人松村喜三郎上告趣意書被告人佐郷屋留雄ニ關スル上告理由右被告人ノ殺人未遂被告事件ニ對シ原院ハソノ判決ニ於テソノ判示所爲ヲ刑法第百九十九條第二百三條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中死刑ヲ選擇シ處斷シタリ惟フニ被告人留雄ノ所爲ハ犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサルモノニシテ刑法第四十三條ニヨリ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得ヘキ犯情ニアリ勿論右未遂減輕ノ規定タル必スシモ法ノ強制スル處ニ非ス減輕スヘキヤ否ヤ一ニ裁判所ノ被告ノ全所爲ヲ綜合シ自由ノ心證ニヨリ裁量スヘキ所ナルコトハ之ヲ否定セサルモ本件ニ於テ被告ノ行爲中一點ノ酌量スヘキ犯情ナク何レノ點ヨリ見ルモ國家社會ノ存立ト相容レサルモノタルトキ極刑ヲ以テ永久ニ被告ヲ隔離セシムル事或ハ正鵠ヲ得タル處斷ナリト謂ハン然レトモ本件被告ノ行爲中凡テヲ否定シ去ラントスルモ被告ノ行爲カ一ニ愛國ノ至誠ニ發スルモノタル事ハ何人ト雖之ヲ認メサルヲ得サル所ナリト信ス被告人ハ被害者ニ對シ恩怨ノ情アルニ非ス只君國ノ隆昌ヲ庶幾ヒ一身ノ利害休戚ヲ顧ス良心ノ命スル儘身ヲ挺シテ國家安康ノ捨石タラン事ヲ企テタルモノニシテ吾國古來ノ淳風美俗トモ謂フヘキ武士道の犠牲心ハ被告ノ純情的行爲ノ内ニ歴然躍如タルモノアリ加之被告人ノ痛ク憂ヘ切ニ慨

セシ當時ノ類感スヘキ國情ニ就キ志アル日本臣民誰カ之ヲ被告人ト共ニ認メサリシヲ得ンヤ被告人ノ
 犯行ノ動機既ニ斯ノ如シ國家ハ之一滴ノ涙ヲ注カスシテ憂國至誠ノ青年ノ極刑ニ處セラルルヲ正視
 スル事ヲ得ン實ニ被告人ノ所爲ハ刑法第四十三條ニ照シ刑ノ減輕ヲ爲スヘキ當然且妥當ナル事情ニア
 リ斯クテコソ刑法第四十三條ノ規定ノ國家所定ノ一法條トシテノ存在意義アリ且國家具體的事情ニ則
 スル尊キ法ノ活用アリト謂フヘキナリ原院ノ處斷ハ上述ノ如キ犯情ヲ無視シタルモノニシテ極刑ヲ宣
 告シタルハ刑ノ量定甚シク不當ナリト謂フヘク茲ニ刑ノ減輕アラントヲ求ムルモノナリト云フニ在リ
 右所論ノ要旨ハ被告人佐郷屋留雄ノ本件犯罪ノ動機未遂減輕ノ本旨竝死刑ノ效果ヲ論シ且裁判實例ヲ
 引照シテ同人ニ對スル原審ノ量定甚シク不當ナリト認ムヘキ顯著ナル事由アリト爲スモノニ外ナラス
 仍テ案スルニ

(一) 凡ソ犯罪ヲ決意スルニ至リタル動機ノ實質ハ犯罪行爲ノ價值判定上重大ナル關係ヲ有スルモノ
 ナルカ故ニ刑ノ量定上犯罪ノ動機ニ付深甚ナル考慮ヲ拂ハサルヘカラサルハ勿論ニシテ殊ニ其ノ動機
 カ本邦固有ノ淳風美俗タル忠孝其ノ他ノ道義上又ハ公益上非難スヘキモノナリヤ將又宥恕スヘキモノ
 ナリヤハ刑ノ適用上特ニ參酌スヘキモノナルコト疑ヲ容レサル所ナリ然リト雖刑ノ輕重ハ必シモ犯罪
 ノ動機ノ一點ノミヲ標準トシテ抽象的ニ之ヲ論斷スヘキニ非ス更ニ犯人ノ性格被害者ノ地位犯罪ニ因
 リ法律秩序ニ及ホシタル影響ノ程度將來ニ於ケル豫防警戒上ノ關係其ノ他主觀客觀ノ兩方面ニ於ケル

【要旨第一】

諸般ノ情狀ヲ較量シテ各犯人ニ付個別的ニ之ヲ決定スルヲ正當ナリトス而シテ本件ニ於ケル犯罪ノ動
 機ニ付原判決ノ判示スル所ニ依レハ被告人留雄ハ濱口内閣カ金解禁ノ時機ヲ誤リ之カ爲組閣當初ノ
 聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥事態ヲ惹起シタリト信シ又深刻ナル不景氣ノ爲失業倒産者犯罪者等簇出ス
 ル世相ヲ見ルニ及ンテ益同内閣ノ施政ニ對シ不滿ノ情ヲ強メ尙軍備縮少條約ヲ締結シタルハ同内閣カ
 軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈從シタルモノニシテ我外交上一大汚點ヲ印シタルノミナラス兵
 力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シテ國防ノ安全ヲ脅カシ惹イテ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ
 痛ク憤激シタル結果内閣更迭ノ目的ヲ以テ濱口首相ヲ殺害センコトヲ決意スルニ至リタルモノニシテ
 其ノ公益ヲ慮リ國事ヲ憂ヒタル點ニ於テ犯罪ノ動機定ニ宥恕スヘキモノアリト雖他ノ一面ニ於テハ犯
 行ノ情狀頗ル重大ナルモノアリ蓋シ内閣總理大臣ノ職務タルヤ入りテハ大權ヲ輔弼スルノ重責ヲ有シ
 出テテハ國務總理ノ大任ヲ帶ヒ其ノ地位タルヤ至尊ノ御親任ヲ辱ウスル者ニ非サレハ之ニ在ルヘカラ
 ス其ノ極メテ樞要ノ國家機關タルコト敢テ一言ヲ要セス暴力ヲ以テ之ヲ動カサントスルカ如キハ忠誠
 ナル我國民ノ採ルヘキ途ニ非ス又社會上政治上ノ大問題ハ其ノ原因複雑ヲ極メ其ノ處理ノ影響至大ニ
 シテ國家ノ安危之ニ繫ルコトアリ之カ解決ハ一世ノ偉人ト雖一朝一夕ニシテ之ヲ能クスルコト能ハサ
 ルモノナシトセス而シテ斯ノ如キ重大問題ニ付テハ自ラ氷炭相容レサル反對見解ノ對立ヲ見ルコト數
 ノ免レサルトコロナリト雖何レモ均シク愛國憂世ノ赤誠ノ發露タルニ於テ異ナルトコロアルヘカラサ

ルカ故ニ假令内閣ノ施政ニ對シ不滿ヲ抱ケル者ト雖不法ノ手段ヲ以テ之カ倒壞ヲ圖ルカ如キハ其ノ判斷ノ當否如何ニ拘ラス決シテ假借スヘキ行爲ニ非ス況ンヤ社會上ノ知識經驗ニ之シキ者ニ於テ之カ爲ニ兇暴ナル犯行ヲ敢テスルニ於テヲヤ思フニ斯ル犯行者ノ性格社會的ニ危険ナルコト言ハスシテ明白ナリ而シテ之ヲ原判決ノ事實認定ニ徵スルニ被告人留雄ハ其ノ教育程度並經歷境遇ニ照シ未タ社會上政治上ノ見識經驗ニ富メリト認ムルコトヲ得サル者ナルニ拘ラス痛ク濱口内閣ノ施政及行動ヲ非ナリトシテ濫リニ之カ倒壞更迭ヲ圖リ其ノ目的ヲ貫徹スル爲内閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺害センコトヲ決意シ其ノ兇行ヲ敢テシタルモノニシテ被告人ノ犯行タルヤ其ノ動機ニ於テ國法上及道義上ノ非難ニ値シ且其ノ性格ノ兇暴ヲ徵表スルモノアリ又其ノ結果ニ於テ國法ノ威嚴ヲ損シ公共ノ秩序ヲ紊ルノ甚シキモノニシテ其ノ社會民心ニ及ホス影響著シキモノアリト謂フヘク乃本件犯行ハ其ノ情狀頗ル重ク其ノ罪責甚大ナルコト明白ナリ從テ彼ノ動機ノ一部面ノミヲ觀テ此ノ犯情罪責ノ重大性ヲ左右スルヲ得サルコト亦疑ヲ容レサルトコロナリトス由是觀之其ノ處分ノ最モ嚴重ナラサルヘカラサルハ素ヨリ當然ナリト謂フヘク若シ之ヲ寬ニスルコトアランカ法律秩序ノ安固ヲ害シ一般警戒ノ弛緩ヲ招クノ恐ナキニ非サルヘシ

【要旨第二】

(一) 未遂罪ニ付テハ所謂中止犯ノ場合ヲ除クノ外裁判上ノ職權裁量ニ依リ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得ルモノナルモ必然的ニ減輕ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非サルハ刑法第四十三條ノ法文上明白ニシ

テ多言ヲ要セサル所ナリ而シテ右職權裁量ニ關シテモ亦前段説明ニ係ル諸般ノ情狀ヲ參酌スヘキモノニシテ獨リ動機ノ一部面ノミニ依リテ之ヲ斷定スヘキモノニアラス酌量減輕ノ運用ニ付テモ亦同シ原判決ノ認定スル所ニ依レハ被告人留雄ハ濱口雄幸ヲ殺害スル意思ヲ以テ拳銃ヲ以テ之ヲ狙撃シテ重大ナル傷害ヲ加ヘタルモ殺害ノ目的ヲ達セサリシモノニシテ其ノ犯罪未遂ニ終レルモノナリト雖之ヲ以テ其ノ犯行罪責ノ重大性ヲ否定スヘキ限ニ在ラス然レハ原判決カ被告人留雄ノ本件犯罪ノ情狀ニ鑑ミ未遂減輕酌量減輕ヲ爲サリシコトヲ以テ不當ナリト爲スニ足ラス

(二) 死刑廢止ノ當否ハ立法上ノ問題タリト雖本刑罰ノ必要ヲ認メテ之ヲ採用シツツアル現行法ノ下ニ在リテハ之カ效果ヲ否定シテ其ノ適用ヲ非議スルヲ許スヘキモノニアラス但死刑カ極度ノ嚴刑タルニ鑑ミ其ノ適用ヲ慎重ニスルノ必要アルハ勿論ナリト雖敍上諸般ノ情狀ニ照シ犯行罪責重大ニシテ法律秩序ノ維持上已ムヲ得サルノ事情アル場合ニ於テハ斷乎トシテ此ノ極刑ヲ宣告スルコト實ニ刑法ノ精神ナリト謂ハサルヘカラス素ヨリ死刑ノ效果ハ必シモ絶對的ノモノニアラス即チ死刑ノ宣告ハ必シモ將來ニ於テ死刑ニ該ルヘキ重大犯罪ノ實現ヲ杜絶スルノ效果ヲ奏シ得ルモノニ非サルヘシト雖又此ノ種ノ犯罪ニ對スル警戒力ヲ絶對ニ否定スヘキモノニ非ス然レハ原判決カ本件犯行ニ付テ死刑ヲ科シタルヲ以テ甚シク不當ナリトスルニ足ラスト謂ハサルヘカラス

【要旨第三】

(四) 所論列舉ノ先例ヲ查スルニ多クハ舊刑法時代ニ屬ス就中殺人未遂ノ犯人ニシテ無期徒刑ニ處セラ

レタル者多キハ舊刑法ニ於テ未遂ノ刑ハ既遂ノ刑ニ一等又ハ二等ノ減輕ヲ爲スヘキコトヲ規定セル結果タルニ外ナラサレハ此ノ點ニ付舊刑法ト主義ヲ異ニスル現行刑法上ノ事案ニ關シ之ヲ以テ例證ト爲スハ當ラス又現行刑法施行後ニ於テモ所論ノ如キ事例ナキニ非スト雖元來刑ノ適用ニ付テハ前段ニ説示セル諸種ノ事項竝犯人ノ年齢及地位其ノ他一切ノ情狀ヲ參酌スルコトヲ要スルモノニシテ此等ノ情狀ハ事件ノ異ルニ從ヒ其ノ趣ヲ同ウセサルモノナルカ故ニ裁判所ハ敢テ所謂先例ニ拘泥スルトコロナク常ニ獨自ノ裁量ヲ以テ個別的ニ最モ適切ナル科刑ヲ爲スコト即チ刑法ノ精神ナリト謂フヘク所論先例モ亦之ヲ詳查スルニ於テハ必スヤ或ハ犯人ノ年齢境遇等ニ於テ或ハ被害者ノ地位其ノ他ノ關係ニ於テ本件ト多々其ノ趣ヲ異ニスルトコロアルヘキカ故ニ以テ範ト爲スニ足ラス要之以上何レノ點ヨリ觀察スルモ原判決ニハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得ス從テ上告裁判所ニ於テハ事實審理ヲ爲シ原判決ヲ破毀スルヲ得サルモノト論旨何レモ理由ナシ

被告人松木良勝辯護人林逸郎 角岡知良上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリト信ス左ニ其ノ理由ヲ述フヘシ被告人松木良勝ニ對シテ原判決カ認定シタル要旨ハ被告人ハ共同被告人タル佐郷屋留雄ヨリ昭和五年十一月十三日深更葵ホテル内ニ於テ濱口首相狙撃用ニ使用スル爲拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ其ノ情ヲ熟知シ乍ラ右佐郷屋ニ對シ拳銃ノ藏置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交附シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ右佐郷屋ヲシテ其ノ犯行ヲ容易ナラ

シメテ之ヲ幫助セリト言フニアリ其ノ餘ノ判示記載事實ハ犯行ニ至ル經過事情ノ敘説ニ過キス然ルニ被告人ハ豫審以來右事實ヲ全部否認シ殊ニ問題トナレル鍵ハ前示本箱抽斗用ノ鍵ニ非スシテ自宅ノ卓子ノ抽斗用ノ鍵ナル旨辯解シ來レルモノニシテ一審公判以來本箱用ノ鍵ナリヤ將タ又卓子用ノ鍵ナリヤ謎ノ鍵トシテ論争ノ焦點トナリタルモノナリ然ルニ原判決ハ問題ノ核心ニ觸レルコトヲ避ケ單ニ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交附シ云々ト判示シ本來孰レノ專用ニ屬スル鍵ナルヤノ謎ヲ解カス蓋シ原判決カ此ノ謎ヲ解カサルハ右ノ鍵ハ本箱ノ抽斗ヲモ又卓子ノ抽斗ヲモ同様ニ開披シ得可ク兩者ノ孰レノ專用ナルヤヲ判別スル能ハサリシニ因ルモノナラム(細島長吉第二回豫審調書)斯ルコトハ毫モ不可思議ニ非スシテ普通アリフレタル錠前ヲ有スル安價ナル西洋家具類ニ於テ往々發見シ得ル實例ナリ然レトモ苟モ被告人カ判示ノ如キ幫助ノ責任ヲ負擔スルニハ尠クトモ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ナルコトヲ認識シテ貸付シタル事實ナカル可カラス然ルニ此ノ點ニ關シテ原判決ノ採用セル證據ハ勿論其ノ他本件記録中之ヲ證明スヘキ何等ノ證據モ存在セス右ハ被告人カ刑事責任ヲ負擔ス可キ有無ヲ決定スル唯一無二ノ爭點ニシテ一審以來被告人ハ元ヨリ辯護人ニ於テモ極力論證辯明ニ努メタリシナリ然ルニ一審二審共ニ此ノ點ニ付多クノ注意ヲ拂ハスシテ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ極メテ遺憾ナリ一、本箱ノ抽斗用ノ鍵ハ元來存在セス右ハ當時右本箱ノ所有者タル證人山本岩雄豫審調書二十六問答及ヒ證人大濱忠次郎豫審調書七問答ノ供述記載ニヨリテ明瞭ナリ

二、本件ノ鍵ハ當時被告人自宅ノ卓子ノ抽斗用ノ鍵ニシテ本箱ノ抽斗用ノモノニ非ス右ハ原審裁判所
 カ一旦辯護人ノ申請ヲ却下シ再度ノ考案ニヨリ職權ヲ以テ喚問セラレタル證人大澤竹三郎同榮田三郎
 ノ證言ニヨリテ極メテ明白ナリ三、本件ノ鍵ハ偶然ニモ本箱ノ抽斗卓子ノ抽斗トノ雙方ヲ開披スル
 コトヲ得ルナリ右ハ錠前職メタル證人細島長吉ノ第二回豫審調書第四問答ニヨリ明白ナリ四、被上ノ如
 キ偶然ハ通常ノ錠前ヲ有スル安價ナル西洋家具類ニ於テ往々經驗セラレル所ナリ本件ノ本箱ト卓子ノ
 場合又同シ五、然レトモ被告人カ本件ノ鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗用ニ使用シタル事實ナク又證明ナシ右ハ
 佐郷屋留雄ノ第八回豫審調書第十及第十一問答ニヨリテ明白ナルノミナラス原告官ハ此ノ點ニ付何等
 ノ證明ヲ爲サス六、更ニ被告人カ本件ノ鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ナルコトヲ認識シタリト
 ノ證明ナシ原判決ハ佐郷屋留雄ノ第四回及第八回豫審調書ヲ證據トシテ採用シタルカ前者ノ供述記載
 中……自分ハ鍵ハ何處ニアルノカト例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトヲ尋ネタルニ松木ハアツチニ
 置イテアルト答ヘタリ……トアル例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトトハ佐郷屋ノ主觀ニ過キス
 シテ同人カ被告人ニ呼ヒ懸ケタル言葉ハ「鍵ハ何處ニアルカ」ノ數語ニ過キス單ニ之レ丈ノ客觀的事實
 ヨリ被告人カ拳銃ノ入り居ル抽斗即チ本箱ノ抽斗ノ鍵ナリト認識シタリトノ證明トナラス又後者ノ供
 述記載中……二度共鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗ヲ開ケ拳銃ヲ取出シタルカ右抽斗ハ鍵ヲ使ハサレハ開カス……
 トアルモ佐郷屋ハ一審公判廷以來右供述ヲ取消シタリ假ニ右供述ノ如クナリトスルモ被告人カ本件

ノ鍵ヲ以テ右抽斗ニ施錠シ又ハ之ヲ開披スヘキ鍵ナリト認識シタリトノ確證トナスニ足ラサル可シ要
 之被告人カ拳銃ノ藏置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ナルコトヲ認識シ而テ之ヲ佐郷屋ニ交付シタ
 ル事實アルニ非サレハ右拳銃ヲ貸與シ因テ以テ犯行ヲ容易ナラシメタリトノ結論ヲ生セス然ルニ此ノ
 重點ニ關シ明確ナル證據ナク寧ロ被告人利益ノ反證カ存在セルニ拘ラス判示ノ如キ認定ヲ爲シタルハ
 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アル場合ニ該當スルモノト信スルカ故ニ更ニ
 御廳ニ於テ事實審理ヲ爲シ原判決ヲ破毀シ無罪ノ判決アラントヲ求ムト云ヒ」被告人佐郷屋留雄及
 松木良勝辯護人鶴澤總明上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノナリ原判決ハ「被告
 人松木良勝ハ前記愛國社同人ナルトコロ昭和五年九月下旬頃前記岩田愛之助ヨリ小川身治ヲ介シ實包
 八發裝填ノモーゼル式八連發拳銃ノ交付ヲ受ケタル後東京市赤坂區田町二丁目十三番地ノ自宅又ハ前
 記葵ホテル内ノ愛國社事務所内本箱ノ抽斗ニ之ヲ藏置シテ保管シ來リタルトコロ前項記載ノ如キ被告
 人佐郷屋留雄ト略同様ノ理由ニ依リ濱口内閣ヲ更迭セシムヘシトノ意見ヲ抱懷シ居リタル折柄前項記
 載ノ如ク昭和五年十月二十三日夜前記自宅ニ於テ被告人留雄ヨリ同被告人カ濱口内閣倒壞ノ目的ヲ以
 テ時ノ内閣總理大臣濱口雄幸ヲ同月二十七日夕刻東京驛ニ邀ヘテ暗殺セントスル決意アル旨ヲ告ケラ
 レ且右兇行ニ使用スヘク前記拳銃ノ貸與方ヲ求メテ右二十七日朝被告人留雄ヨリ決行ニ先チ右
 拳銃ノ試射ヲ爲スヘキコトヲ促サレテ之ニ同意シ右拳銃ヲ携ヘテ共ニ前記ノ日堂川義居住ノ邸宅ニ赴

キ其ノ庭園内ニ於テ被告人良勝自ラ二回ノ射撃ヲ爲シテ發射ノ確實ナルコトヲ確メタルコトアリ又同日夕刻被告人留雄カ該拳銃ヲ携ヘテ東京驛ニ到リ濱口首相ヲ邀撃セントシタルモ偶々同首相ノ下車ニ先チ皇族殿下ノ下車セラレタルヲ知り恐懼ノ餘リ決行ヲ果サスシテ前記葵ホテルニ歸リタル後同被告人ヨリ右顧末ノ報告ヲ受ケタルコトアリシカ其ノ後同年十一月九日頃前項記載ノ如ク右葵ホテル内ニ於テ被告人留雄ヨリ同首相カ來ル十四日午前九時東京驛發ノ列車ニテ出發西下セントスルニ際シ同驛ニ於テ愈々同首相ノ殺害ヲ決行スヘキ意圖ナル旨ヲ告ケラレ次テ同月十三日深更右葵ホテル内ニ於テ被告人留雄ヨリ右兇行ニ使用スル爲前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ右拳銃ノ藏置シアル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ前項記載ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シト認定シタリ然ルニ被告人良勝ハ原院ニ於テ右幫助ノ事實ヲ否認スルヲ以テ本件記録ニ就キ(一)被告人良勝ハ被告人留雄カ眞實濱口首相ヲ暗殺スルモノト信シテ(二)判示拳銃ヲ貸與シタルモノナリヤ否ヤヲ調査スルニ(一)被告人良勝ハ被告人留雄カ濱口首相ヲ暗殺スルトノ點ニ付頗ル疑問視シ居ルタルモノナル事ハ(イ)被告人松木良勝第一回豫審調書ニ「一三問、佐郷屋留雄カ内閣倒壞ノ目的ヲ以テ内閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺害センコトヲ計畫シテ居タノカ答、佐郷屋留雄ハ内閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺ス決心テアル旨ヲ二三回私ニ申シタコトカアリマシタ併シ私ハ佐郷屋カ眞面目

ニ濱口首相殺害ノ計畫ヲシテ居ルモノトハ思ヒマセヌテシタ……一六問、其ノ際被告ハ佐郷屋カ眞面目ニ濱口首相ノ殺害ヲ企テ其ノ準備トシテ同首相ノ鎌倉ヘノ往復ノ道ヤ別莊附近ノ模様ヲ調ヘタモノトハ思ハナカツタカ答、サウハ思ヒマセヌテシタ眞面目ニヤル心算ナラハ二日モ掛ツタノテアリマスカラ往復ノ道路ノ模様等モ少シ詳シク調ヘテ來ルヘキ筈テアル夫レニ調ヘ方ハ如何ニモ杜撰テアリマス故口テハ濱口首相ヲ遣ツツケル杯ト云フテ居ルケレト眞面目ナ話トハ思ヒマセヌテシタ……一九問、其ノ次ニ佐郷屋カラ何時何處テドンナ話カアツタカ答、其ノ次ハ本年十月二十三日ノ夜十二時頃ニ……私宅テ其ノ話カアリマシタ其ノ時佐郷屋ハ今月二十七日濱口首相カ觀艦式カラ超特急テ東京ヘ歸ルカラ東京驛ニ濱口首相ヲ擁シ遣付ケル心算テアルト云ヒマシタ私ハドンナ方法テ遣ル積リカト廳キマシタラ斬奸狀ヲ突付ケテヤラウト思フカ刀ヲ遣ラウカ夫レトモ拳銃テヤラウカ其處迄ハ未タ決定シテ居ラヌ旨答ヘ刀ハ質ニ入レテアルカラ出シテ來様カ杯トモ申シマシタ私ハ拳銃テハ不發ノ場合モアリマシタラ佐郷屋ハサウカナアト云フテ聞イテ居リマシタ問、何故被告カラ佐郷屋ニ拳銃ノコトニ付左様ナ注意ヲ與ヘタカ答、狙ツテ發射スレハ丸カ相手ニ當ルモノタト云フ様ナ無造作ナ考ヘカ間違ヒテアルト云フコトヲ説明シタニ過キマセヌ詰リ佐郷屋カ拳銃ヲ濱口首相ヲ遣付ケル杯ト大キナコトヲ云フテ居テモソソナ造作ナク行クモノテナイト云フ意味合ヲ申シタノテアリマシタ……二九問、スルト

其ノ時ニハ被告ハ佐郷屋カ濱口首相ヲ暗殺スル計畫ヲ立テ居ルコトヲ明カニ知ツタ譯テナイカ答、其ノ時ハ私モ初メテ佐郷屋カ濱口首相ヲ狙撃スルコトヲ眞面目ニ計畫シテ居リ而カモ大部堅イ決心ヲ持テ居ルコトヲ知りマシタ併シ濱口首相ヲ狙撃スルコトカ實際問題トシテハ如何ニムツカシイカラ佐郷屋カ覺ツタテアラウト思ヒマシタ三〇問、佐郷屋カラ濱口首相カ陸軍特別大演習陪觀ノ爲本年十一月十四日午前九時東京驛發列車ニテ出發ノ機會ヲ窺ヒ同大臣ヲ狙撃セントスル決意ニ付被告ニ話カアツタノテナカツタカ答、左様ナ話ハ全然聞イテ居リマセヌ本年十月二十七日以後佐郷屋カラ左様ナ又ハ夫レニ類シタ話ハ一寸モ聞イテ居リマセヌ」(ロ)被告人松木良勝第四回豫審調書ニ「二四問、其ノ朝佐郷屋カ試射ニ行キタイト云フタ時被告人ハ佐郷屋カ濱口首相暗殺ノ準備トシテ試射ヲシタイト云フ意味テアルト思ハナカツタカ答、初メハ左様ニ思ヒマシタ然シ考ヘテ見ルト日堂ハ政務次官横山勝太郎ト知合テアリ田村ハ代議士ノ簡牛凡夫ト知合テアル事ニ氣カ付イタノテ日堂ノ所ニ行ツテ濱口首相暗殺ノタメノ試射ヲスルモノトハ思ハナクナリマシタ」(ハ)被告人松木良勝第五回豫審調書ニ「一八問、被告人ハ其ノ時佐郷屋カ實際首相ヲ殺害スル氣テ東京驛ニ行ツタモノト思ツタノカ答、矢張り其ノ時モ佐郷屋ノ云フ事ハ何處迄カ本當カト思フテ居リマシタ右傾團ノ人ハヨクヤルトカヤツケルトカ申シテ居リ例ヘハ日露漁業ノ問題ノ時ニモ或ル浪人ハ島德藏ヲヤル抔ト申シタ様ニ平常口ニ左様ナ事ヲ云フノテ此ノ時モ佐郷屋ノ云フ事ハ何處マテ本當カト思ヒマシタ」ト各記載シアルニ依リ明カニ

シテ被告人良勝ハ眞實佐郷屋カ濱口首相ヲ暗殺スルモノナリトハ信シ居ラサルモノナリ(二)被告人松木良勝ハ拳銃ヲ佐郷屋ニ貸與シタルモノニアラスシテ佐郷屋ハ勝手ニ之ヲ取出シ携帯シタルコトハ(イ)被告人松木良勝第三回豫審調書ニ「四六問、被告人ハ佐郷屋カ昨年十月六日市ヶ谷刑務所ヲ出テ後佐郷屋ニ對シ本件ノ拳銃ヲ所持シ居ル事ヲ話サナカツタカ答、左様ナ事カ御座イマシタ三田カラ其ノ拳銃カ返サレタ後ノ事テ十月十五、六日頃ノコトト思ヒマスカ夕方ホテルノ事務所テ私ハ佐郷屋ニ對シ暴力團等カ來タ時ニハ拳銃ヲ使ツテヨイソレハ事務所ノ本箱ノ左ノ抽斗ノ一番上ニ入レテアルト話シタ事カ御座イマシタ」(ロ)被告人佐郷屋留雄第三回豫審調書ニ「三九問、被告人ハ其ノ時拳銃ノ事ヲ話サナカツタカ答、申シマシタ只今申シタ事ニ引續イテ私ハソレニ就イテハ拳銃カ要ルカラ貴方ハソレヲ持テ居ルカラソレヲ貸シテ貰ヒタイト申シマシタ四〇問、夫レニ對シ松木ハ何ト返事シタカ答、親爺ノ居ナイ時ニサウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナイテハナイカト松木ハ申シマシタ四一問、松木ハソウ云フ事ヲシテモ仕様カナイト云ハナカツタカ答、松木ハ親爺ノ居ナイノニサウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナイテハナイカト申シ遅イカラ寢様ト申シマシタ四二問、ソレヲ被告ハ何ト云フタカ答、私ハ自分トシテハ兎ニ角是非ヤラウト思フカラ拳銃ヲ貸シテ貰ヒタイト申シマシタソレニ對シ松木ハ別ニ云ハスニモウ遅イカラ寢様トセキ立テマシタ……四五問、被告人ハ檢事ニ對シ其ノ時松木ハ拳銃ハホテルノ本箱ノ抽斗ノ中ニ這入ツテ居ルト申シタ様ニ申立テ居ルカ如何答、檢事ニ對シテハ左様ニ申シタ

カモ知レマセヌカ其ノ後考ヘテ見ルト松木ハ拳銃ハ此處ニハナイヨト申シタ様ニ思ヒマス四六問、尙被告人ハ檢事ニ對シ松木ハ暗黙ノ中ニ私ノ決意ニ賛成シ拳銃ヲ貸スコトヲ承諾シタモノト信シタト申立テ居ルカ如何答、檢事ニ對スル申立ヲ翻ス譯テハアリマセヌカ其ノ點ハ事實違ツテ居リマス(ハ)原院公判調書中被告人佐郷屋留雄ノ供述トシテ「問、其ノ時被告人ハ拳銃ヲ仕舞テアル抽斗ノ鍵ノ事ヲ聞カナカツタカ答、左様鍵ノ話ハシナカツタト思ヒマス其ノ時ビストルヲ藏ツテアル本箱ノ抽斗ノ鍵ノ事ヲ聞イタ様ナ記憶ハアリマセヌ其ノ鍵ニ付テハ前ニ松木ニ聞イタ事カアルノテ其ノ時ノ事ヲ間違ツテ十三日ノ晩ニ聞イタ様ニ豫審テ申シノテアリマス問、昭和五年十一月十三日ノ晩山本昇三ヤ松木良勝ハ遊ヒニ行ツタカ答、左様テアリマシタ問、其ノ時十七號室ノ机ノ上ニ鍵カアツタカ答、左様テアリマス其ノ鍵ハ拳銃ヲ入レテアル本箱ノ抽斗ノ鍵テアルカ怎ウカハ判リマセヌテシタ問、其ノ机ノ上ニハ靴篋モアツタカ答、左様テアリマス其ノ鍵ニ靴篋カツイテ居タノテアリマス問、其ノ靴篋ハ之カ裁判長ハ此ノ時同上號證ノ二十一ヲ示シタリ答、左様テアリマス問、其ノ時ノ鍵ハ之カ裁判長ハ此ノ時同號證ノ十九ヲ示シタリ答、怎ノ鍵テアツタカ良ク覺ヘテ居リマセヌ(記録三四九一丁裏)

(二)第一審公判調書中被告人佐郷屋留雄ノ供述トシテ「問、夫レカラ怎ウシタカ答、松木ハ何カ十五號ノ室ヲ覗イテ居タ様テスカ私ハ愛國社ノ事務所ヘ戻ツタラ山本昇三ハ未タ其處ニ居テパンフレットカ何カ讀ンテ居リマシタ其ノ部屋ニハ右ノ方ニテーブルカ置イテアツタノテスカ其ノ時私カ其處ヲ見タ

テ靴篋ナンカト一緒ニシタ鍵カ置イテアツタノテ之ハ占メタト思ツテ夫レヲ袂ニ入レマシタ……問、被告人豫審ノ第四回ノ取調ノ際ハ斯様ニ述ヘテ居ル様タカ如何此ノ時記録一五二丁以下被告人佐郷屋留雄ニ對スル豫審第四回訊問調書中第三七乃至第四一問答記載ヲ讀聞ケタリ答、夫レハ違ツテ居ル處カアリマス鍵ノコトヲ若シ私カ豫審テ述ヘタトスレハ此ノ事件ニ何モ關係ノナイ鍵ノ事テス赤坂田町ノ松木ノ家ニ大キナ机カアツテ其ノ鍵ノコトヲ前ニ話シタコトカアリマスカ私ハ夫レヲ思違ヒシテ豫審テ述ヘタノカモ知レマセヌ(記録二八六三丁以下)ト各供述シアルニ徴シ明ニシテ被告人良勝ハ被告人留雄ニ判示鍵ヲ交付シテ判示拳銃ヲ貸與シタルモノニアラサルコト明瞭ナリトス況ヤ被告人留雄ノ葵ホテルニテ机ノ上ニアリタルモノヲ自己ノ袂ニ入レタル鍵ハ判示拳銃ヲ藏置シアル抽斗ノ鍵ニアラスシテ松木方ニ在ル机ノ鍵ナルコトハ原院公判廷ニ於ケル被告人良勝ノ供述及同院證人大澤武三郎榮田三郎ノ供述ニ徴シ明ナルニ於テオヤ要之被告人良勝ハ被告人留雄カ濱口首相ヲ殺害スヘキ旨告ケラレタルモ开ハ右傾派ノ者ノ間ニ行ハルル大言壯語ナリトシテ眞面目ニ之ヲ受入レサルノミナラス其ノ至難ナルコトヲ實例(伊太利共產黨員ノムツソリニ首相暗殺計畫ノ齟齬セル例)等ヲ擧ケテ暗ニ其ノ無謀ナルコトヲ戒メ居リタルモノナルカ昭和五年十月二十七日夕刻被告人留雄カ同日東京驛ニ於テ濱口首相ヲ狙撃セントシテ果ササリシコトヲ聞キ豫テノ被告人留雄ノ濱口首相殺害計畫ハ眞面目ナリシコトヲ知リタルモ夫レト同時ニ被告人留雄カ斯カル計畫ノ無謀ナルコトヲ覺ツタルナラント

思料シ居リタルニ止マリ被告人良勝ニ於テ其ノ後ニ於テ被告人留雄カ右計畫ヲ遂行スルノ情ヲ知リテ判示拳銃ヲ貸與シタリト認ムヘキ確證ナク原判決ニ於テハ被告人良勝ニ對シ證據不十分トシテ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキヲ相當トス然ルニ事茲ニ出テサリシ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ破毀スヘキモノト思料スト云ヒ」被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人秋山高三郎 横田隼雄 菅野勘助上告趣意書第一點原審判決ニハ被告人松木良勝ニ對シ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス原審判決(第二事實)ノ被告人良勝ニ對スル事實トシテ「……十月二十三日頃前記自宅ニ於テ……濱口雄幸ヲ同月二十七日夕刻東京驛ニ邀ヘテ暗殺セントスル決意アル旨ヲ告ケラレ且右兇行ニ使用スヘク前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラレ……右拳銃ノ試射ヲナスヘキコトヲ促サレ……被告人良勝自ラ二回ノ射撃ヲ爲シテ發射ノ確實ナルコトヲ確カメ……同首相ノ下車ニ先チ 皇族殿下ノ下車セラレタルヲ知り恐懼ノ餘決行ヲ果サス……右頭末ノ報告ヲ受ケ……十一月九日頃前項記載ノ如ク右葵ホテル内ニ於テ被告人留雄ヨリ同首相カ來ル十四日午前九時東京驛發ノ列車ニテ出發西下セントスルニ際シ……前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ……殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ右拳銃ノ藏置シアル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ云々」ト記載シ殺人幫助ヲ認定シタリト雖左ノ點ニ於テ事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス第一、昭和五年十月二十三日頃被告人良勝方ニ於テ相被告人留雄ヨリ拳銃貸與方申出ノ事實確實性ナキコト右ハ相被告人留雄ノ豫審第一回訊問

調書第十問答トシテ「本年十月二十二、三日頃夜十二時頃赤阪區田町二丁目十三番地松木良勝方二階八疊ノ間テ松木ニ話ヲシ借リマシタ」トノ陳述ニ始マルモノナリト雖同調書第十五問答ニ於テ「松木ハ私ノ言葉ニ對シ賛成トモ否トモ申シマセステシタカ拳銃ハ愛國社ノホテルノ事務室ノ本箱ノ左上ノ抽斗ニ置イテアルト云フタノテアリマス……私ハ本年十月二十七日ニ松木カ申シタ抽斗カラ其ノ拳銃ヲ取り出シマシタ」トノ陳述ノ記載アルニ反シ同被告人ノ豫審第三回訊問調書中「四、五問被告人ハ檢事ニ對シ其ノ時松木ハ拳銃ハホテルノ本箱ノ抽斗ノ中ニ這入ツテ居ルト申シタ様ニ申立テ居ルカ如何答、檢事ニ對シテハ左様ニ申シタカモ知レマセヌカ其ノ後考ヘテ見ルト松木ハ拳銃ハ此處ニハナイヨト申シタ様ニ思ヒマス」トノ問答ノ記載アルヲ見レハ十月二十二、三日頃本件拳銃ヲ被告人良勝カ相被告人留雄ニ貸與シタルニ非ス又其ノ貸與ノ申込ヲ受ケテ拳銃ノ所在ヲモ洩シタル事實無ク被告人良勝ハ相被告人留雄ノ濱口首相暗殺ニハ同意シ居ラサルノ事實アル而已ナラス此ノ問題ニ觸レルヲ避ケ居タルノ真相ナリト云ハサルヘカラス此ノ點ニ關シ一、相被告人留雄ノ豫審第一回訊問調書中第十問答トシテ「松木ハソナ事ヲ云ツテモ今先生(岩田愛之助ノ事)モ留守タカラ仕様カナイト申シマシタ」トノ記載二、被告人良勝ノ豫審第四回訊問調書中第十三問答トシテ「其ノ時私ハ佐郷屋ニ對シ拳銃テ人ヲ撃ツコトハナカク六ヶ敷イ外レ彈モアリ不發彈モアルソレニ警戒モナカク嚴重タラウト申シマシタ」トノ記載三、相被告人留雄ノ豫審第三回訊問調書中第四十九問答トシテ「然シ私ハ

松木カ私ノ此ノ事件ノ渦中ニ卷込マレル事ヲ恐レテ居タノテナイカト今思ヒマス」トノ陳述記載アルニ徴スレハ其ノ真相ヲ物語ルニ足ルヘキモノアリト信ス而シテ被告人良勝カ拳銃ヲ所持セルヤ否及其ノ所在ニ關シテハ相被告人留雄ノ豫審第三回訊問調書中第一問答トシテ「……松木ニ對シ此ノ様ナ團體ニ居テドスカ拳銃カナクテハイケヌタラウト鎌ヲカケテ聞イタ様ニ前回申上ケマシタ左様ニ刀カ拳銃カナクテハイケヌタラウト申シタノハ辰川龍之助方ノ白浪會ヲ誰カニ云フタコトヲ思ヒ違ヒシテ松木ニ聞イタ様ニ前回申シタノテアリマス」トノ陳述記載及被告人良勝ノ豫審第三回訊問調書中……十月十五、六日頃ノ事ト思ヒマスカタ方ホテルノ事務所テ私ハ佐郷屋ニ對シ暴力團等カ來タ時ニハ拳銃ヲ使ツテヨイソレハ事務所ノ本箱ノ左ノ抽斗ノ一番上ニ入レテアルト話タ事カ御座イマシタ」トノ陳述記載竝相被告人留雄ノ豫審第一回訊問調書中「七問、被告人ハ松木ヨリ暴力團カ來タ時ニ拳銃ヲ使ツテモヨイト云ハレタ事カアツタカ答、左様ナコトヲ云ハレタ様ナ氣カ致シマス……昨年十月六日市谷刑務所ヲ出タ後カモ知レマセヌ云々」トノ陳述トノ記載アルヲ綜合考察スレハ昭和五年十月二十二、三日以前同月十五、六日頃被告人良勝ハ相被告人留雄ニ用途ヲ限定シテ拳銃ノ所在ヲ語リタル事實アルニ過キス第二、昭和五年十月二十七日拳銃試射ノ點ハ事實ト一致セサルモノアルコト昭和五年十月二十七日被告人良勝カ所持セシ拳銃ヲ持出シ舊東京市外目黒町下目黒六百五十二番地日堂則義方ニ於テ本件拳銃ヲ試射シタルコトハ爭ヒナキ事實ナリト雖此ノ點ニ關シ一、相被告人留雄ノ第三回訊

問調書中「六三問答私カ滿洲支那ニ居タトキブローニングヤコト(コルト)ノ誤記ナラン)ノ拳銃ヲ撃ツタコトハ御座イマス然シ松木ノ持ツテ居ル拳銃等ハ未タ見タコトモ撃ツタコトモナイノテ松木ニ左様申シタノテアリマス六五問答忙シイカラ厭タト申シマシタ六六問答是非一ツ一緒ニ行ツテ呉レト申シマシタ……松木ニ一緒ニ行ツテ貰ヘハ此ノ方モ助カルシワレニサウ云ツテ一緒ニ行ツテ貰ハナケレハ拳銃ヲ手ニスル事カ出來ナイト思ツタカラテアリマス」トノ陳述記載二、被告人良勝ノ豫審第四回訊問調書中「二六問答……佐郷屋ハ庭ノ泉水ノ側テ拳銃ヲ弄ツテ居リ……佐郷屋ハ甘ク動カナイト云ツテ其ノ拳銃ヲ私ニ見セタノテ私ハ貸シテ見ロト云フテ其ノ拳銃ヲ受取り其ノ場テ其ノ拳銃ノ彈丸ノ入ツテ居ルケースヲ抜イテ見タ處一發ノ彈丸カ銃身ニ引掛ツテ居タノカ判ツタノテ其ノ彈丸ヲ取りソレヲ其ノケースニ入レソレカラ其ノケースヲ元通り戻シテ折敷ノ形ニナツテ地面ニ向ケ引金ヲ引イタトニコ拳銃ハ發射……ソレカラ又銃身ヲ引張ツテ見タトコロ又具合カ惡クナツタノテ云々」トノ陳述記載ヲ以テ觀レハ相被告人留雄ハ本件拳銃ヲ手ニスル爲被告人良勝ニ對シ試射ニ藉口シテ持出シ相被告人留雄ハ銃身ノ故障アルカ爲試射セス反ツテ被告人良勝カ試射シ二回ノ故障アルニ拘ラス相被告人留雄ニ於テ試射シタルノ事實無ク本件拳銃ヲ以テ濱口首相ヲ暗殺セムトスルノ決意アリトスルニ於テハ故障アル拳銃ナルカ故ニ自ラ試射スヘキモノニアラサルカト思ハシム尙右十月二十七日相被告人カ右試射ニ赴キタル事由トシテ「拳銃ヲ手ニスルコトカ出來ナイト思フタカラ」ナル陳述信スヘシトス

ルニ於テハ前記第一ニ記スル同年十月二十二、三日頃濱口首相暗殺ノ爲被告人良勝ニ對シ拳銃貸與ヲ申出借用ノ承諾ヲ得タリト云フ豫審第一回訊問調書記載事實ヲ益々疑ハシム第三、昭和五年十月二十七日相被告人留雄カ濱口首相暗殺ノ爲本件拳銃ヲ持出シタル事ハ被告人良勝カ知ラサルコト昭和五年十月二十七日相被告人留雄カ首相暗殺ノ爲本件拳銃ヲ持出シタルコトハ被告人良勝ニ於テ知悉シ居ルヤ否此ノ點ニ關シ一、相被告人留雄ノ豫審第一回訊問調書中「六二問答、今晚ヤルノタトハ申シマセヌテシタ云々七四問答……私共カ歸ル時ニ日堂ハ今日 陛下カ御歸リニナルカラソナ物ヲ持ツテ居ルト危クハナイカト申シマシタノテ私ハ此ノ時初メテ 陛下カ其ノ日東京ニ御歸リニナルコトヲ知リマシタ七七問答、ホテルノ事務所ニ歸ツテカラ直クニ松木ニ渡シ松木ハソレヲ元ノ抽斗ニ入レマシタ七八問答、鍵ハカケマセヌテシタソシテ松木ハ直ク山本岩雄ノ入院シテ居ル池田病院ニ出カケマシタ八六問、若シ松木カ抽斗ニ鍵ヲカケテ置イタナラ什ウシテ拳銃ヲ取出ス積リテアツタカ答、其ノ時ハ其ノ本箱ノ開戸ヲ開ケテ其ノ拳銃ノ入ツテ居ル上部ノ籐イ板ヲ押外シテ其ノ拳銃ヲ取出ス積リテシタ八七問答……ソレカラ私ハ乗車口ニ出テ市電ヲホテルニ歸リマシタソレハ午後五時半頃テシタソレテ拳銃ヲ元ノ場所ニ藏ヒマシタ八八問答、ソレカラ私ハ電話ヲ池田病院ノ松木ニ……松木ハソナ處カラソナナ電話ヲカケル奴カアルカト申シマシタ」トノ陳述記載二、同被告人ノ豫審第七回訊問調書中十八問答トシテ「……私カラ事情ヲ聞イタ以後ハ段々私カラ遠サカル様ニシテ居リマシタ」トノ陳述

記載三、被告人良勝ノ豫審第三回訊問調書中「四〇問、其ノ拳銃ヲ入レテ置イタ事務所ノ本箱ノ抽斗ニハ鍵ヲカケテ拳銃ヲ藏ツテ置イタカ答、サウテハアリマセヌ其ノ抽斗ニハ鍵ヲカケル錠ハ取付ケテアリマシタカ鍵ハナカツタノテ鍵ヲカケタ事ハアリマセヌ」トノ陳述記載四、同被告人ノ豫審第五回訊問調書中第十三問答トシテ「……私ハ佐郷屋カホテルノ帳場カラ左様ナ電話ヲカケタ事ニ憤慨シタノテ大キナ聲ヲ左様ニ返事シタノテアリマス」トノ陳述ノ記載五、豫審ニ於ケル證人日堂則義ノ第一回訊問調書中第十一問答トシテ「恰度其ノ日ハ 陛下カ觀艦式カラ御歸リニナル日テアツタノテ私ハ松木ニ對シ今日ハ 陛下カ御歸リニナルノタカラサウ云フモノハ持ツテ居テハイカスト注意シタ云々」トノ陳述記載アルヲ綜合考察スルニ昭和五年十月二十七日ハ恰モ 陛下ノ御還行遊ハサルコトヲ日堂則義カ注意セルニ拘ラス相被告人留雄ニ於テ本件拳銃ヲ所持シテ東京驛ニ赴キタリト云フ點ニ就テ相當疑ハシムヘキモノアリ尙ホテルニ歸ツテ後目的ヲ達シ得サリシ事情ヲ帳場ノ電話ヲ以テ池田病院ニ在ル被告人良勝ニ通シタルカ如キ輕卒ノ甚タシキモノニシテ到底信シ得ヘカラサル事情アリテ假ニ相被告人留雄ノ陳述セシ如キ事實存スルトスルモ被告人良勝ニ於テ當日相被告人留雄カ本件拳銃ヲ使用スルモノナリトテ之ヲ默認又ハ承認シタルコトナシト察セラル第四、本件拳銃ノ入レアリタル抽斗ニ錠前カ施シアリヤ否疑問ノ存スルコト相被告人留雄ハ昭和五年十一月十三日本件犯行ニ使用スル拳銃ノ所在抽斗ニハ錠前カ施シアリ共ノ鍵ノ所在ニ就テ被告人良勝ニ尋ネタリト豫審ニ於テ陳述シ被告人良

勝ハ右抽斗ニハ錠前ハ存スルモ鍵ナカリシモノナルコトヲ豫審以來陳述セルトコロニシテ此ノ點ニ關シ一、相被告人留雄ノ豫審第四回訊問調書中「三七問答……松木ハ什ウシテモヤルトスレハ自分トシテハ之以上何モ云ハナイカラ落付イテ身體ヲ大事ニシテ吳レト申シマシタ……松木ハ今晚ハ之カラ出カケルカラ泊ラナイト答ヘタノテ私ハ鍵ハ何處ニアルカ……ト尋ネタトコロ松木ハアツチニ置イテアルト答ヘマシタ……私ハ手ヲ延ハシテ松木ト握手シ左様ナラト申シタトコロ松木ハ御大事ニト答ヘソレカラ私ハ一足先キニ十七號室ニ戻ッタトコロ机ノ上ニ鍵カアツタノテソレヲ取ツテ……トノ陳述記載二、同被告人ノ豫審第九回訊問調書中「二問、昨年十一月十三日ノ夜若シ松木カ被告人ニ本件鍵ヲ貸サナカツタナラ被告人ハ什ウシテ其ノ拳銃ヲ取出ス積リテアツタカ答、其ノ時ハ其ノ本箱ヲ壞シテ其拳ノ銃ヲ取出スツモリテシタ」トノ陳述記載三、被告人良勝ノ豫審第六回訊問調書中第三十四問答トシテ「其ノ時ハ鍵ノ話ハ致シマセマシタ元來抽斗ニ鍵ヲ掛ケタ事カナカツタカラテ若シ鍵ヲ掛ケテ置ケハ急ノ時ニ合ハナイカラテスソレニ以前申上ケタ通り其ノ前ニ私ハ佐郷屋ニ對シ拳銃ヲ使ヘト云フタ位テシタカラ鍵ヲカケテ置カナカツタノテアリマス」トノ陳述記載ノ何レヲ信シ得ヘキモノナルヤ否相當疑ハシムヘキモノアリ即チ其ノ一、被告人良勝ハ相被告人留雄ノ行動ヲ避ケテ居タリト認ムヘキモノ存スルコト相被告人留雄ノ豫審第三回訊問調書第四十九問答中「松木カ私ノ事件ノ渦中ニ卷込マレル事ヲ恐レテ居タノテハナイカト今思ヒマス」トノ陳述及同被告人ノ豫審第七回訊問調書

第十八問答中「松木ハ二十七日……以後ハ段々私カラ遠サカル様ニシテ居リマシタ」トノ陳述記載アルヲ觀ルモ被告人良勝ハ相被告人留雄ノ行動ヲ避ケテ居タリト認ムヘキモノアリ然ルニ昭和五年十一月十三日前記ノ如ク被告人良勝カ相被告人留雄ト握手シテ別レ鍵ノ所在ヲ指示スルカ如キハ信シ得ヘカラサルコトナリ其ノ二、本件拳銃在中抽斗ニ錠前ノ施シアリタルヤ否前記ノ如ク相被告人留雄ハ本件拳銃在中ノ抽斗ニハ錠前ノ施シアリタル如ク陳述セリト雖一、同人ノ豫審第三回訊問調書中第六十七問答トシテ私ハ其ノ前ニ其ノ本箱ノ抽斗ヲ引イテ見タコトカアリマシタカ只今申シタ抽斗丈ケカ鍵カカカツテ開カナカツタノテ其ノ拳銃カアルト思ツタノテアリマス」トノ陳述記載二、同人ノ豫審第六回訊問調書中「五八問、被告人ハ其ノ本箱ノ抽斗ニ鍵ノカカル事ヲ何時知ツタカ答、ソレハ試射ニ行ツタ二十七日ノ朝テシタ其ノ本箱ノ抽斗ハ元來始終鍵カ掛ツテ居ラスニ開イテ居リマシタノテス」トノ陳述記載ニ於テ矛盾シタルモノアリテ被告人良勝ノ陳述真相ナラサルカト思考セラル以上諸點ヲ考慮スルトキ被告人良勝ニ對シ殺人幫助ノ事實ヲ認メタルハ事實誤認ノ顯著ナルモノ存スト思料スト云ヒ」被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人松村喜三郎上告趣意書中被告人松木良勝ニ關スル上告理由右被告人ニ對スル殺人未遂幫助被告事件ニ付原院ハソノ判決ニ於テ被告人ノ犯罪事實ヲ認定シ判示各事實ニ對スル證據トシテ同被告人及被告人佐郷屋留雄ノ各供述ヲ舉示シタリ而シテソノ内被告人良勝ノ犯罪事實ノ有無ノ認定ニ直接關係アリト認メラルヘキモノ左ノ如シ第三項第一審公判調書（第一回）被告

人留雄ノ供述、第五項被告人留雄ニ對スル豫審第三回訊問調書中同人ノ供述第六項被告人留雄ニ對スル豫審第三回訊問調書中同人ノ供述第七項被告人留雄ニ對スル豫審第六回訊問調書中同人ノ供述第八項被告人良勝ニ對スル豫審第四回調書中同人ノ供述第九項被告人留雄ニ對スル豫審第三回調書中同人ノ供述第十項被告人良勝ニ對スル豫審第一回調書中同人ノ供述第十一項被告人留雄ニ對スル豫審第三回調書中同人ノ供述第十二項被告人留雄ニ對スル豫審第四回調書中同人ノ供述第十三項被告人留雄ニ對スル豫審第五回調書中同人ノ供述第十四項被告人留雄ニ對スル豫審第八回調書中同人ノ供述惟フニ本件ニ於テハ被告人良勝ニ關スル全事實中昭和五年十月二十七日留雄ニ於テ濱口雄幸氏狙撃中止ニ至ル迄ノ事實ト昭和五年十一月十四日留雄ニ於テ濱口氏ヲ狙撃スルニ至リシ迄トノ事實ノ間ニ截然タル區分線ナクシテ漫然一連ノ事實トシテ之ヲ認ムル事ハ事實ノ真相ヲ把握スル所以ニ非ス原院判決ニヨレハ昭和五年十一月十四日留雄ノ濱口氏狙撃ノ事實ニ對スル被告人良勝ノ共犯關係ヲ證スヘキ證據ハ前記舉證中第十二項第十三項第十四項ノ各供述ノミニテ殊ニ良勝ノ犯罪事實ヲ直接證スヘキ證據トシテハ單ニ第十二項被告人留雄ニ對スル豫審第四回訊問調書中同人ノ供述ノミニナリ昭和五年十月二十七日被告人留雄ニ於テ濱口氏狙撃ヲ中止シ此ノ旨ヲ被告人良勝ニ電話ヲ以テ報告セシ所良勝ハ事ノ意外ニ驚キ午後五時半頃葵ホテルニ歸リ初メテ留雄ニ於テ濱口氏狙撃ヲ眞面目ニ計畫セシ事ヲ知りタリトノ事ハ前記第十項良勝ニ對スル豫審第一回ノ調書中ニ現ハレ居ルモ右事實ハ昭和五年十一月十四日ノ

狙撃事件ニ對スル良勝ノ幫助行為ニ對シテハ間接ノ推測材料ヲ供スルニ過キス良勝ヲシテ本件幫助ノ責任アリト言ハンカ爲ニハ右十月二十七日以後ニ於テ(1)良勝ハ十一月十四日午前九時ノ留雄ノ犯行ヲ豫知シ居リシ事(2)右豫知シツツ十一月十三日留雄ノ犯行ヲ幫助スルノ意思ヲ以テ拳銃ノ藏置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ留雄ニ交付シタル事ノ證明ナカルヘカラス而シテ右二點ニ關スル證據トシテ原院ノ舉示セリト認メラルヘキ前記第十二項留雄ニ對スル豫審第四回ノ調書中同人ノ供述ハ第一審公判及原院ノ第二審公判ニ於テ何レモ留雄ニヨリ否認又ハ訂正セラレ事態頗ル不明ナルコト明瞭トナリタリ一方被告人良勝ハ本件ニ關スル警察署ノ取調以來原院ノ取調ニ至ル迄幫助ノ事實ヲ一貫シテ否認シ居ルナリ試ミニ本件ニ於ケル留雄ノ豫審ノ供述ヲ見ルモ留雄ハ葵ホテル内ノ本箱ノ抽斗及洋机ノ抽斗及赤阪區田町ノ良勝方ニ存セシ机ノ抽斗中何レカ施錠ノ設備アリヤ何レカ之無キヤノ點迄モ判然タル記憶ナク本件ノ交付ヲ受ケタリト稱スル鍵カ何レノ鍵ナリシヤモ之ヲ知ラス且拳銃ノ藏置シアリシ本箱ノ抽斗カ施錠シアリシヤ否ヤモソノ供述前後著シク混亂齟齬シ居レリ此點ニ關スル良勝ノ供述ハ鮮明ニシテ豫審ニ於ケル證人山本岩雄ノ供述ヲ以テスルモ本件ノ本箱ノ抽斗ニハ鍵ナク又鍵ヲ以テ該抽斗ヲ開閉セル事實モナク且開閉セル事實ヲ見タル者ナキナリ本件ニ於テ拳銃ヲ取出サンカ爲ニハ本箱ノ抽斗ノ鍵ヲ交付スルノ必要毫モナカリシモノナリ假ニ鍵ニヨリ完全ニ施錠セラルルトスルモ若シ良勝ニシテ留雄ノ犯行ヲ豫知シタリシナランニハ何ノ必要アリテ本箱ノ抽斗ニ施錠シ置キ

ツツ改メテ鍵ヲ交付スル事ヲ爲サンヤ況ンヤ十一月十三日夜良勝ハ留雄ノ明朝ノ犯行ヲ確知スルニ至リ居ラサルニ於テヲヤ即チ十一月十三日ノ夜良勝カ山本岩雄同昇三ト共ニ池田病院ニ立寄ルヤ一度病院ニ入りシ岩雄ヨリ呼止メラルル迄自動車中ニアリシ良勝ハ留雄ノ病院ニ在リシ事ヲ知ラス且岩雄ニ呼止メラルル前既ニ良勝及昇三ノ兩人ハ其ノ儘吉原花街ニ遊フヘク自動車ヲ既ニ目的地ニ進行セシメントシツツアリタルナリ之山本昇三ノ豫審ニ於ケル證言ニ於テ明ナル所ニシテ此事實タル留雄ノ明朝ノ兇行ノ意思ヲ確知シ居ラサル事ヲ鮮明ニ物語ルモノナリ元來留雄 良勝肝膽相照ス友ニ非スシテ兩人間ニハ意思ノ疏通ナク且思想上ニ於テ多大ノ徑庭アリ倒閣運動ニ於テモ一ハ合法的運動ヲ念トシ一ハ非合法的實行ヲ不可避ナリトスルカ如キ記録ニ歷然タリ原院ノ舉證中十月二十七日ノ留雄ノ兇行ノ意思認識ノ程度ニ於テモ疑問トスヘキ所ナシトセス留雄ハ「凡テ良勝カ默認シ吳レルモノト思ヘリ」ト屢々述ヘ居ル如キ既ニ暗殺決行ヲ覺悟セル留雄カ良勝ノ氣持ヲ過當ニ確信シ居レルモノニ外ナラサルナリ之ヲ要スルニ本件ニ於テ留雄 良勝兩被告間ニ犯行ニ對スル心理的連關アリ且犯罪行爲ノ分擔アリテフ確證存セサルナリ然ルニ原院ニ於テハ本件記録中ニ一貫セル良勝ノ否認ノ供述ヲ不問ニ付シ單ニ豫審ニ於ケル被告人留雄ノ一片ノ供述ソレモ第一審第二審ノ公判ニ於テ否認又ハ訂正シ去ノレタル供述ヲ證據トシテ犯罪事實ヲ認定シ斷罪セルハ措信スヘカラサル證據ヲ以テ事實ヲ認定セルモノニシテ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ事由顯著ナリト謂フヘシ本件良勝ノ行爲ノ如キ未タ

證據不十分ナリトノ御判斷アツテ可然ト信スルナリト云フニ在リ

然レトモ被告人松木良勝ニ關スル原判決第二事實就中被告人松木良勝ハ共同被告人タル佐郷屋留雄ヨリ昭和五年十一月十三日深更葵ホテル内ニ於テ濱口首相ヲ殺害スル目的ニ使用スル爲拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ同被告人ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ實包六發ヲ裝填セル拳銃ノ藏置シアル本件愛國社事務所内ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ其ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタル事實ハ原判決ノ舉示セル證據中被告人佐郷屋留雄ニ對スル豫審第一回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分カ昭和五年十一月十四日濱口首相ヲ狙撃スルニ使用シタル拳銃ハ松木良勝ノ所有ニテ自分ハ同年十月二十二、三日ノ夜十二時頃赤坂區田町ノ同人方ニテ同人ニ話ヲシテ借受ケタリ其ノ夜自分ハ松木ニ濱口首相ヲ狙撃スル決意ヲ語リ拳銃ノ貸與方ヲ求メタルトコロ松木ハ自分ノ言葉ニ對シ贊成トモ否トモ申ササリシカ拳銃ハ愛國社ノホテルノ事務室ノ本箱ノ左上ノ抽斗ニアルト云ヒタリ松木ハ其ノ拳銃ハ自分カ濱口首相殺害ノ用ニ供スルコトヲ知リタリト思フ又松木ハ其ノ際自分カ左様ナコトヲ爲スコトヲ別ニ承認スルカ如キ言葉ヲ發セサリシモ之ヲ默認シタルモノト思ヒ居ル旨ノ記載被告人佐郷屋留雄ニ對スル第四回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ濱口首相カ大演習陪觀ノ爲判示十一月十四日午前九時東京驛ヲ出發スルコトヲ知リ其ノ機ニ東京驛ニ於テ同首相ヲ狙撃セント決意シ同月九日頃ノ夜

葵ホテル内ノ日本間ノ寢室ニテ松木良勝ニ對シ此ノ十四日ノ朝九時濱口首相カ東京驛ヲ出發スルカラ其ノ時同驛ニテ首相ヲ狙撃セント思フト話シタリトノ旨竝ニ自分松木等ハ昭和五年十一月十三日午後十二時頃葵ホテルニ到リ一旦十七號室ニ入りタルカ松木ハ十五號室ノ向ツテ左側ノ洗面所ニ自分ヲ呼ビ顔ヲ洗フ用意ヲシナカラ明日ハ何時カネト尋ネタルニ依リ自分ハ濱口首相ヲ狙撃スル時刻ヲ聞カレタルモノト氣付キ明日ハ九時タト答ヘタリ松木ハ什ウシテヤルノカト尋ネシ故自分ハ濱口首相ヲ狙撃スルコトヲ聞キタルモノト思ヒ一旦思ヒ立ツタラ什ウシテモヤラウト思ヒ居ルト答ヘタルトコロ松木ハ什ウシテモヤルトスレハ自分トシテハ之レ以上何モ云ハヌカラ落付イテ身體ヲ大事ニシテ吳レト申シタリ夫レヨリ自分ハ煙草錢カナカツタト云ヒタルニ松木ハ五十錢銀貨二枚ヲ寄越シタルニ依リ自分ハ之ヲ受取りタリ自分ハ鍵ハ何處ニアルノカト例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトヲ尋ネタルニ松木ハアツチニ置イテアルト答ヘタリ自分ハ夫レハ今迄居リタル十七號室ノ机ノ上ニ置キアルモノト思ヒシ故手ヲ延シテ松木ト握手シ左様ナラト申シタルトコロ松木ハ御大事ニト答ヘ自分ハ一足先ニ十七號室ニ戻リタルニ机ノ上ニ鍵カアツタノテ夫レヲ取りテ自分ノ袂ニ入レタリ其ノ時其ノ鍵ニハ靴篋カ附キ居タルモノト思フ松木カ落付イテト云ヒタルハ外ニ意味ノ取り様モナケレハ落付イテヤレト云フ意味ト思ヒタリ尙松木カ身體ヲ大事ニシテクレト申シタルハ刑務所ニ行ツテカラ大事ニシテクレト云フ意味ナリキ自分ハ其ノ時實際死刑ヲ覺悟シ居タル旨ノ記載其ノ他ノ原判決擧示ノ證據ヲ綜合スルコ

トニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得而シテ被告人松木良勝ニ於テ其ノ鍵ハ被告人佐郷屋留雄カ濱口首相殺害ノ用ニ供セントスル拳銃ヲ藏置スル本箱ノ抽斗ヲ開披シ得ヘキ鍵ナルコトヲ知リナカラ其ノ鍵ヲ被告人留雄ニ交付シテ拳銃ヲ貸與シタルコトヲ認メ得ル以上ハ夫レカ本箱ノ抽斗専用ノモノタルト將タ本箱ノ抽斗以外ニ卓子ノ抽斗ヲモ開披シ得ヘキ兼用ノモノタルトハ本件犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノト云ヒ得ヘキカ故ニ原判決カ右拳銃ヲ藏置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ナル事實ヲ判定シ其ノ鍵カ本箱ノ抽斗ニ専用ノモノナリヤ將タ他ノモノトノ兼用ナリヤヲ判示セサリシハ當然ナリ又假ニ被告人留雄ニ於テ同人ニ對スル豫審第八回訊問調書中ノ二度共鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗ヲ開ケ拳銃ヲ取り出シタルカ右抽斗ハ鍵ヲ使ハサレハ開カストノ供述ヲ第一審以後取消シタリトスルモ原審ハ其ノ兩供述ノ何レカ眞實ナリヤニ付自由心證ニ依リテ判斷シ以テ採否ヲ決スル職權ヲ有スルモノナルカ故ニ原審カ右公廷ニ於ケル供述ヲ排斥シ豫審ニ於ケル供述ヲ採用シタリトスルモ毫モ違法ニ非ス記録ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キ又ハ原審ノ採用セサル證據ニ立脚シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ノ認定ヲ非難攻撃スルニ外ナラス然レハ原判決ニ所論事實誤認ノ違法ナク論旨孰レモ理由ナシ

被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人鵜澤總明上告趣意書第二點原判決ハ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定

シタル違法アリ原判決ハ第二事實トシテ「被告人松木良勝ハ…次テ同月十三日深更右葵ホテル内ニ於テ被告人留雄ヨリ右兇行ニ使用スル爲前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シ乍ラ同被告人ニ對シ右拳銃ノ藏置アル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ」ト認定シタリ然ルニ其ノ證據説明ノ部ニハ「被告人留雄ニ對スル第四回豫審訊問調書ニ…自分ハ鍵ハ何處ニアルノカト例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトヲ尋ネタルニ松木ハアツチニ置イテアルト答ヘタリ云々ノ供述記載」ト説明シアルノミニシテ原判決認定ノ如ク被告人良勝ハ被告人留雄ヨリ同夜判示拳銃ノ貸與方ヲ求メラレ之ヲ藏置シアル抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ同人ニ交付シタリトノ證據ハ之ヲ舉示スルトコロナシ然ラハ原判決ハ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト思料スト云フニ在リ

然レトモ原判決第二事實就中被告人松木良勝ハ共同被告人佐郷屋留雄ヨリ昭和五年十一月十三日深更葵ホテル内ニ於テ濱口首相ヲ殺害スルノ用ニ供スル爲拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ實包六發裝填ノ右拳銃ノ藏置シアル愛國社事務所ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ其ノ犯行ヲ容易ナラシメタル事實ハ其ノ證據トシテ舉示セル被告人留雄ニ對スル各豫審訊問調書及其ノ他ノ各證據ヲ綜合スルニ依リ之ヲ認メ得ヘシ尤モ原判決ノ舉示セル被告人留雄ニ對

スル豫審第四回訊問調書中ノ所論供述記載ノミヲ摘出スルトキハ被告人良勝カ原判示拳銃ノ藏置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ被告人留雄ニ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シタル證據トシテ十分ナリト云ヒ難キ觀アリト雖該問答ノ前後ニ於ケル兩人ノ交渉關係並前掲證據ヲ綜合參酌スルトキハ被告人良勝ハ前記ノ如ク被告人留雄ノ本件犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタル事實ヲ認定スルコトヲ得ルナリ然レハ原判決ニハ所論ノ如ク證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法ナシ論旨理由ナシ

同第三點原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ違背スルモノナリ原判決ハ「被告人松木良勝ハ…次テ同月十三日深更右葵ホテル内ニ於テ被告人留雄ヨリ右兇行ニ使用スル爲前記拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ右拳銃ノ藏置シアル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ前項記載ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ」ト認定シ被告人良勝ヲ殺人未遂幫助罪ニ問擬處斷シタリ然レトモ被告人良勝ハ原院公判廷ニ於テ判示日時場所ニ於テ被告人留雄ヨリ拳銃ノ貸與方ヲ求メラレタルコトナク又同人ニ拳銃藏置ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シタルコトナシ自分ハ同夜山本昇三ト遊ヒニ出ル際鍵ヲ葵ホテル第十七號室ニ忘レ行キタルモ該鍵ハ自宅ノ机ノ抽斗ノ鍵ニシテ判示拳銃ヲ藏置シアル抽斗ノ鍵ニアラスト主張シタルコトハ原院公判調書中被告人良勝ノ供述ニ徴シ明ナリトス而シテ被告人良勝ノ右主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却

スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ屬スルヲ以テ原判決ニ於テハ前記法條ノ規定ニ遵ヒ被告良勝ノ此主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナリトス然ルニ此主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ前記法條ニ違背シ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ

然レトモ被告人松木良勝ニ關スル原判決ノ證據ニ依リテ確定シタル第二事實ニ依レハ被告人良勝ハ昭和五年十一月十三日深更葵ホテル内ニ於テ濱口首相殺害ノ用ニ供スル爲拳銃ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留雄ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ實包六發ヲ裝填セル拳銃ノ藏置シアル愛國社事務所内ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ其ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナルコト明白ナリ翻テ原審公判調書ヲ査閱スルニ被告人良勝カ原審公廷ニ於テ主張シタルトコロハ判示日時場所ニ於テ被告人留雄ヨリ拳銃貸與方ヲ求メラレシコトナク又同人ニ拳銃藏置ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シタルコトナシ自分ハ同夜山本身三ト遊ヒニ出ツル際鍵ヲ葵ホテル第十七號室ニ忘レ行キタルモ該鍵ハ自宅ノ机ノ抽斗ノ鍵ニシテ判示拳銃ヲ藏置シアル抽斗ノ鍵ニ非スト云フニ在ルコト所論ノ如シト雖右ハ畢竟原判決認定ニ係ル本件犯罪ノ積極的構成要件ニ對スル否認ニ外ナラサルコトハ右ニ掲ケタル原判決認定事實ト原審公廷ニ於ケル同被告人ノ主張トヲ對比スルコトニ依リ洵ニ明白ニシテ斯カル否認ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張

ニ該當セサルコトハ本院ノ夙ニ判例トスルトコロナリ然レハ原審カ被告人良勝ノ右主張ニ對シ其ノ判決ニ於テ特ニ之カ判斷ヲ示ササリシハ當然ニシテ原判決ニハ所論違法ノ廉アルコトナシ論旨理由ナシ被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人中川孝太郎上告趣意書第二點上告人松木良勝ニ對シテモ同趣意書第一點佐郷屋留雄ニ對スルト同一ノ趣旨ニ依リ同様ノ御處分ヲ懇請スト云ヒ「被告人松木良勝辯護人林逸郎 角岡知良上告趣意書第二點假ニ第一點ハ理由ナシトスルモ被告人ニ對スル原判決ノ刑ノ量定ハ甚シク不當ナリ即チ原判決ハ其ノ法律適用理由ニ於テ……被告人松木良勝ノ所爲ハ刑法第九十九條第二百三條第六十二條第一項ニ各該當スルヲ以テ……其ノ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ從犯ナルヲ以テ……法律上ノ減輕ヲ施シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八年ニ處シ……ト判示セリ抑本件ノ主犯者佐郷屋留雄ノ責任ハ殺人未遂ニシテ被告人ハ其ノ犯行ヲ幫助シタル從犯ニ過キサルニ拘ラス前者ニ死刑ヲ後者ニ無期懲役刑ヲ選擇シタルハ裁判史上ニ於テ先例ヲ見サル過當ノ手段ニシテ結局刑ノ量定甚シク不當ナル場合ニ該當スルモノト謂フヘシ但原判決カ被告人ニ對シ從犯ナルノ故ヲ以テ減輕ヲ爲シタルハ法律適用上當然ノ結果ニシテ判官ノ自由裁量ニ屬スヘキ刑ノ量定トハ別個ノ問題ニ屬ス故ニ若シ原審カ科刑ニ關スル先例ヲ尊重シ被告人ニ對シ有期懲役刑ヲ選擇シタリトセハ更ニ從犯ニヨル法律上ノ減輕ニヨリ一年六月以上七年六月ノ刑罰範圍内ニ於テ處斷セララルコトトナリ尠クトモ原審宣告刑ノ八年以下タルコトヲ得可シ加之原判決ノ判示スル所ニヨレハ本件犯行ノ動機ハ主犯タル

佐郷屋留雄ニ於テ(一)濱口内閣カ金解禁ノ時期ヲ誤リ夫レカ爲組閣當初ノ聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥ナル事態ヲ惹起シタルコト(二)深刻ナル不景氣ノ爲失業者倒産者犯罪者等簇出スル世相ヲ見ルニ及ンテ益同内閣ノ施政ニ對シ不滿ノ情ヲ強メタルコト(三)及同内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮少條約ヲ締結セルハ我カ外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシテ惹テ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果ニ出テタルモノナリ而シテ被告人松木良勝モ亦右佐郷屋ト略同様ノ理由ト意見ヲ抱懷シ之カ犯行ノ動機トナリシコトハ之亦原判決ノ判示スル所ナリ果シテ然ラハ被告人等ノ犯行ノ動機ハ愛國の興奮ニ出テタルモノニシテ私利私慾ヲ念トスルモノニ非ラス須ク斯ル動機ニ出テタル犯罪ニ對シテハ刑法ノ涙ヲ灑キ酌量減輕ヲ爲スヲ相當ナリトスヘク事茲ニ出テサリシ原判決ハ此點ニ付テモ刑ノ量定甚シク不當ナリトノ批難ヲ免レサルヘシ故ニ御廳ニ於テ事實審理ヲ爲シ刑ノ選擇並量定ニ付適正妥當ナル判決アラントトヲ求ムル次第ナリト云ヒ「被告人佐郷屋留雄及松木良勝辯護人鶴澤總明上告趣意書第五點原判決ハ科刑著シク不當ナリ原判決ハ被告人良勝ヲ殺人未遂幫助罪ニ問擬シ懲役八年ニ處シタリ然ルニ本件記録上被告人良勝ハ被告人留雄ノ行爲ヲ幫助シタルモノニ非サルコトハ第一點ニ述フルカ如シ假ニ斯ル行爲アリタリトスルモ其ノ動機ニ於テ前點述フル所ト相異ルモノアルコトナク被告人良勝ニ於テ被告人留雄ノ行爲ヲ阻止セントシテ其ノ至難ナルヲ説キ其ノ無謀ヲ戒メタルモ被告人留雄ニ於テ翻意ス

ル所ナキヲ以テ已ムヲ得ス判示拳銃ヲ貸與シタルモノニシテ我國ニ於ケル所謂武士ノ情ト謂フヘク事情酌量スヘキモノアルヲ以テ原判決ニ於テハ最モ寛大ナル處刑アルヘキモノナルニ事茲ニ出テサリシハ科刑著シク不當ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ

然レトモ原判決第二事實ハ其ノ舉示セル證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ認ムルニ足リ該事實ハ殺人未遂幫助罪ヲ構成スルコト洵ニ明白ナリトス而シテ原判決ニ依レハ主犯者佐郷屋留雄ニ於テハ濱口内閣カ金解禁ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲組閣當初ノ聲明ニ反シ幾多不祥事態ヲ惹起シタリト信シ又深刻ナル不景氣ノ爲失業者倒産者犯罪者等簇出スル世相ヲ見ルニ及ンテ益同内閣ノ施政ニ對シ不滿ノ情ヲ強メ尙軍備縮少條約ヲ締結シタルハ同内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シタルモノニシテ我カ外交上一大汚點ヲ印シタルノミナラス兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シテ國防ノ安全ヲ脅カシ惹テ國家ノ存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果内閣更迭ノ目的ヲ以テ濱口首相ヲ殺害セントシテ遂ケサリシモノニシテ被告人良勝ハ右留雄ト略同様ノ理由ト意見ヲ抱懷シ之ヲ動機トシテ本件幫助行爲ヲ敢テシタルコトヲ認メ得ヘシ然レハ被告人良勝ノ犯罪ノ動機亦宥怒スヘキモノアリト雖合法的手段ヲ講スルニ非スシテ擅ニ直接行動ヲ以テ内閣總理大臣ヲ殺害シ以テ内閣更迭ヲ圖リ其ノ兇行ヲ敢テシタル被告人留雄ノ犯行ノ情狀頗ル重ク其ノ罪責ノ甚大ナルコトハ既ニ同人ニ係ル上告論旨ニ付テ説明シタルトコロニシテ同人ニ對シ其ノ犯行ノ用ニ供スル兇器ヲ貸與シ因テ其ノ實行ヲ容易ナラシメタル被

告人良勝ノ犯情罪責ノ重大ナルコト亦否定スルコトヲ得サルモノアルカ故ニ原判決カ之ニ臨ムニ刑法第九十九條第二三三條所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ尙同法第六十三條第六十八條第二號ニ則リ從犯トシテノ法律上ノ減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役八年ニ處シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百八十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シ更ニ之ヨリ輕キ刑ヲ量定セス又ハ酌量減刑ヲ爲ササリシヲ目シテ其ノ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト認ムルコトヲ得ス論旨ハ理由ナキモノトス

被告人松木良勝辯護人林逸郎 角岡知良上告趣意書第三點共同辯護人ノ上告趣意ハ之ヲ援用スト云フニ在リ

然レトモ其ノ各論旨孰レモ理由ナキコトハ夫々當該說明ニ依リテ明白ナルヲ以テ宜シク該說明ニ依リテ之ヲ諒解スヘキナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴領文及古田正武關與

○醫師法違反被告事件

(昭和八年(九)第八〇九號
同年七月三十一日第二刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 齋藤善四郎 辯護人 森合時 宣
外一名 田野井子之吉 一作

【第一審】 石巻區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

醫師法第十一條ニ該當スル行爲

○判決要旨

疾病ヲ診察シテ淋病患者ニ對シ尿道ニ硝子管ヲ挿入シテ電氣ヲ通シ神經痛患者ニ對シ湯桶ニ膝ヲ入レシメテ之ニ電氣ヲ通スルハ醫行爲ニ屬シ常業トシテ之ヲ爲ストキハ醫師法第十一條ニ所謂醫業

ニ該當スルモノトス

【參照】醫師法第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人善四郎常太郎ヲ各罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各被告人ヲ各三十日間勞役場ニ留置ス押收ニ係ル物件中證第一、二號證第五乃至第七號證第九乃至第十二號證第二十一乃至第二十四號證第三十五乃至第三十七號證ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ被告人等ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人等ハ醫師ノ免許ナキニ拘ラス共謀シテ昭和七年七月下旬頃宮城縣牡鹿郡石卷本町六十三番地ニ白十字療院ト稱スル診療所ヲ開設シ被告人善四郎ハ自宅治療ヲ被告人常太郎ハ出張治療ヲ各分擔シ同年八、九月頃淋病患者安田喜太郎外八、九名餘ノ患者ニ對シ問診或ハ打診或ハ聽診或ハ觸診等ノ方法ニ依リ疾病ヲ診察シタル上淋病患者ニ對シテハ尿道ニ硝子管ヲ插入シ電氣ヲ通シ神經痛患者ニ對シテハ湯桶ニ膝ヲ入レシメ之ニ電氣ヲ通スル等ノ治療方法等ヲ施シ一回金三十錢乃至一圓ノ料金ヲ收受シ仍テ醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ醫師法第十一條刑法第六十條ニ該當スルヲ以テ醫師法第十一條ノ

所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人等ヲ各罰金三十圓ニ處シ刑法第十八條第一項第四項ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ罰金一圓ヲ一日ニ折算シタル期間内夫々勞役場ニ留置スヘク主文掲記ノ押收物件ハ本件犯罪供用物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二項ヲ適用シ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ依リ被告人等ノ連帶負擔トスヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人森時宣 河合廉一 田野井子之吉 田村喜作 上告趣意書第一點ハ原審判決カ其ノ舉示セル證據ニ依リ認定セル事實ハ「被告等ハ醫師ノ免許ナキニ拘ラス共謀シテ云々同年八、九月頃淋病患者安田喜太郎外八、九名餘ノ患者ニ對シ問診或ハ打診或ハ聽診或ハ觸診等ノ方法ニ依リ疾病ヲ診斷シタル上淋病患者ニ對シテハ尿道ニ硝子管ヲ插入シ電氣ヲ通シ神經痛患者ニ對シテハ湯桶ニ膝ヲ入レシメ之ニ電氣ヲ通スル等ノ治療方法等ヲ施シ云々仍テ醫業ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ被告人善四郎常太郎ノ右ノ行爲ヲ醫師法第十一條違反ナリト爲シテ夫々之ヲ處罰シタリト雖原審判決ハ徹頭徹尾法則ヲ不當ニ適用シ若ハ判決ニ理由ヲ附セサル違法アルモノトス惟フニ醫業ノ意義竝ニ其ノ範圍ニ關シ

醫師法第十一條ニ該當スル行爲

テ其ノ眞義ヲ把捉スルコト難ク從來ノ學說判例區々ニ岐レ御院ノ判例亦必スシモ其ノ軌ヲ一ニセサリシモ最近ニ於ケル御院判例ハ「疾病ヲ診斷シ藥劑ノ處方ヲ爲シ又ハ外科的手術ヲ行フコトヲ實質トセサル療術行爲ハ之ヲ業トスルモ醫師法第十一條ニ該當セス」(昭和六年(れ)第一一二五號同年十一月三十日第一刑事部判決)ト斷シ所謂醫業ト療術行爲トノ意義限界ヲ一刀兩斷的ニ最モ明確ニ判示シタリ是レ該判決ハ(一)一方醫師法ニ於テ醫業ノ何タルカヲ限定セサルコト即チ同法ニ於ケル醫業ノ意義ノ不明確ナルト(二)他方療術取締法規ノ系統ニ屬スル現行法令ノ存在スルコト等ノ理由ニ出テタルモノトス醫業ノ意義ハ其ノ範圍右ノ如ク然リトセハ被告人善四郎常太郎ノ所爲中(一)淋病患者ニ對シテ尿道ニ硝子管ヲ插入シ電氣ヲ通シタル行爲竝ニ(二)神經痛患者ニ對シテ湯桶ニ膝ヲ入レシメテ之ニ電氣ヲ通シタル治療行爲ノ各個ノ行爲カ醫師法第十一條違反ナリヤ否ヤハ右各個ノ行爲カ外科的手術ヲ行フコトヲ實質トスル療術行爲ナリヤ否ヤノ一點ノミニ付テ斷定スレハ足ルモノナリト云ハサル可カラズ然ルニ原審判決ハ何等此ノ點ニ付テ明示スルコト無キヲ以テ此ノ意味ニ於テ原判決ハ全ク理由不備ノ違法アリト斷セサル可カラズト確信ス蓋シ尿道ニ硝子管ヲ插入シテ之ニ電氣ヲ通スルコト湯桶ニ膝ヲ入レシメテ之ニ電氣ヲ通スルコトカ如何ナル外科的手術ニ屬スルヤハ原判決ノ說示ニテハ全ク不明ニシテ夫レ自體カ外科的手術ナリト云フヲ得サルヤ勿論ナレハナリ尤モ原判決カ其ノ斷罪ノ資料ニ供シタル鑑定人内藤勝ノ鑑定ヨリスルモ原判決カ右ノ點ヲ考量ニ入レ之ヲ判斷シタルコト

ヲ些カモ窺知スル能ハサル所ナリ蓋シ該鑑定ハ其ノ鑑定自體ニ於テ「カイロプラテイツク療法ナリト稱スル被告人等ノ治療行爲ハ醫術ト認ムヘキモノナリ」ト斷シ其ノ鑑定シタル所ハカイロプラテイツク療法夫自體ニシテ原判決認定ノ事實タル電氣治療術ニ涉ラス且ツ其ノ鑑定ノ理由中ニ於テモ被告人等ノ右●電氣治療ノ所爲カ外科的手術ヲ實質トスルモノナリヤ否ヤニ言及セス唯漫然舊來ノ御院ノ判例ヲ基準ニ一被告人等ノ應用セル治療方法ハ醫師ニ於テ醫學的方法ナリト認容セラルル方法ナルカ故ニ醫ノ治療方法ナリト斷シタルニ過キササルモノナリ果シテ然ラハ原審判決ハ被告人等ノ(一)(二)ノ所爲ニ付徹頭徹尾外科的手術ヲ實質トスル行爲ナリヤ否ヤニ付何等ノ判斷ヲ爲サス何等ノ理由ヲ附セサル違法アリト斷言シ得ヘシ惟フニ所謂電氣治療術カ單純ニ醫ノ治療方法トシテ之ヲ採用セラルルカ故ニ醫業ニシテ療術行爲ニ非スト斷スルノ非ナルハ前陳ノ如ク尙又電氣治療術カ光熱器械器具等ヲ使用シ若ハ應用スルノ故ヲ以テ直チニ醫業ナリト謂フ能ハサルハ前掲御院判例ノ示ス所(昭和五年十一月二十九日警視廳令第四十三號療術行爲ニ關スル取締規則第一條御參照)要ハ被告等ノ前記(一)(二)ノ行爲自體カ外科的手術ヲ實質トスルモノナリヤ否ヤヲ以テ其ノ醫業ナリヤ否ヤヲ斷セサル可カラズ然ラハ外科的手術ヲ實質トスルモノナリヤ否ヤハ如何ニ之ヲ斷ス可キカハ要ハ疾病治療ノ目的ヲ以テ人體ノ皮膚筋肉骨格等ニ損傷障害ヲ與フル一切ノ作業ヲ指稱スルモノナリト爲ササル可カラズト信ス從テ被告等ノ前掲(一)(二)ノ電氣治療術行爲カ人體ノ皮膚筋肉骨格等ニ損傷ヲ與フル性質ノ

モノナリヤ否ヤ之ヲ與フルモノトセハ右ノ所爲ハ外科的手術ヲ實質トスルモノニシテ醫業ナリ之ヲ與ヘサルモノトセハ外科的手術ヲ實質トセサルカ故ニ療術行爲タルニ過キスト謂ハサルヘカラス所謂各種電氣療法中レントゲン療法X光線療法ト稱スル以外ノ電氣療法ハ人體ニ損傷障害ヲ與フル性質ノモノタラス又其ノ導子(硝子管又ハ金屬製ノモノ)ヲ使用スル場合ニ於テモ人體ニ損傷障害ヲ來タスモノニアラス此ノ點ニ關シテハ原審判決ノ援用セル前記鑑定人内藤勝作成ノ鑑定書(第五章本鑑定關係ノ參考二ノ(ロ)電氣的治療方法ニ就テ御參照)ニ於テモ「太陽燈ニヨル紫外線療法ソラックス燈療法高周波電氣療法平流竝ニ感電電氣療法ハ何レモ現代醫學ノ一大進歩ヲ示ス比較的新療法ニシテ現今ノ醫師ニシテ此方法ヲ應用セス或ハ少クトモ其ノ應用ヲ知得セサルモノハ無カルヘシト信ス殊ニ「アクメ」太陽燈ノ效力赤外線療法ノ效果ニ關シテハ被告人等ノ提出セル「パンフレット」ニ醫師ノ證明セラル見ルニテモ知ルヲ得ヘク高周波電熱ニ關シテハ予等其ノ效果ヲ確認セリ只被告人等ノ利用セシ器械ハ一般醫師ノソレト多少形狀ヲ異ニセルモ高周波ノ傳達ハ其ノ導子ノ如何ニヨリテ障害ヲ受クヘキモノニ非スト認ムヘキモノナリ平流及ヒ感電電氣ノ治療效果ハ偉大ナリ只野一色電氣療具ハ其ノ導子一種獨特ナルカ如キモ之ニヨリ電氣ノ性質上變化ヲ惹起スルトハ認メ難ク醫師ノ應用ト同一規範内ニアルモノト考フヘキナリ」トアリ被告人等ノ使用應用シタル平流及感電電氣療法赤外線療法「アクメ」太陽燈療法等ハ人體ニ障害損傷ヲ與フルコトヲ否定シタリ唯僅カニ高周波電流療法ニ付テハ其ノ導子

ノ如何ニヨリテ人體ニ損傷障害ヲ與フヘキコトアルヲ豫想シタルニ過キス仍テ右ノ觀念ヨリスレハ被告等ノ右ノ所爲中(二)ノ行爲ハ徹頭徹尾人體ニ損傷ヲ與フル性質ノ療法タラス從テ又外科的手術ヲ實質トセサル療法ナルカ故ニ所謂醫業ニアラサルコト明瞭ナル可ク其ノ(一)ノ行爲ニ付テモ被告等ノ使用シタル導子ニヨリテ人體ニ損傷ヲ與ヘ若ハ之ヲ與フヘキモノナリヤ從テ外科的手術ヲ實質トスル醫業ナリヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス果シテ然ラハ被告人等ノ所爲中右(二)ノ行爲ハ絶對ニ醫業ニ非スシテ療術行爲ナリ其ノ(一)ノ行爲ニ付テハ醫業タルコトアリ然ラサルコトアリト斷セサルヘカラサルニ原判決ハ前記被告人等ノ(一)(二)ノ行爲ヲ一括シテ醫業ナリ醫師法第十一條違反ナリト判示シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト斷言シ得ヘク其ノ(一)ノ行爲ニ付同條違反ナリト爲スニ付テ其ノ何等理由ヲ附セサルハ到底破毀ヲ免レスト信スト云フニ在リ

仍テ案スルニ醫行爲トシテハ通常疾病ノ診察ト治療トヲ併セ行フト雖診察ヲ爲サシテ治療行爲ノミヲ爲シ又ハ治療行爲ヲ爲サスシテ診察ノミヲ爲ス事モ本來醫行爲ニ屬スルモノトス但シ特別ノ法規ニ於テ醫師以外ノ者カ業トシテ特定ノ治療又ハ之ニ伴フ診察ノ行爲ヲ爲スコトヲ認容シタリト解スヘキ場合ニ其ノ認容ノ範圍内ニ於テ行フ治療又ハ診察ノ行爲ハ之ヲ業トスルモ醫師法違反トシテ處斷スヘキモノニ非サルヤ言フ俟タスト雖斯ル法規ノ認容以外ニ於テ苟モ疾病ヲ診察シ又ハ治療ヲ爲スコトヲ業トスルトキハ常ニ之ヲ醫業ト解スヘキモノトス本件原判決ノ證據ニ依リ認定シタル事實ニ依レハ被

【要旨】

告人等ハ淋病患者安田喜太郎外八、九名ノ患者ニ對シ問診打診聽診又ハ觸診等ノ方法ニ依リ疾病ヲ診察シタルノミナラス淋病患者ニ對シテハ尿道ニ硝子管ヲ插入シテ電氣ヲ通シ神經痛患者ニ對シテハ湯桶ニ膝ヲ入レシメテ之ニ電氣ヲ通スル等廣義ニ於ケル外科的治療行為ヲ爲シタルモノナルカ故ニ被告人等ノ本件行為カ醫行為タルコト極メテ明白ナリ然リ而シテ被告人等ハ醫師ノ免許ヲ受ケスシテ右ノ行為ヲ爲シ一回金三十錢乃至一圓ノ料金ヲ收受シタルモノニシテ而カモ特別法規ニ於テ斯ル行為ヲ認許シタリト解スヘキ規定ナキ以上原審カ醫師法第十一條ニ所謂免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトシテ同法條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ原判決ハ毫モ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルコトナシ又敍上説明ノ如ク原判示事實自體醫業ナルコトヲ認メ得ルカ故ニ被告人等ノ判示治療行為カ外科的手術ヲ實質トスル行為ナリヤ否ヤニ付特ニ判斷ヲ爲ササレハトテ判決ニ理由ヲ附セサル違法アリト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事古田正武關與

○上訴權回復請求事件ニ關スル再抗告事件

(昭和八年(五)第二〇號
同年九月六日第三刑事部決定 棄却)

【抗告人】 西山アキ 外二名

【第一審】 玉津區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○判示事項

拘留ノ違警罪即決言渡ヲ受ケタル者ノ差出シタル保證金ト確定判決ノ拘留換刑處分ノ能否

○決定要旨

違警罪即決例ニ依リ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者保證金ヲ差出シタル場合ト雖之ヲ没入シテ正式裁判ノ請求ニ基キ爲サレタル確定判決ノ拘留刑ノ執行ニ換フルコトヲ得サルモノトス

【參照】 違警罪即決例第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出ササル者ハ第五條ニ定メタル處分ノ能否

期限内之ヲ留置ス但刑期五日以内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス
同例第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執
行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

○事實

被告人等ハ昭和八年五月十六日高田警察署ニ於テ警察犯處罰令第一條第二號違反罪ニ依リ各拘留ノ即
決言渡ヲ受ケ即日正式裁判ノ請求ヲ爲シタル結果同年六月十七日玉津區裁判所ニ於テ各同罪ニ依リ拘
留ノ判決ヲ受ケ控訴期間經過後本件上訴權回復ノ請求ヲ爲シタルモノニシテ其ノ顛末詳細ハ決定理由
所掲ノ如シ

○主文

本件抗告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

本件再抗告ノ要旨ハ抗告人等ハ昭和八年六月十七日第一審玉津區裁判所ニ於テ違警罪ニ依リ抗告人西
山アキ同加藤ツマハ拘留各七日抗告人高谷濱子ハ拘留五日ノ言渡ヲ受ケタルモ左記ノ事由ニ依リ控訴
期間内ニ控訴申立ヲ爲スコト能ハス終ニ該期間ヲ徒過スルニ至レリ即チ抗告人等ハ曩ニ同年五月十六
日右事犯ノ爲高田警察署ニ於テ夫々拘留十五日乃至二十日ノ即決處分ヲ言渡サレタル際即刻之ニ對シ

正式裁判ノ申立ヲ爲シタルトコロ同警察署ハ抗告人等ノ右申立ヲ受理シ且逃走ノ虞ナシトシテ保證金
ヲ命セサル儘即日抗告人等ヲ釋放セリ然ルニ翌十七日ニ至リ同警察署ハ井上金太郎ヲ介シテ保證金ノ
納付ヲ命シタル爲抗告人等ハ一日一圓ノ割合ニ依リ三名ノ保證金トシテ金五十五圓ヲ右金太郎ニ交付
シタルトコロ同人ハ同警察署ノ諒解ヲ得テ同月二十二日迄自ラ右保證金ヲ保管シ同日之ヲ同警察署ニ
提出シ抗告人等ハ本件ニ疏明トシテ提出セル寫ノ如キ受領書ヲ同警察署ヨリ交付セラレタリ(右受領
證ノ日附ハ六月二十二日ナルモ其ハ誤記ニシテ實際ハ上記ノ如ク五月二十二日ナリ)而テ正式裁判申
立ノ結果ハ前記ノ如ク拘留五日乃至七日ノ有罪判決ヲ受ケ即決處分ニ比シ約三分ノ一ニ減輕セラレタ
ルモ抗告人等ハ其ノ冤罪ナルコトヲ確信シ右判決ニ對シ控訴ヲ爲スヘク控訴期間内ナル同年六月二十
二日第一審ニ於テ辯護人タリシ辯護士高増貞治郎ニ依頼シ控訴狀ヲ作成シタル上同日之ヲ提出セント
シタルトコロ右事件ノ係官トシテ取調ニ當リタル同警察署司法主任時枝警部補ハ抗告人等所屬ノ高田
町料理屋營業組合長笹原佐作ニ對シ該事件ハ控訴ノ結果無罪トナルヘキモ自分ハ主任トシテ取調ニ當
リタル關係上抗告人等ノ納付セル保證金ヲ一日一圓ノ割合ヲ以テ拘留ノ執行ニ換ユヘキニ依リ其ノ取
扱ヲ爲スコトヲ條件トシテ抗告人等ニ控訴セサル様傳フヘキ旨ヲ命シ且右笹原佐作ノ同席中其ノ取扱
ノ當否ヲ電話ニテ玉津區裁判所檢事局佐志原書記ニ問合セ該取扱ノ至當ナルコトヲ確メタル上之ヲ笹
原佐作ニ言明シ抗告人等ハ佐作ヨリ其ノ由ヲ聞知シタル爲時枝警部補及佐志原書記ノ言ニ信賴シテ強

拘留ノ違警罪即決言渡ヲ受ケタル者ノ差出シタル保證金ト確定判決ノ拘留換利
處分ノ能否

テ控訴ヲ爲ササリシトコロ控訴期間經過後ノ同月二十六日ニ至リ佐志原書記ヨリ拘留刑執行ノ爲翌二十七日出頭スヘキ旨ノ通知ニ接シ抗告人等ハ初メテ時枝警部補等ノ言明カ實現スルニ至ラサリシコトヲ覺知シタリ然レ共抗告人等カ上訴期間ヲ遵守セサリシハ敍上ノ如ク司法警察官及檢事局書記ノ言明ニ信賴シタル結果ニシテ其ノ言明セル法令上ノ見解カ正當ナルヤ否ヤハ暫ク措キ斯ル法令上ノ事項ニ關シ抗告人等カ當該官憲ノ言明ニ信賴シタルコトハ抗告人等ノ過失ニ非ス從テ之ニ信賴シタル結果上訴期間ヲ徒過シタルハ全ク抗告人等ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ルモノナリ仍テ抗告人等ハ同月二十八日第一審玉津區裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲナシ同時ニ控訴申立書ヲ提出シタルトコロ同裁判所ハ抗告人等ノ過失ニ因リ上訴期間ヲ徒過シタルモノトシ右請求ニ對シ不許可ノ決定ヲ爲シタルモ抗告人等ハ之ニ服シ難キヲ以テ該決定ヲ取消シ更ニ相當ノ裁判アランコトヲ求ムル爲大分地方裁判所ニ抗告告ニ及ヒタルニ同裁判所ハ抗告棄却ノ決定ヲ爲シタルニ依リ更ニ抗告ヲ爲シタル次第ナリ抑前掲玉津區裁判所並大分地方裁判所ノ各請求棄却ノ趣旨ハ畢竟申立人等ノ申立事實ヲ措信セラルルモ而モ申立人等カ係リ警部補並裁判所書記ノ言ヲ信シ辯護人ノ言ヲ信セサルヲ以テ申立人等ノ過失トナスニアルモ前掲ノ事實並左記各理由ニヨリ申立人等ハ各原決定ヲ以テ失當ト信シ左記ノ如ク開陳ス(一)過失ノ有無並其ノ責任ハ一般人ヲ標準トシ且當該當事者ヲ其ノ根據トナササルヘカラス而モ違警罪ニ於ケル拘留刑ニ付保證金ノ没入ヲ以テ代フルハ法ノ根據ハ之ヲ措キ實際上申立人等ノ屢々見聞セルトコロナ

ルト隈井齊 松本等ノ證明書記載ノ如ク永年司法警察官吏トシ特ニ申立人等管轄ノ警察署司法主任タル時枝警部補並檢事不在勤ニシテ同上事務ノ事實上ノ主管者タル佐志原書記ノ見解(但原決定ニ依レハ違法ノ見解ナランモ)亦同一ナル以上申立人ノ之ヲ信スルハ何等一般人ノ過失ト看做ス能ハサルヘキト共ニ時枝警部補ノ如キハ抗告書記載ノ如ク却ツテ司法省達ヲ以テ誤解ナリトシ之ヲ固執セルカ如キ關係ニアルニ於テ専門家(申立人等ヨリシテ)タル同氏ノ見解ヲ信スルニ於テモ尙之ヲ過失ト見ルヘキカ否ヤ(二)常人トシテノ見地ヨリスル過失標準ニ付最近ノ判例タル昭和七年(オ)第三四九一號損害補償金請求事件ニ付昭和八年四月十四日大審院第五民事部ノ見解ニヨレハ昭和五年五月四日ナル事實ヲ其ノ配達證明ニ五月五日ト誤記セラレアルヲ以テ五月五日ナリト速斷スルヲ以テ一般人トシテノ過失ニ非サルヲ認ムルカ如ク又常識上妥當ナル見解トナササルヘカラスルト共ニ本件ニ付之ヲ類推スルニ於テハ一層申立人ノ過失ト斷セサルヘキモノト思料ス(三)仄聞スルトコロニヨレハ佐志原書記ハ隈井 松本ノ證明書記述ノ警部補ヨリノ問合セ以前ニ於テ玉津區檢事局檢事事務取扱林檢事ニ對シ司法省達ヲ示シ以テ拘留刑ヲ換刑シ得サル旨主張セラレタル由若シ此ノ事實アリトセハ前掲證明書並時枝警部補ヨリノ電話ニ對スル回答ニ付甚タ疑問アルト檢事ニ示達ヲ示シ主張セル日時ノ後前掲時枝氏ニ對スル回答アリタル事實ヨリ見テ其ノ間意見ノ變更ヲ來シタルモノニヨルカ申立人等トシテ其ノ歸趨ニ迷ヒ將來ノ爲特ニ官吏ノ言ヲ以テ執レモ法規ノ命ニヨルモノト信賴服從セル弱キ同業者一同ノ

拘留ノ違警罪即決官渡ヲ受ケタル者ノ差出シタル保證金ト確定判決ノ拘留換刑處分ノ能否

爲特ニ主張シ且賢察ヲ期スルモノニ外ナラス(四)元ヨリ官吏ノ權限ハ無制限ナラサルヘク法治國ニ於テ特ニ然ランモ棄却理由ノ如ク官吏ノ其ノ職權ノ有無及當否ニ付一々一般人ノ批評ヲ下サンカ國務ノ遂行ノ圓滑ヲ望ミ得サルト共ニ其ノ職權外ノモノニ服スルヲ以テ服從者ノ過失トセンカ一般人ハ向背ニ付其ノ從フヘキ所ヲ知ラサルニ至ルヘク公務執行妨害ニ於テ判例ニ於テハ實質的ニ權限ニ欠缺アルモ外部的ニ權限アリト認メ得ヘキ場合ニ於テハ本罪ノ成立アリトシ一般人ヲシテ其ノ權限ノ有無ノ主張ヲ許ササルニ鑑ミ之カ權限アリトシ服從スレハ過失トナリ然ラスシテ權限ナシトシテ服從セサルハ權限ノ有無ニ不拘犯罪ヲ構成スト爲スカ如キハ法理ノ許ササル所ト信ス(五)世ニ云フ承諾同行承諾留置ノ如キ嚴密ニ云ハハ法規違反ナランモ其ノ服從ニヨリテ實質的價値アリ一般人ニ其ノ不服從ヲ以テ過失ヲ免カレ得ヘシトナスノ可否ニ付一考セラレタク茲ニ申立人等ノ過失ナラサル亦判明シ得ヘシ(六)要スルニ本件ノ如キヲ申立人ノ過失トシテ葬ルノ法治國ノ眞現象ト信セサルト故意又ハ過失タルトヲ問ハス關係官吏ヲ保護スルニ急ニシテ弱キ國民ノ保護ニ吝ナルハ法ノ眞意ナラサルト共ニ司法權ノ威嚴ヲ損スヘキモノト信ス前記各理由ニ依リ本件ニ關スル大分地方裁判所ノ爲シタル抗告棄却ノ決定ハ失當且法規ニ違反スルモノト思料候ト云フニ在リ

仍テ記録ヲ調査スルニ抗告人等ハ孰レモ所論時枝警部補ノ爲本件犯罪ノ被疑者トシテ摘發セラレ昭和八年五月十六日高田警察署ニ於テ警察犯處罰令第一條第二號違反罪ニ依リ各拘留(アキ及ツマハ各拘

留二十日濱子ハ拘留十五日)ノ即決言渡ヲ受ケ之ニ對シ即日正式裁判ノ申立書ヲ同警察署ニ差出シテ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル結果玉津區裁判所ノ審理ヲ受ケ同年六月十七日同罪ニ依リ各拘留(アキ及ツマハ各拘留七日濱子ハ拘留五日)ノ判決ヲ言渡サレタルコト明ニシテ抗告人等カ疏明ノ爲同裁判所ニ提出シタル限井齊及松本等ノ各證明書ニ依レハ抗告人等ハ右判決言渡後同月十九日頃笹原佐作ヲ介シテ右時枝警部補ヨリ違警罪ニ依ル拘留ハ從來ノ取扱ニ從ヒ一日一圓ノ割合ニヨリ保證金ヲ以テ刑ノ執行ニ換ヘ得ルヲ以テ控訴セサル様トノ勸告ヲ受ケタルモ第一審辯護人高増貞治郎ヨリハ同月二十一日書面ヲ以テ右事件ハ絶對ニ金錢ヲ以テ拘留ノ執行ニ換ヘ得サルモノナレハ後日ニ悔ヲ殘ササル様期間内ニ上訴スルヲ可トストノ注意アリタル爲抗告人等ハ控訴期間内ナル同月二十二日一旦控訴申立書ヲ作成シタルトコロ笹原佐作ヨリ更ニ執行上ノ前記取扱ニ關シ右警部補ニ於テ問合セタル玉津區裁判所檢事局書記ノ回答モ警部補ト同意見ナリトシ之ニ信賴シテ控訴ヲ止ムル様勸メラレタル結果抗告人等モ右意見ニ從ヒ保證金ヲ以テ刑ノ執行ニ換ヘ得ル以上強テ控訴スルニ及ハストシ控訴申立書ヲ提出セサル儘控訴期間ヲ經過セシメタル事實ヲ認ムルニ足ルモ前記檢事局書記カ本件ノ事情ヲ知悉シテ右ノ如キ回答ヲ爲シタルコトハ到底之ヲ認ムルヲ得ス因テ按スルニ拘留ノ即決言渡ヲ爲シタル警察署ハ正式裁判ノ申立前又ハ正式裁判ノ申立期間内ニ於テハ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得ルモ正式裁判ノ申立後又ハ正式裁判申立期間經過後ニ於テハ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得サルコト違警罪即決例

拘留ノ違警罪即決言渡ヲ受ケタル者ノ差出シタル保證金ト確定判決ノ拘留換刑處分ノ能否

第十條ノ解釋上疑ヲ容レサル所ナルト同時ニ同即決例第十一條ニハ「保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ」トアリテ同條ニ所謂「保證金ヲ差出シタル者」トハ前條ノ規定ニ依リ適法ニ保證金ヲ差出シタルモノヲ指稱シ又「刑ノ言渡確定」トアルハ刑ノ即決言渡ノ確定ヲ指稱スルモノニシテ正式裁判ノ申立ニ依リテ爲サレタル判決ノ確定ヲ指稱スルモノニ非スト解スヘキヲ以テ正式裁判申立後ニ保證金ヲ差出スモ之ヲ以テ拘留刑ノ執行ニ換ヘ得サルハ勿論縱令正式裁判申立前同申立期間内ニ保證金ヲ差出スモ該申立ニ依リ爲サレタル確定判決ノ拘留刑ノ執行ニ換フルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ抗告人等カ保證金ヲ納付シタルハ其ノ主張自體ニ依ルモ明ナルカ如ク正式裁判申立後ニ係ルノミナラス該申立ノ爲即決言渡確定ニ至ラス第一審判決言渡アリタル本件ニ於テハ右保證金ヲ以テ第一審判決ノ言渡シタル拘留刑ノ執行ニ換フルコトヲ得サルコト極メテ明ナルヲ以テ抗告人等カ前記警部補ノ意見ニ從ヒ右保證金ヲ以テ同判決ノ拘留刑ニ換ヘ得ルカ如ク解シタルハ謬見ニシテ其ノ結果控訴期間ヲ徒過セシメタルハ抗告人等ノ過失ト謂ハサルヘカラス蓋シ本件ノ如ク第一審判決ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケケ之ニ對シ控訴スルカ否カ若シ一度其ノ時期ヲ失スレハ到底救済ノ途ナキ問題ニ直而シ而モ第一審辯護人ヨリ右警部補ト反對ノ見解ヲ以テ後日ノ悔ヲ殘ササル様控訴ヲ勸メラレナカラ危險ヲ冒シ本件犯罪摘發者タル右警部補ノ意見ニ聽從シ其ノ結果控訴期間ヲ徒過スルカ如キハ到底之ヲ相當ノ思慮アル

者ノ處置ト謂フコトヲ得サレハナリ然ラハ原審カ右上訴期間ヲ徒過シタルコトヲ以テ抗告人等ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ルモノトシ本件上訴權回復請求不許可ノ決定ニ對スル抗告人等ノ抗告ヲ棄却シタルハ正當ニシテ本件再抗告ハ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第四百六十六條第一項後段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○補償請求棄却決定ニ對スル抗告事件(昭和八年(一)第二二二號
同年九月六日第三刑事部決定 棄却)

【抗告人】 澤田 堅治

【第一審】 函館地方裁判所 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ト再抗告

○決定要旨

刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ

刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ト再抗告

爲スコトヲ得ス

【参照】 刑事補償法第十八條 本法ノ決定及之ニ對スル即時抗告ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法ヲ準用ス期間ニ付亦同シ

刑事訴訟法第四百六十九條 抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ掲クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

- 一 公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告
- 二 控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 三 再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 四 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告
- 五 裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告
- 六 證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

○事實

抗告人ハ刑事補償請求棄却ニ對スル抗告事件ニ付昭和八年七月二十八日札幌控訴院ニ於テ爲シタル棄却ノ決定ニ對シ更ニ本院ニ再抗告ヲ爲シタリ

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

刑事補償法第十八條刑事訴訟法第四百六十九條ニ依レハ刑事補償請求棄却ニ對スル抗告棄却ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サル所ナルヲ以テ檢事松井和義ノ意見ヲ聽キ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○治安維持違法反被告事件 (昭和八年(九)第三四三號 棄却)

同年九月六日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 金 漢 外六名 辯護人 (牧野芳大)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判 示 事 項

傍聽券所持者ノミノ公判傍聽ト審判公開ノ原則

○判 決 要 旨

裁判長力傍聽券所持者ニ限り公判ノ傍聽ヲ許スモ審判公開ノ原則

傍聽券所持者ノミノ公判傍聽ト審判公開ノ原則

ニ違背スルモノト爲スヲ得ス

【參照】憲法第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

裁判所構成法第一百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ
同法第八條 開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

○事實

第二審ハ被告人金容杰ニ對シ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ同被告人ヲ懲役三年ニ處ス第一審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
朝鮮共產黨ハ大正十四年四月中朝鮮京城府内ニ於テ金燦 金在鳳等約二十名ノ共產主義者ニ依リ組織セラレ大正十五年春ニ至リプロレタリア獨裁ヲ基礎トスル世界共產主義社會ノ實現ヲ目的トスル「コミンテルン」(國際共產黨)ニ加入ヲ認メラレテ其ノ正式ノ支部トナリ「コミンテルン」ノ指導ノ下ニ在リテ革命的手段ニ據リ朝鮮ノ獨立ヲ謀リテ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シ朝鮮ニプロレタリア獨裁ノ社會ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現スルコトヲ其ノ目的トスル秘密結社ナルカ

同黨ノ組織トシテ本部ヲ朝鮮内ニ置キ其ノ支部ヲ滿洲及日本内地ニ設ケ之ヲ滿洲部及日本部(後ニ滿洲總局及日本總局ト改稱セラル)ト爲シ黨中央執行委員會ヲ以テ黨ノ最高決議機關タル黨全國大會ノ決議ヲ執行セシムルモノトシ同黨日本部ハ黨中央執行委員安光泉ノ指令ニ基キ昭和二年五月頃東京市小石川區雜司ヶ谷町當時ノ朴洛鐘ノ居宅ニ於テ黨員ナル同人同雀益翰等カ相謀リ茲ニ同黨日本部ノ設置ヲ見ルニ至リタルモノニシテ同日本部ハ其ノ後昭和三年二月下旬頃黨全國大會ニ於テ同黨日本總局ト改稱セラレタルカ其ノ黨員ヲ以テ東京ヲ中心トシテ數個ノ「ヤチエーカ」(細胞)ヲ結成シ之ヲ以テ黨ノ基本單位タル末端ノ機關ト爲シ且同黨以外ノ團體内ニ黨ノ「フラクション」ナルモノヲ夫々組織シ之ヲ通シテ該團體内ニ黨ノ勢力ヲ扶植セシメ以テ是等ノ組織的活動ニ依リ前記目的達成ニ努メタルモノナリ

而シテ被告人ハ豫テヨリ朝鮮民族ノ獨立ヲ切望シ居リタルカ社會主義者ナル金松烈ノ感化ヲ受ケ「マルクス」主義ヲ研究スルニ從ヒ漸次共產主義ニ共鳴シ朝鮮民族ノ獨立ハ日本ノ無産階級支那新興勢力ト相結ヒ赤露ヲ其ノ背景ト爲ササルヘカラスト思惟スルニ至リ東滿朝鮮青年總同盟ニ入りテ其ノ中央執行委員トナリ以テ在滿朝鮮青年ノ爲ニ所謂青年運動ニ從ヒ居リタルモノナルトコロ被告人ハ昭和二年四月中支那吉林省延吉縣東成湧大許文里ノ當時ノ被告人居宅ニ於テ朝鮮共產黨員ナル金松烈ヨリ同黨ニ加入方ノ勸誘ヲ受クルヤ同黨カ前記ノ如キ目的ヲ有スル結社ナルノ情ヲ知リナカラ之ヲ承諾シ以

テ其ノ頃朝鮮共產黨ニ加入シタル上右金松烈ト共ニ同黨滿洲部東成湧「ヤチエーカ」ヲ結成シ其ノ後東京ニ來リ昭和三年六月上旬頃朝鮮共產黨日本總局ニ所屬シ其ノ宣傳部員トナリタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ大正十四年法律第四十六號治安維持法(舊法)ニ違反スルモノナルトコロ同法ノ刑ハ判示犯行後昭和三年六月二十九日勅令第百二十九號治安維持法(新法)ニ因リ變更セラレタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ右新舊兩法ノ刑ヲ比照シテ法律適用ヲ爲スニ被告人ノ判示所爲ハ舊法ニ於テハ其ノ第一條第一項後段ニ該當シ新法ニ於テハ國體變革ヲ目的トスル結社加入ノ點ハ其ノ第一條第一項後段ニ私有財産制度否認ヲ目的トスル結社加入ノ點ハ其ノ第一條第二項ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第八條第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ國體變革ヲ目的トスル結社加入罪ノ刑ニ從フヘキモノトス依テ以上新舊兩法ノ刑ヲ比照スレハ舊法ノ刑輕キヲ以テ前記舊法ニ於テ擬律シタル同法第一條第一項後段ニ則リ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク尙刑法第二十一條ニ則リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スルモノトス

○主 文

本件上告ハ就レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人金容杰上告趣意書ノ要旨ハ我カ朝鮮共產黨ハ國際コミンタインノ一支部トシテ且世界ソヴェトノ一分野トシテ姿ヲ現ハスノカ其ノ任務テアリマス而シテ朝鮮カラ日本帝國主義ノ政治的支配ヲ驅逐スルノカ當面革命ノ課題テアリマス我カ朝鮮共產黨ノ對内政策對外政策國際政策其ノ他ノ政策及活動ハ總テ正シキモノテ我カ黨ハ飽ク迄公黨テアリ正黨テアリマス我カ黨ノスローガンハ言論出版集會結社ノ自由封建地主ノ土地ノ無償沒收日本資本經營ノ鐵道鑛山工場農場ノ無償沒收日本軍隊ノ即時撤退日本帝國主義打倒ソヴェット朝鮮樹立帝國主義戰爭反對ソヴェット聯盟擁護ソヴェット中國擁護日支鮮プロレタリアートノ共同戰線等テアリマス私共ノ第一審公判ハ一九三〇年十一月二十五日東京地方裁判所裁判長判事神垣秀六ノ擔當ノ下ニ開廷サレタノテアリマス而シテ開廷ノ劈頭テ直ク分離暗黒退廷暴行等々ノ日本ノ法廷史上未曾有ノレコードヲ突破シタノテアリマス次テ控訴院ノ公判ハ一九三二年三月十四日カラ始マツテ判決ハ同年八月三十日ニ言渡サレタノテアリマス而シテ裁判長判事ノ法律手續ノ違反ト判決ノ不當カ私ノ上告シタ所ノ理由テアリマス一、法律手續ノ違反(A)憲法第五十九條「公判ノ對審判決ハ公開ス」ト云フ明文ニ依リ公判ハ公開スルノカ原則テアリマス然ルニ裁判長判事宮内聰太郎ノ公開ニ關スル指揮ニ付傍聽者ノ整理ヲ名トシテ傍聽券ヲ發行シ且控訴院第三號法廷ハ百五十人或ハ二百人迄ノ收容力ヲ有スル法廷ニ最高レコードカ三十六人テアツテ六人五人三人二人カ常テアツタノテアリマス此レハ公開原則ヲ確カニ蹂躪シタル現ハレテアリマス而モ間モナク公開禁止

ヲ宣言シタル其ノ口實ハ安寧秩序ヲ害スルニアルト云フ事ヲアツタノテアリマス併シ開廷以來同志金漢郷ノ陳述カ暫ク繼ケラレタノテアリマス其ノ陳述ノ内容ハ刑務所ノ許可限度内ノ雜誌或ハ其ノ他ノ書籍内務省ノ發表統計或ハ朝鮮總督府ノ公表統計又ハ一九二八年入獄以來ノ事實ヲ資料トシテ述ヘル事ニナツタノテアツテ何等宣傳煽動ニナルヘキ恐れカナカッタハカリテナク外來傍聽者等ニハ古臭ク聞エタカモ知レナイ程度ヲアツタノテアリマス其レニモ拘ラス公開禁止ノ宣言ハ安寧秩序ニ害アルト認メラレルカラテナク公開ヲ停ムル爲ニ安寧秩序ニ害アルト無理ニ口實ヲ引用シタニ過キナイ事ヲアツタノテアリマス夫レハ開廷ノ初メカラ公開規定ヲ蹂躪シタノカ餘蘊ナク之ヲ確證スル事ヲアリマス尙モ多數ノ傍聽者ハ警察ニ檢束サレテ法廷ニ入ル事モ出來ナカッタ事ヲ聞イタノテアリマス此ノ事實ニ鑑ミ刑事訴訟法第四一〇條「審判ノ公開ニ關スル法令ニ違反シタル時ハ上告ノ理由トナス事ヲ得」ト云フ規定カ明示サレテキルノテアリマス(B) 刑事訴訟法一三五條「被告人ニ對シテハ親切叮嚀ヲ旨トシ利益ニナルヘキ事實ヲ陳述スヘキ機會ヲ與フヘシ」ト云フ明文ハ被告ノ發言ノ自由カ保證サレテ居ル規定ヲアリマス然ルニ開廷以來金漢郷ノ陳述ヲ制限シ利益ニナルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ蹂躪シタル表現ハ午前九時半召喚シテ十一時半出廷セシメ十二時迄陳述サセ午後一時半カラ二時半迄長クテ三時迄陳述サセルノカ常テアリマシタ午前後ヲ合ハセテ一時半乃至二時間シカ陳述セシメスニ五、六回經テカラハ早速金漢郷ノ陳述ヲ終結セヨト云フ不正不當ナル法廷指揮ヲアツタノテアリマ

スト共ニ他ノ被告ノ裁判進行上緊急ヲ認メ發言セントスル者ニ發言權ヲ與ヘス直ク分離暗黒ニ導イテ審理ヲ進メ而モ事實訊問ヲセス證據調モセス證人佐野學 徳田球一 鍋山貞親三氏ノ召喚ノ要求モ入レス證人朴洛 鐘崔益 翰韓林 印貞植 季載裕 鄭益鉉 金桂林 金俊淵 河源 金世淵 等ノ召喚ノ要求モ入レス而モ右ノ者等ノ訴訟記録ノミヲ證據トシテ判決言渡ヲ爲シタルカ知ラレナイ事ヲアリマス刑事訴訟法第四一〇條一三號法令ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシ時ハ上告ノ理由ト爲スコトヲ得」ト云フ規定カ明示サレテ居ルノテアリマス(C) 刑事訴訟法第三四九條「被告人ニ最終ニ陳述スヘキ機會ヲ與フヘシ」トノ明文カ保證サレテ居リマス併シ私ノ最終ノ訊問ノ日ハ同年六月十四日テアツタノテアリマス本日ノ二日前タル十二日ハ刑務所内テ私カ暴行サレタノテアリマス而シテ本日ノ出廷ハ能ハサル状態テアリマシタカ監獄官吏カ無理ニ引張ルノテアツテ其ノ命令ニ從ハナケレハ暴行ヲ加ヘルカ故ニ止ムヲ得スニ出廷シタノテアリマス裁判長ノ指揮ニ從ヒ二三十分間陳述シマシタカ何ノコトヲ云フタカ今テモ覺ヘテ居ラナイノテアリマス斯様ニ三十分間ノ陳述ヲ平常時ナラ一時間或ハ二時間延ハサレルヘキテアルカ體カ確カリ衰弱シテ居タノテ急イテマトメテ了ツタノテアリマス然ルニ最後迄陳述シタイ事ハ山々テアルカ元氣カ出ナイノテアツテ残念テアルト述ヘマスト裁判長判事宮内聰太郎ハ後日身體ノ衰弱カ回復シタル時ニ最後ノ陳述ヲセシムルトハ云ハスニ後テ判決言渡日ヲ告知スルト云フ人情味ヲ缺イタル言葉ヲ言ヒ殘シテ閉廷ヲ告ケタノテアリマス此レハ被告人ニ十分

ナル陳述ヲサセナイ爲ニ裁判所ト刑務所トノ約束ノ下ニ右ノ暴行ハナサレタルモノト疑ハサルヲ得ナイ而モ刑事訴訟法第九十二條「判事ハ被告人ノ名譽身體ヲ保全スル様ニ注意スヘシ」トノ規定ニヨリ保全ヲ要求シマシタカ裁判長判事宮内聰太郎ハ法規ヲ自ラ無規シテ「裁判所ハ即答ヲ認メナイ」ト云フ決定テアツタノテアリマス斯様ナ事實ハ刑事訴訟法第四一〇條一七號「被告人ニ最終ニ陳述スヘキ機會ヲ與ヘサリシ時ハ上告ノ理由ト爲ス事ヲ得」ト云フ明文ニ依リ私ヲシテ上告ヲセシムルニ足ルヘキ條件テアリマス二、判決ノ不正不當(A)共產黨事件ヲ惡法律タル治安維持法テ裁ク事ヲ百歩讓ルコトニシテモ處刑ノ程度ハ其ノ事實ノ程度環境客觀的條件本件本人ノ性質氣分等ヲ考慮シタ上テ而モ慎重ニ考慮シテ判決スルノカ當然過キル程當然ノ事テアリマス其ノ意味ニ於テ例ヲ舉ケルト今日ノ日本ブルジョアジノ法律ニ人ヲ殺シタル者ハ三年以上無期徒刑ニ處スト云フ様ニ法規ハ定メラレテ居リマス併シ實際ニ當ツテハ最低三年ニモ當ラス無罪判決カ言渡サレル場合モアルノテアリマス其レハ正當防衛テアルカラテアリマス顧ミルニ我々プロレタリアトハ最低ノ死活線テ彷徨サレテキル者等カ生キルヘキ途ヲ求メテ最後の活動カ共產黨主義運動ニ現ハレテ居ルノテアリマス殊ニ我カ朝鮮プロレタリアハ二重壓迫ノ下ニ其ノ程度ハ最モ暴イノテアルカラ共產黨主義運動ハ全ク正當防衛ノ一現象テアリマス其レカ故ニ……我々ハ當然ニ無罪判決ヲ言渡サレルヘキテアルノテアリマス然ルニ近頃ノ日本司法ブルジョアジノ裁判實例ニ照シテ見ルト甚タ不當千萬ナル事實ヲ偶々發見セサルヲ得ナイノテ

アリマス其ノ典型的實例ヲ述ヘル事ニナリマス我々ノ同志山本宣治ハ殺人犯黒田保久二ノ凶及ニ依リ倒サレタノテアリマス當時ノ黒田ノ行動ハ凶行ヲスル爲ニ短刀ヲ懷ニシテ二、三日前カラ留守ヲ訪ネテ來タ事且面會談話カ數言ヲ過キサル内例ノ凶行カ行ハレタル事實ハ何ウ見テモ避クヘカラサル殺人犯テアル事ヲ當時ノ新聞カ傳ヘ而モ旅館ノ女中カ證明シタ事テアツタノテアリマスソレニモ拘ラス右黒田ハ東京地方裁判所テ十二年ノ判決ヲ言渡サレタノテアリマス而モ殺人犯カ長イ間保釋テ出テ居ッタノテアリマス又斯様ナ事實ハ軌ヲ一ニシタ事件カアリマス夫レハ關東震災當時甘粕大尉カ大杉榮ヲ殺シタ事件テアリマス同事件ノ加害者テアル甘粕大尉ハ死刑ノ判決ヲ言渡サレルヘキテアルノカ何ノ證據ニ依ツテモ明確ナル事實テアツタノテアルニモ拘ラス刑期ハ覺ヘテ居ラナイカ兎モ角極ク輕キ刑カ言渡サレタル事ハ明ナ事テアリマス而シテ同大尉ハ滿期出獄ニナツテモ日本ニ居ル事カ出來ス歐洲ニ遊ンタリ朝鮮ニ遊ンタリシテ居ルノテアリマス朝鮮ニ遊ンタノハ一九二九年夏頃密カニ京城ニ入ッタノヲ當時ノ新聞カ報道シタノテアリマス同人ノ行動ハ被害者ノ同志ノ凶及カ恐ロシイカラテアリマス斯ノ如キ事實ニ照シテ見ルト死刑ニ處セラレルヘキ者ニハ死刑ノ言渡ヲセスニ無罪判決ヲ言渡サレルヘキ者ニ有罪判決ヲ爲スノテアリマス今日ノ日本ノブルジョアジノ裁判ハ何ウシテモ當ニナラナイノテアリマス而モ治安維持法ハ不正不當ヲ極メタル惡法律テアルカ故ニ私達ノ事件ニ付テノ判決ハ何ノ事由ニ基イテモ無罪判決カ下サレルヘキテアル事ヲ確信スルノテアリマス刑事訴訟法第四一二條

「刑ノ量定カ甚シク不當ナリト思料スヘキ事顯著ナル事由アル時ハ上告ノ理由トナスコトヲ得」ト云フ明文ニ依リ私ニ對スル東京控訴院ノ三年ノ判決ハ其ノ量定カ不當千萬テアルト思料サレテ上告ヲ餘儀ナクセラレテ居ルノテアリマス(B)凡ソ判決ハ事實調ヘ證據ヲ十分ニシタ上テアリ得ヘキテアルト思ハレルノテアリマス夫レハ刑事訴訟法第三三六條「事實ノ認定ハ證據ニ依ル」ト云フ規定カ保證シテ居ルカラテアリマス然ルニ原審ニ於テ事實訊問モセス證據調モ確メス證人訊問モセスニ何ニ依ツテ裁判ヲ裁イタカ知レナイ事テアリマス之ハ恰モ戰場カラ捕ヘテ來タ捕虜テアリ反抗分子ニ對スル西長ノ憎惡的處置テアツテ裁判テハナイノテアリマス而モ朝鮮被告事件ニ付社會的差別テナク政治的差別的取扱ノ典型的表現テアリマス夫レハ朝鮮ニ於テ日本人ハ優越的地位ヲ占メ我カ同胞ニ對シ何位テモ私刑ノ敢行ヲ恐レニス行フノテアリマス所カ政府ハ知ラン振リヨシテ默認スルノカ常テアツテ社會團體ノ燃エ上カル輿論ニ依リ漸ク加害者ヲ引致シテ訊問ヲスルカセヌカ秘密裡ニ本人ヲ北鮮カラ南鮮カラ北鮮或ハ關東州へ或ハ臺灣へ轉居セシメテ置イテ新聞ニハ處刑ノ事ヲ報道シテ社會的輿論ヲ喰ヒ止メルノテアリマス此ノ様ナ事實ハ社會的侮辱テアルハカリテナク政治的侮辱テアリマス斯様ナ事實ハ我々ニ對スル右公判ノ事實カ全ク軌ヲ同様ニシタ事テアリマス願ミルニ私達ニ對スル一審二審ノ判決ハ過失的誤認テナク故意的誤認テアリマス即チ政治的侮辱ノ下ニ取調ヲセスニ暗カラ暗ヘ葬ツタノテアリマス依ツテ誤認ト云フ言葉テ現ハシ能ハサル事テアリマス夫レハ誤認ノ程度ヲ過キタカラ

テアリマス而シテ斯様ナ事實ニ依リ刑事訴訟法第四一四條「重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由カアルトキハ上告ノ理由トナス事ヲ得」ト云フ規定ニ從ハレ私ノ本件被告事件ハ上告審ニ廻ハサレタノテアリマス三、無罪釋放ノ要求法律ノ制定或種ノ權力者カ其ノ部下或ハ其ノ他人間ヲシテ最大限度ニ使役セシメ且服從セシメ且收獲物ヲ收メシメル爲ニ制定シタ規則カ今日ノ民法ノ始マリテアリマス從ツテ其ノ命令ニ服從サレヌ且反抗ニ出ラレ且自分ニ好マレサル人間ヲ懲戒スル爲ニ制定シタ規則カ今日ノ刑法ノ始マリテアリマス夫レカ故ニ法律ノ制定ハ權力者ノミナシ得ヘキテアツテ其ノ權力者カ其ノ權力ヲ失フトカ或ハ死ニナツタ時ハ其ノ法律ノ行使モ共ニ消ヘ去ツテ仕舞フノカ常テアリマス依テ今日資本主義社會ノ法律ハ資本階級ノ利益ノミノ爲ニ施行サレテ居ルカ其ノ資本主義社會カ滅亡スルト共ニ消エ去ルヘキ運命ヲ持ツテ居ルノテアリマス願ルニ我カ日本帝國主義ノ治安維持法ハ積極的法律テアリ侮辱的法律テアリ反動的法律テアリ抑壓的法律テアリ侵襲的法律テアリ掠奪的法律テアリ蹂躪的法律テアリマスカ裁判ノ發生原始時代ノ或ル權力者カ其ノ部下ト部下トノ間ノ經濟的の理由其ノ他ノ理由ニ依リ爭ヲ調和スルノカ裁判テアリマス此ニ反シ自分ニ反抗或ハ攻撃手段テ出ラレル者ヲ懲戒スルノハ裁判テナク權力ノ抑壓テアリマス併シ現在ノ社會テハ斯様ナ事モ裁判ト云フノカ俗化サレタノテアリマスモウ一ツノ例ハ戰線カラ捕ヘテ來タ者ヲ軍令部テ訊問スルノテアリマス所カ其レハ裁判的訊問テナク捕虜的訊問テアリマス斯様ナ事モ今日ノ社會テハ裁判ト云フノテ

アリマス然シ私達ハ正當ナル裁判ヲ受ケタイノカ上告ヲシタ主タル意味テアリマス上告裁判ハ司法ノ最高機關テアリ裁判ノ最後判決テアリマス國民ノ絶對多數ノ爲ニ善惡法律ノ取捨ニ自ラ通觀サレ日本帝國主義ノ壓制政治ノ下ニ必然ニ生マレ正シイ體系正シイ見解ノ下ニ働イテ來タ所ノ我カ共產黨ノ被告事件ニ付惡法律タル治安維持法ヲ撤廢スル事ニ依リ本質カ罪ナキ事件テアルカ故ニ罪ナキ判決ヲ言渡サレテ頂キタイ事ヲ切ニ希望スルノテアリマス云フニ在リ

仍テ按スルニ(一)裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開スルヲ原則ト爲スコト洵ニ所論ノ如シト雖安寧秩序ヲ害スル虞アルトキハ裁判所ノ決議ニ依リテ對審ノ公開ヲ停メ得ヘク此ノ場合ニ對審ノ公開ヲ停止スヘキヤ否ヤハ一ニ裁判所ノ認定ニ任セラレタルモノト解スヘキコト疑ヲ容ルルノ餘地ナシ記録ニ徵スルニ原審ハ昭和七年四月十八日ノ公判期日ニ於テ合議ノ上本件審理ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アルモノト認メ公開ヲ停止スル旨宣言シ傍聽人ヲシテ直ニ退廷セシメタルコト明白ニシテ右ハ前敍ノ理由ニ依リ原審カ正當ニ其ノ職權ヲ行使シタルニ外ナラサルモノト云ハサルヘカラス尙公開停止以前公判開廷ニ際シ傍聽券ヲ交付シ其ノ所持者ノミヲ入廷セシメ以テ傍聽人ノ混雜ヲ防キ其ノ整理ヲ爲スカ如キハ裁判長ニ屬スル法廷秩序維持權ノ行使ニ過キササルヲ以テ縱令原審ニ於テ傍聽券ヲ發行シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ公判公開ノ原則ヲ蹂躪シタルモノト爲スヲ得ス(二)訴訟審問ノ指揮ハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬スルコト裁判所構成法第四百條ニ依リ明白ナルヲ以テ被告人ノ訴訟進行其ノ他ニ關スル

【要旨】

發言ヲ許容スルト否トハ裁判長ノ專權ニ屬スルコト論ヲ俟タス從テ原審裁判長カ所論ノ如キ發言ヲ許ササリシトスルモ毫モ違法ニ非ス又記録ニ依レハ被告人金漢郷ハ原審公判廷ニ於テ屢々發言ノ許可ヲ得テ寧ロ冗長ニ渉ルノ嫌アル陳述ヲ爲シタルコト明白ナルヲ以テ原審ハ被告人ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スヘキ機會ヲ充分ニ與ヘタルモノト云フヘク刑事訴訟法第三百三十五條ニ違背シタル點アルコトナシ尙原審ニ於テハ被告人等ニ對シ事實ノ訊問ヲ爲シ適法ナル證據調ヲ爲シタルコト記録上明白ナリトス次ニ刑事訴訟法第四百十條第十三號ニ所謂法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據トハ同法第三百四十二條ノ如ク特ニ法律ノ明文ヲ以テ公判廷ニ於テ取調フヘキコトヲ規定シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ裁判所カ證人喚問ノ申請ヲ採用セス從テ其ノ證人ヲ取調ヘサリシカ如キハ右第四百十條第十三號ノ場合ニ該當セス加之證據調ノ限度ノ裁量ハ原審ノ專權ニ屬スルコロナルヲ以テ原審カ所論證人喚問ノ申請ヲ許容セリサシトスルモ之ヲ以テ違法ナリト爲スヲ得ス(三)記録ヲ調査スルニ昭和七年六月十四日ノ原審公判ニ於テ裁判長ハ被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ許シ被告人ニ於テ其ノ陳述ヲ爲シタルコト頗ル明白ニシテ裁判所カ故意ニ被告人ヲシテ陳述ヲ爲サシメサリシトノ所論事實ハ到底之ヲ認メ難ク刑事訴訟法第三百四十九條違背ノ事實アルコトナシ(四)原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ヘク右事實ニ依レハ治安維持法違反ノ罪ヲ構成スルコト疑ナシ從テ被告人ヲ同法ニ問擬シタル原判決ハ正當ナリ記録ニ徵スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑

フニ足ル事由ナク判示所爲カ正當防衛トシテ爲サレタリトノ所論事實モ之ヲ認ムルニ足ラス又記録ニ依レハ原審ハ被告人ニ對シ適法ナル事實ノ訊問ヲ行ヒ證據調ヲ經タル上判決ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘク何等違法ノ點アルコトナシ尙記録ヲ精査シ犯情其ノ他諸般ノ事情ヲ斟酌スルニ原審ノ被告人ニ對スル刑ノ量定ヲ目シテ甚シク不當ナリト思料スヘキ事由ナシ以上ノ外被告人ニ於テ縷々陳述スルトコロアルモ之ヲ要スルニ立法行政等ニ關スル事項ヲ論議シ又ハ原判決ニ副ハサル事實ヲ主張スルニ過キサルヲ以テ判斷ヲ與フヘキ限ニ非ス論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○公文書偽造行使私文書偽造行使詐欺業務上橫領公文書毀棄被告

事件竝附帶私訴請求事件 (昭和八年(九)第八七六號 公訴上告棄却
同年九月六日第三刑事部判決 私訴自毀自判)

【公私訴上告人】 被告人 私訴被告 末松三郎 辯護人 津川友一

【私訴被上告人】 私訴原告 國 代表者 大審院檢事局檢事總長 林 賴三郎

【第一審】 熊本地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

登記官吏力印紙代用トシテ受領シタル現金ト其ノ所有者

○判決要旨

登記官吏ハ縱令登記申請人ヨリ登録稅納入ノ爲貼用スヘキ印紙ノ代用トシテ現金ヲ受領スル慣行アリトスルモ該現金ハ當然國ノ所有ニ歸屬スルモノト爲スヲ得ス

【參照】 刑法第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ橫領シタル者亦同

登記官吏力印紙代用トシテ受領シタル現金ト其ノ所有者

登録税法第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

登録税法施行規則第一條 印紙ヲ以テ納ムル登録税ノ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

同規則第二條 登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

○事實

第二審ハ本件公訴ニ付左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人三郎ヲ懲役一年六月ニ處ス押收物件中證第四十二號ノ收入印紙ハ之ヲ被害者國ニ還付ス訴訟費用中豫審ニ於ケル證人本田大喜ニ支給シタル分ヲ除キ其ノ他ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ裁判所書記トシテ大正十三年二月ヨリ昭和四年十月迄天草區裁判所高濱出張所ニ同月ヨリ昭和七年九月末頃迄八代區裁判所宮原町出張所ニ夫々勤務シ居リタルモノナル處

第一事實省略

第二 (イ) 昭和四年十二月末頃ヨリ昭和七年六月頃迄ノ間五十數回ニ互リ前記宮原町出張所ニ於テ同出張所並前記高濱出張所ニ在勤中ニ登記官吏トシテ受付ケナカラ制規ノ緩込ヲ爲サス自己ニ於テ業務上保管シ居タル高濱出張所受付賣主馬場信明買主倉田寅彦間ノ土地賣買ニ因ル所有權移轉

登記申請外十四件及宮原町出張所受付賣主吉岡源次郎買主吉岡覺間ノ土地賣買ニ因ル所有權移轉登記申請外四十件ニ關スル申請書若ハ登記囑託書ニ貼付シアリタル未消印ノ印紙(此ノ價額合計二千二百七十一圓餘)ヲ擅ニ剝離シテ之ヲ著服横領シ以テ公務所ノ用ニ供スル申請書登記囑託書等ヲ毀棄シ

(ロ) 前記宮原町出張所ニ在勤中昭和五年十二月頃及昭和七年一月頃數回ニ互リ大日本人造肥料株式會社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付登記官吏トシテ各申請人ヨリ登録税代用トシテ現金千四百十六圓五十五錢ヲ受取り該申請ヲ夫々受理シ該金員ヲ保管中其ノ頃宮原町等ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シ

タルモノニシテ右被告人ノ所爲中横領其ノ他同一罪名ニ係ルモノハ夫々犯意繼續ノ下ニ爲サレタルモノトス

而シテ右第二(ロ)ノ犯罪ノ性質ニ付按スルニ被告人カ登記官吏ノ資格ニ於テ其ノ業務タル登記事務ニ關シ貼用印紙ノ代用トシテ現金ヲ受領セルコトハソレカ適法ノ行爲ニアラサルコトハ勿論ナリト雖凡ソ業務横領ニ關スル規定ハ其ノ業務トシテ爲ス行爲ヲ保護スル目的ニ出テタルモノニアラスシテ其ノ業務關係ニ由來スル特別ナル信用關係ヲ保護スルニアルモノナレハ今其ノ業務トシテ爲ス行爲カ公ノ職務上ノモノトシテ保護セラルルコトナキ場合ニ於テモ尙其ノモノカ業務ニヨリ受領保管セラルル

關係ニアル以上不正ニ之ヲ領得スルトキハ業務横領罪ヲ構成スルモノトス
 法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲中(中略)最モ重キ田村義男ノ所有權取得ニ關スル偽造登記簿
 行使罪ノ刑ニ從フヘク判示第二ノ所爲中(イ)ノ公務所ノ用ニ供スル文書毀棄ノ點ハ同法第二百五十
 八條第五十五條ニ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ該リ公務所ノ用ニ供スル文書ヲ
 毀棄シテ業務上横領ヲ爲シタル所爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五
 十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ業務上横領罪ノ刑ニ從フヘク之ト前記偽造登記簿行使罪トハ同法
 第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ重キ右偽造登記簿行使罪ノ刑ニ法
 定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク而シテ登記官吏カ登記ノ申請
 書若ハ囑託書ヲ受取リ之ヲ却下セサルニ於テ茲ニ該書ニ貼用ノ印紙ハ直ニ登録税トシテノ納付ヲ了ハ
 リ國ノ所有ニ歸スヘキモノト解スルヲ以テ本件横領罪ノ贓物タル證第四十二號ノ收入印紙ハ刑事訴訟
 法第三百七十三條ニヨリ之ヲ被害者國ニ還付スヘク訴訟費用中豫審ニ於ケル證人本田大喜ニ支給シタ
 ル分ヲ除キ其ノ他ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
 第二審私判決ノ主文、事實並理由左ノ如シ

主 文

被告ハ原告ニ對シ金三千六百七十五圓十九錢及之ニ對スル昭和八年二月十四日ヨリ支拂濟ニ至ル迄

年五分ノ割合ニヨル金員ヲ支拂フヘシ

原告共ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

事 實

原告國代表者ハ被告ハ原告ニ對シ金三千六百八十八圓三十九錢及之ニ對スル昭和八年二月十四日ヨ
 リ完済迄年五分ノ損害金ヲ支拂フヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔トストノ判決ヲ求ムル旨申立テ其ノ請
 求原因トシテ被告ハ裁判所書記トシテ大正十三年ヨリ昭和四年十月迄天草區裁判所高濱出張所ニ同
 月ヨリ昭和七年九月末頃迄八代區裁判所宮原町出張所ニ夫々勤務シ居リタルモノナル處(一)昭和
 四年十月頃ヨリ昭和七年七月、八月頃迄ノ間五十數回ニ互リ前記宮原町出張所ニ於テ同出張所並前記
 高濱出張所登記官吏トシテ在勤中ニ受付ケナカラ制規ノ緩込ヲ爲サス自己ニ於テ業務上保管シ居タ
 ル高濱出張所受付賣主馬場信明買主倉田寅彦間ノ土地賣買所有權移轉登記申請外十四件並宮原町出
 張所受付賣主吉岡源次郎買主吉岡覺間ノ土地賣買所有權移轉登記申請外四十件ニ關スル登記申請書
 若クハ登記囑託書ニ貼付シアリタル合計金二千二百七十一圓八十四錢相當ノ未消印ノ收入印紙ヲ擅
 ニ剝離シテ著服横領シ(二)前記宮原町出張所登記官吏トシテ在勤中昭和五年十二月中並昭和七年
 一月末頃前後二回ニ大日本人造肥料株式會社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付各申請人

ヨリ登録税用トシテ提出シタル現金合計千四百十六圓五十五錢ヲ受入レ保管中其ノ頃宮原町等ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消横領シタルモノニシテ原告國ハ被告ノ右不法行爲ニヨリ合計金三千六百八十八圓三十九錢ニ相當スル損害ヲ被リタリ依テ茲ニ被告ニ對シ右金員及之ニ對スル私訴狀送達ノ翌日タル昭和八年二月十四日ヨリ完済迄年五分ノ損害金ノ支拂ヲ求ムト陳述シ立證トシテ被告ニ對スル公私文書偽造行使詐欺公文書毀棄業務上横領被告事件ノ公訴記録ヲ援用シタリ

被告ハ原告請求通りノ判決ヲ求メ答辯トシテ原告ノ主張事實ハ全部之ヲ争ハスト述ヘタリ

理 由

被告ハ裁判所書記トシテ大正十三年二月ヨリ昭和四年十月迄天草區裁判所高濱出張所ニ同月ヨリ昭和七年九月末頃迄八代區裁判所宮原町出張所ニ在勤中(一)昭和四年十二月末頃ヨリ昭和七年六月頃迄ノ間ニ五十數回ニ互リ前記宮原町出張所ニ於テ其ノ業務上保管ニ係ル賣主馬場信明買主倉田寅彦間ノ土地賣買所有權移轉登記申請外五十餘件ノ登記申請書若クハ登記囑託書等ニ貼付シアリタル合計金二千二百七十一圓五十九錢(原告主張ノ金二千二百七十一圓八十四錢ナルコトハ之ヲ認メ難シ)相當ノ未消印ノ收入印紙ヲ剝離シテ著服横領シ(二)前記宮原町出張所在勤中昭和五年十二月頃及昭和七年一月末頃數回ニ互リ大日本人造肥料株式會社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付登記官吏トシテ各申請人ヨリ登録税代用トシテ現金千四百十六圓五十五錢ヲ受取リ該申請ヲ夫々受

理シ該金圓ヲ保管中其ノ頃宮原町等ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シタル事實ハ公訴判決ニ於テ引用セル各證據ニヨリ明瞭ナルト共ニ該證據ニ徵スレハ右(一)(二)ニ掲記ノ登記申請若ハ登記囑託等(八代區裁判所ヨリ貼用印紙二十錢ヲ以テ囑託セル土地假差押登記ノ分野村貞信報告書ノ第十六記錄二八二丁ハ之ヲ除ク)ハ孰レモ被告カ登記官吏トシテ受理シタル事情ニアルコトヲモ認ムルニ足レリ依テ之等二千二百七十一圓三十九錢相當ノ印紙及千四百十六圓五十五錢ノ現金ハ右受理後ニ於テハ果シテ何人ノ所有ニ歸屬セルモノナリヤノ點ヲ按スルニ登記官吏カ登記ニ關スル申請ヲ受取リタル場合ニ於テハ若シ其ノ申請ニ欠缺アリテ之ヲ却下スルニハ遲滞ナク爲スヲ要スヘキコト不動産登記法第四十九條ノ規定ニ照シ明瞭ニシテ申請書ヲ受取リ斯ル手續ヲ爲ササル以上國家ハ茲ニ該申請ニ副フ手續ヲ完了スヘキ義務ヲ負擔シ其ノ後登記官吏ノ過誤ニ基キ登記ニ錯誤又ハ遺漏アルヲ發見シ之カ更正ヲ爲ス場合ニ於テモ登録税ヲ徵收セサルコトハ不動産登記法第六十三條登錄税法第十九條ノ三ニ明定スル所ナリ而シテ此ノ法意ニ鑑ミルトキハ申請書ヲ受取リ之ヲ却下セサル以上ハ該申請書ニ貼用ノ印紙若ハ之カ代用トシテ登記官吏ノ受領セル現金ハ茲ニ直ニ登録税トシテノ效用ヲ了ルト同時ニ申請人ノ所有ヲ離脱シ國家ニ歸屬スルモノト解スヘク然ラハ即チ本件ニ於テ右二口合計金三千六百八十七圓九十四錢ヨリ公訴判決ニ於テ國ニ對シ還付ヲ命シタル分ノ横領印紙ノ價格ニ相當スル十二圓七十五錢ヲ控除セル金三千六百七十五圓十九錢ハ原告國ニ於テ被告ノ前記

不法行為ニヨリ被リタル損害ト認ムヘキハ洵ニ當然ナルヲ以テ右金員及之ニ對スル私訴狀送達ノ翌日タル昭和八年二月十四日(私訴狀カ昭和八年二月十三日被告ニ送達セラレタルコトハ記録中ノ送達證書ニヨリ明カナリ)ヨリ支拂濟迄年五分ノ損害金ノ支拂ヲ求ムル原告ノ請求ハ正當トシテ認容スヘキモノトス然レトモ之レ以上ニ被告ニ責任アリトノ原告ノ主張ハ認メ難キヲ以テ前記ノ認定ヲ超過スル原告ノ請求ハ失當トシテ排斥スヘク訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第五百七十二條第五號民事訴訟法第八十九條第九十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○主 文

被告人末松三郎ノ公訴上告ハ之ヲ棄却ス

原私訴判決ヲ破毀ス

私訴被告ハ私訴原告ニ對シ金二千二百五十八圓六十四錢及之ニ對スル昭和八年二月十四日ヨリ支拂濟ニ至ル迄年五分ノ割合ニヨル金員ヲ支拂フヘシ

私訴原告ノ其ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

私訴訴訟費用ハ全部私訴被告ノ負擔トス

○理 由

辯護人津川友一上告趣意書第一點第二審裁判所判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ第二審裁判所判示事實理由

中第二(ロ)前記宮原町出張所ニ出勤中昭和五年十二月頃及昭和七年一月頃數回ニ互リ大日本肥料株式會社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付登記官吏トシテ各申請人ヨリ登録稅代用トシテ現金千四百十六圓五十五錢ヲ受取り該申請ヲ夫々受理シ該金員ヲ保管中其ノ頃宮原町等ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シタルモノニシテト判示シ證據證明ノ部ニ於テ「一被告人カ當公廷ニ於テ判示第二(ロ)ノ金員保管ノ原因ニ付該金員ハ自分ハ登記官吏トシテ登記申請ヲ受理シ其ノ印紙代用トシテ受領シタルモノニシテ個人トシテ預リタル關係ニアラス從テ夫々登記濟證ヲ交付セル旨ヲ供述シ且其ノ餘ノ事實ニ付全部判示ト同一趣旨ノ供述ヲ爲セルト更ニ第二(ロ)ノ犯罪ノ性質ニ付被告人カ登記官吏ノ資格ニ於テ其ノ業務タル登記事務ニ關シ貼用印紙ノ代用トシテ現金ヲ受領セルコトハ其レカ適法ノ行爲ニアラサルコトハ勿論ナリト雖凡ソ業務横領ニ關スル規定ハ其ノ業務トシテ爲ス行爲ヲ保護スル目的ニ出テタルモノニアラスシテ其ノ業務關係ニ由來スル特別ナル信用關係ヲ保護スルニアルモノナレハ今其ノ業務トシテ爲ス行爲カ公ノ職務上ノモノトシテ保護セララルコトナキ場合ニ於テモ尙其ノモノカ業務ニヨリ受領保管セララル關係ニアル以上不正ニ之ヲ領得スルトキハ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス」ト説明セリ今第二審記録ヲ閱スルニ被告ハ明カニ登記官吏トシテ收入印紙ノ代ハリニ現金ヲ受取りタルコトヲ認メ個人トシテ受取りタルニ非サルコト記載アリ尙其ノ前後ノ模様ヲ見ルニ記録七九〇、七九二、七九三、七九五丁等ニ記載アリテ因是觀之登記申請人モ被告モ收入印紙ヲ納

入スルノ不便ヲ除ク爲便宜上印紙ニ代用シテ現金ヲ受取リタルコトヲ認ムルニ足ル而シテ收入印紙ノ代ハリニ現金ヲ受取リタル現金ノ性質ヲ明ニスル事ハ即チ本件重要ナル點ニシテ判示上述セル如ク印紙ノ代用トシテ受取リタルコトハ適法ニアラサルハ勿論ニシテ法ノ之ヲ許ス明文毫モナシ却テ被告カ登記官吏トシテ印紙ニ代ハル現金ヲ受領スルノ權限ナキモノト云ハサルヘカラス登記官吏トシテハ現金ヲ取扱フモノニ非スシテ登記申請書ニ貼用スル印紙ヲ受取リ取扱フノ權限ノミアルモノト云ハサルヘカラス登録税法第十七條ハ登録税ハ印紙ヲ以テ納入スヘシト又登録税法施行規則第一條印紙ヲ以テ納ムル登録税ハ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ納入スヘシ同法第二條登録税額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出現金ヲ以テ納ムルコトヲ得トノ明文アルヲ以テ見レハ登記官吏ハ印紙ノ代用トシテ現金ヲ受取ルコトヲ禁止シタルモノト解スヘキモノトス登記官吏トシテ被告カ受取リタル現金ハ登記官吏ノ職務行爲トシテ受取リタルモノト云フヲ得サルモノトス凡ソ業務横領罪成立センカ爲ニハ其ノ業務カ法令ニ基ク場合ニ限ルヘキモノニ非スシテ慣例又ハ契約ニ因ルモ可ナリ然レトモ業務行爲トシテ法令上特ニ否認セラレタル行爲ハ業務ナリト云フヲ得ストハ御院判例ノ示ス所ナリ(明治四十二年判決錄九七一頁)然リ而シテ被告カ收入印紙ノ代ハリニ便宜上現金ヲ申請人等ヨリ受取リタル行爲ハ所謂法ノ禁止シタル行爲ニシテ判示ノ如ク業務行爲ト云フヲ得サルモノナリ假令被告カ登記官吏トシテ收入印紙ノ代ハリニ便宜上印紙相當ノ現金ヲ受取リタリト認ムルモ被告ノ認否ニヨリテ其ノ行

爲ノ性質ヲ變更スルノ理由毫モナキナリ換言スレハ法令ニヨル權限ノ定メアルモノカ被告登記官吏トシテノ認否ニヨリ收入印紙ヲ受取ルコトヲ許サレタルモ現金ヲ受取ルコトヲ許サレサルモノカ受取ルコトヲ得ルコトニ變更スルノ理由ナキモノト信ス果シテ然ラハ第二審裁判所ハ被告ヲ業務行爲ニヨリ受領保管セララル關係ニアル以上不正ニ之ヲ領得スルトキハ業務横領罪ヲ構成スルモノト説明セルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ按スルニ原判決カ其ノ第二ノ(ロ)ノ事實トシテ判示スルトコロハ被告人ハ八代區裁判所宮原町出張所ニ裁判所書記トシテ在勤中昭和五年十二月頃及昭和七年一月頃數回ニ互リ大日本人造肥料株式會社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付登記官吏トシテ各申請人ヨリ登録税代用トシテ現金千四百十六圓五十五錢ヲ受取リ該申請ヲ夫々受理シ該金員ヲ保管中其ノ頃宮原町等ニ於テ擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シタリト云フニ在リテ之ニ依レハ被告人カ登録税代用トシテ右金員ヲ受領シ之ヲ保管スルコトカ從來ノ慣行ニ依ル業務ナリト爲スモノニ非サルハ勿論登記官吏タル被告ノ職務權限ニ屬スル事項ナリト爲スモノニモ非ス其ノ他如何ナル業務ニ依ルモノナルヤヲ明示セサルヲ以テ原判決ノ認メタル犯罪ノ具體的事實關係ハ結局被告人カ右登記官吏トシテ勤務中右申請人等ヨリ前示金員ヲ登録税代用トシテ預リ同人等ノ爲保管中擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シタリト云フニ過キサルモノト解セサルヲ得ス尤モ原判決ハ業務トシテ爲ス行爲カ公ノ職務上ノモノトシテ保護セラルルコトナキ場

合ニ於テモ尙其ノモノカ業務ニヨリ受領保管セラルル關係ニアル以上不正ニ之ヲ領得スルトキハ業務
 横領罪ヲ構成スルモノト爲シ判示金員ヲ以テ被告人カ登記官吏ノ業務ニ依リ保管スル關係ニ在ルモノ
 ニシテ之ヲ横領シタルハ即チ業務横領罪ニ該當スルモノト解スルカ如シト雖之固ヨリ原審カ判示セル
 具體的事實關係ニ對スル法律上ノ見解ヲ示シタルニ外ナラスシテ之アルカ爲其ノ事實關係ニ何等變更
 ヲ及ホスモノニ非サルコト明白ナリ而カモ被告人カ登記官吏トシテ職務ヲ行フニ當リ登記申請人ヨリ
 登録税代用トシテ現金ヲ受領シ保管スルカ如キ慣行ノ存スルコトハ記録ニ徵スルモ之ヲ認め難キト同
 時ニ本院ニ於テモ斯ル慣行ノ存スルコトヲ認ムルヲ得ス然ラハ判示第二ノ(ロ)ノ事實ハ被告人カ登記
 申請人等ヨリ登録税代用トシテ前示金員ヲ預リ同人等ノ爲保管中擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消横領シタ
 ル事實ニ外ナラサルヲ以テ被告人ノ右所爲ハ刑法第二百五十二條ノ横領罪ヲ構成シ同法第二百五十三
 條ノ罪ニ該當セス從テ同法條ニ問擬シタル原判決ハ失當タルヲ免レス而シテ本件ニ於テハ判示第二ノ
 (ロ)ノ所爲ハ刑法第二百五十二條第一項第二ノ(イ)ノ中業務上横領ノ所爲ハ同法第二百五十三
 條ニ該當シ右ハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ重キ刑法第二百五十三條ノ一罪ト爲スヘ
 キ關係ニ在ルモノナルヲ以テ右第二ノ(イ)(ロ)ノ横領ノ所爲ニ付原判決ノ如ク刑法第二百五十三條
 第五十五條ヲ適用スルト敍上ノ如ク刑法第二百五十二條第一項第二ノ(イ)第五十三條ヲ適用スル
 トハ結局同一ニ歸シ毫モ被告人ノ責任ニ消長ヲ來スコトナク右ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ホササルヲ

以テ之ヲ破毀スヘキ理由ト爲スニ足ラス論旨ハ理由ナシ

次ニ附帶私訴ノ上告ニ付按スルニ登記申請人カ不動産登記法ニ依リ登記ノ申請ヲ爲スニ際シテハ一定
 ノ登録税ヲ納ムヘク登録税ハ原則トシテ登録ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ納入スヘキモノナル
 コトハ不動産登記法第四十九條第九號登録税法第十七條登録税法施行規則第一條第二條等ノ規定ニ依
 リ明白ナルヲ以テ登記申請人ハ登録税代用トシテ現金ヲ登記官吏ニ交付シ得サルハ勿論登記官吏モ亦
 其ノ職務上登記申請人ヨリ登録税代用トシテ現金ヲ受領保管スルコト能ハサルモノニシテ登記官吏カ
 斯ル金員ヲ受領保管スルモ之カ爲該金員カ國ノ所有ニ歸屬スルモノト爲スヲ得サルモノトス而シテ原
 審カ私訴ニ付認定シタル事實ハ公訴ニ於ケルト同シク被告人三郎カ裁判所書記トシテ大正十三年二月
 ヨリ昭和四年十月迄天草區裁判所高濱出張所ニ同月ヨリ昭和七年九月末頃迄八代區裁判所宮原町出張
 所ニ在勤中(一)昭和四年十二月末頃ヨリ昭和七年六月頃迄ノ間ニ五十數回ニ互リ前記宮原町出張所
 ニ於テ其ノ業務上保管ニ係ル賣主馬場信明買主倉田寅彦間ノ土地賣買所有權移轉登記申請外五十餘件
 ノ登記申請書若ハ登記囑託書等ニ貼付シアリタル合計金二千二百七十一圓五十九錢(原告主張ノ金二
 千二百七十一圓八十四錢ナルコトハ之ヲ認め難シ)相當ノ未消印ノ收入印紙ヲ剝離シテ著服横領シ
 (二)前記宮原町出張所在勤中昭和五年十二月頃及昭和七年一月末頃數回ニ互リ大日本人造肥料株式會
 社ノ建物保存登記申請外登記申請事件三件ニ付登記官吏トシテ各申請人ヨリ登録税代用トシテ現金千

四百十六圓五十五錢ヲ受取リ該申請ヲ夫々受理シ該金員ヲ保管中共ノ頃宮原町等ニ於テ之ヲ自己ノ用途ニ擅ニ費消横領シタリト云フニ在リテ右(二)ノ事實關係ハ被告人カ登記官吏トシテ職務上保管セル金員ヲ擅ニ費消シタリト云フニアラスシテ被告人カ右登記申請人等ヨリ登録稅代用トシテ預リ同人等ノ爲保管セル右金員ヲ擅ニ自己ノ用途ニ費消横領シタルニ過キサルモノト解スヘキモノナルコトハ前示上告趣意書第一點ニ於テ説明セルトコロナリ然ラハ被告人ハ右(一)ノ所爲ニ因リ私訴原告ニ對シ合計金二千二百七十一圓五十九錢ヨリ原審控訴判決ニ於テ私訴原告國ニ對シ還付ヲ命シタル横領印紙ノ價額ニ相當スル金十二圓七十五錢及原審私訴判決ニテ除キタル八代區裁判所ノ登記囑託用貼用印紙額二十錢ヲ控除セル金二千二百五十八圓六十四錢(原審ニテ認容セル金三千六百七十五圓十九錢ヨリ(二)ノ金千四百十六圓五十五錢ヲ差引キタル額ニ相當ス)ニ相當スル損害ヲ蒙ラシメタルコト明白ナルヲ以テ右金員竝之ニ對スル年五分ノ割合ニ依ル損害金ヲ私訴原告ニ支拂フヘキ義務アルコト勿論ナリトス然レトモ前示(二)ノ金千四百十六圓五十五錢ニ付テノ本訴請求ハ敍上ノ如ク被告人カ各登記申請人等ヨリ登録稅代用トシテ預リ同人等ノ爲保管セルモノニシテ其ノ所有權ハ依然右申請人等ニ屬シ未タ以テ私訴原告ノ所有ニ歸屬セサルモノト云フヘキノミナラス縱令前示ノ如キ慣行存ストスルモ之カ爲生スル法律關係ハ單ニ被告人ト登記申請人トノ間ニ止マリ被告人カ登記申請人ヨリ登録稅代用トシテ預リタル金員ハ當然私訴原告ノ所有ニ屬スルモノト云フヲ得ス然ラハ私訴原告ハ被告人ノ

【要旨】

右(二)ノ所爲ニ因リ何等權利ヲ侵害セラレタルモノニ非サルニヨリ同原告カ被告人ニ對スル右金千四百十六圓五十五錢ノ本訴請求ハ失當ニシテ之ヲ排斥セサルヘカラス仍テ本訴請求中前示金二千二百五十八圓六十四錢及之ニ對スル私訴狀送達ノ翌日タル昭和八年二月十四日ヨリ支拂濟ニ至ル迄年五分ノ割合ニヨル損害金ノ支拂ヲ求ムルハ正當ナルモ其ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却スヘキモノトス然ラハ原判決ニ於テ被告人ニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキ義務アリトシテ金千四百十六圓五十五錢ノ支拂ヲモ命シタルハ不法行爲ニ關スル民法ノ規定ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモ斯ル違法ハ原判決ノ事實ノ認定ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナリトス(其ノ他ノ公訴ニ關スル上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條第六百六條第五百七十二條第五號民事訴訟法第八十九條第九十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○名譽毀損被告事件 (昭和八年(九)第八八〇號 棄却)

【上告人】 被告人 安藤 義 男
【第一審】 高松區裁判所 【第二審】 高松地方裁判所

○判示事項

名譽毀損罪ノ成立

○判決要旨

名譽毀損罪ハ德義又ハ法律ニ違反セル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテモ成立ス

【參照】 刑法第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ高松市新港町四丁目十四番地ニ於テ月二回發行ノ庶民新聞ヲ經營シ同新聞ノ發行兼編輯人ナ

ルトコロ昭和八年二月一日發行ノ同新聞第九十號第三面ニ池添辰次郎ノ三女壽子當十九年ノ寫眞ヲ掲ケ全面見出ニ「何處まで伸び行く魔手か彼等の罪跡を拾ふ雑踏の影に微笑む悪の華彼等の常套手段を見よ其の戦慄すべき罪垢と醜惡なる言動」ト題シ壽子ハ常ニカフェー喫茶店等ニ出入シ青年ヲ誘惑スル不良少女ニシテ殊ニ某專門學校音樂部ノ一學生ニ料金五圓ニテ賣淫シタル旨並其ノ末尾ニ於テ同女ノ父辰次郎ハ其ノ昔警察界ノ恩人ナリシカ「私モ娘一人ヲ女郎ニシマシタ」ト語リタル旨ノ記事ヲ掲載シ同新聞約八百五十枚ヲ其ノ頃香川縣下ノ各讀者ニ配布シ以テ公然事實ヲ指摘シ右辰次郎及壽子ノ各名譽ヲ毀損シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ右辰次郎及壽子ニ對スル判示各名譽毀損ノ所爲ハ何レモ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルトコロ右ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重シト認ムル辰次郎ニ對スル名譽毀損罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ同法第十八條ニ依リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

名譽毀損罪ノ成立

被告人上告趣意書第二審判決ヲ破毀シ更ニ相當ノ御判決アラシコトヲ求ム原判決ハ第一ノ理由ニ於テ事實ノ認定ヲ誤リタルモノナリ即チ被告人發行ノ昭和八年二月一日附庶民新聞紙上ニ於テ「何處まで伸び行く魔手か彼等の罪跡を拾ふ雑踏の影に微笑む悪の華彼等の常套手段を見よ其の戦慄すべき罪垢と醜惡なる言動」ノ題ノ下ニ池添壽子ノ私行ヲ摘發シ以テ名譽ヲ毀損シタリト云フニアレトモ苟モ名譽トハ各人カ其ノ上下ヲ論セス社會生活上當然何人ニモ認メ得ラルヘキ地位ナリト云ハサルヘカラサルモ本件被害者タル池添壽子ハ前掲ノ社會的地位名譽アリト云ヒ得ヘキヤ寧ロ良家ノ子弟ヲ誘惑シ前途有爲ノ幾多青年ヲ墮落セシメツツアル醜行ハ社會ニ害毒ヲ流ス害蟲ナリト云ヒ得ヘク斯ル不良少女ヲ跳梁セシムルトキハサナキタニ浮華輕薄ニ流レツツアル現今社會ヲ一層惡化セシムル所以ナリト云ハサルヘカラス斯ク觀シタルトキ社會的名譽ナク地位ナク寧ロ醜行ヲ得々然トシテ恥ツルナキ女性ニ社會的制裁トシテ筆誅シタルハ當然ナリト云ハサルヘカラス原判決ハ敍上池添壽子ノ社會的地位名譽アリト誤認シタル不法アリト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ名譽トハ人ノ社會的評價又ハ價值ヲ指稱スルモノニシテ何人ト雖法律ノ保護ニ依リ自己ノ有スル社會的評價又ハ價值ヲ濫ニ他人ニヨリテ侵害セラレサル利益ヲ有スルモノナレハ縱令德義又ハ法律ニ違反セル行爲ヲ爲シタル者ニ對シテモ法律上ノ保護ナシト謂フヘカラス然ラハ所論池添壽子ニ於テ名譽ヲ享有スルヤ論ナク而シテ原判決ノ認定事實カ右池添壽子ノ名譽ヲ毀損スルニ値スルモノ

ナルコトハ事實自體ニ徴シテ極メテ明白ナレハ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法ナク論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○傷害公務執行妨害被告事件 (昭和八年(七)第八八七號
 同年九月六日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 水谷貞雄 辯護人 高柳 彰

【第一審】 濱松區裁判所 【第二審】 静岡地方裁判所

○判示事項

漁業ニ關スル現行犯罪ト警察官吏ノ職權——漁業ニ關スル親告罪ノ現行犯處分ト告訴ノ要否

○判決要旨

一 警察官吏ハ漁業者ノ漁業ニ關スル現行犯アリタル場合ニ於テ必

漁業ニ關スル現行犯罪ト警察官吏ノ職權 漁業ニ關スル親告罪ノ現行犯處分ト告訴ノ要否

要アリト認ムルトキハ日没後日出前ト雖犯所ニ臨檢シテ搜索ヲ爲シ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得【要旨第一】

二 被上現行犯カ親告罪ナルトキト雖警察官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ告訴ヲ待タスシテ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得【要旨第二】

【參照】漁業法第四十一條 海軍艦艇乗組將校警察官吏港務官吏稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

間接國稅犯則者處分法第八條 稅收官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

日没前ヨリ開始シタル臨檢搜索又ハ差押ニシテ必要アル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得

漁業法第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ其ノ叔父水谷平七ト共ニ昭和八年二月二十三日ノ夜半頃靜岡縣引佐郡東濱名村大崎字源助鼻地先附近濱名湖上ノ東濱名村外二箇町村寄鮭漁業組合ノ専用漁場ニ到リ鮭ノ密漁中同組合員ノ爲之ヲ發見セラレ同組合員カ其ノ旨同縣氣賀警察署大崎巡查駐在所ニ届出タルヨリ同所勤務同縣巡查赤堀吉三郎ハ同組合員岩田雪太郎等ヲ伴ヒ右密漁現場ニ出張シ岩田雪太郎ト共ニ被告人等ノ漁船ニ乗込ミ其ノ行動ヲ監視シツツ一面他ノ同組合員等ヲシテ被告人等ノ右密漁ノ爲メニ投下シタル漁網ヲ搜索セシメ居リタルトコロ被告人ハ右巡查ニ逮捕セラルルニ於テハ必ス處罰セラルヘキヲ憂ヒ其ノ逮捕ヲ免ルル爲メ寧ロ同船中ノ右巡查等ヲ同湖中ニ突落シ其ノ場ヲ逃走センコトヲ企テ突如同巡查等ノ隙ニ乘シ先ツ右巡查赤堀吉三郎ヲ次テ岩田雪太郎ヲ各同湖中ニ突落シ尙同人等カ難ヲ免レシトシテ其ノ船縁ニ縋付キ之ニ手ヲ掛ケテ乗船セントスルヤ更ニ各其ノ手ヲ突放チタル儘同所ヲ逃走シ以テ同人等ヲシテ水中ニ於ケル寒氣ト疲勞トノ爲メ各失神狀態ニ陥ラシメ且同巡查ノ公務ノ執行ヲ妨害シタルモノナリ法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公務執行妨害ノ所爲ハ刑法第九十五條第一項ニ傷害ノ所爲ハ同法第

漁業ニ關スル現行犯罪ト警察官吏ノ職權 漁業ニ關スル親告罪ノ現行犯處分ト 一五九五 (一五)

二百四條ニ各該當スルところ赤堀吉三郎ニ對スル公務執行妨害ト傷害トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ傷害罪ノ刑ニ從フヘク各傷害ノ所爲ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ニ從ヒ一罪トナシ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人高柳彰上告趣意書第一點原審判決ニ依レハ「云々被告人ハ同署ノ勤務同縣巡查赤堀吉三郎ハ同組合員岩田雪太郎ヲ伴ヒ右密漁現場ニ出張シ岩田雪太郎ト共ニ被告人等ノ漁船ニ乗込ミ其ノ行動ヲ監視シツツ一面他ノ同組合員等ヲシテ被告人等ノ投下シタル漁網ヲ捜査セシメ居リタルところ被告人ノ右巡查ニ逮捕セラルルニ於テハ必ス處罰サルヘキヲ憂ヒ其ノ逮捕ヲ免ルル爲寧ロ同船中ノ右巡查等ヲ湖中ニ突落シ(云々)中略同人等ヲシテ水中ニ於ケル寒氣ト疲勞トノ爲各失神状態ニ陥ラシメ且同巡查ノ公務ノ執行ヲ妨害シタルモノナリ」ト云フニ在リ然レトモ被告人カ他人ノ專用漁場ニ於テ漁業ヲ爲シタリトノ行爲ハ漁業法第六十條ニヨル行爲ナルヘシ然ラハ右行爲ハ同條第二項ニ依リ告訴ヲ待ツテ論スヘキモノナリ而シテ本件原判決摘示ノ證據ニ依ルトキハ此點ニ付告訴ノアリタルコトノ見ルヘキ

モノナシ而シテ被告人ノ行爲ハ漁業法ニ依ル犯罪トシテ論スヘキモノニ非ス左レハ被害者タル赤堀吉三郎カ岩田雪太郎ト共ニ被告人ノ漁船ニ乗込ミタルハ公務ノ執行ト看做スコトヲ得ス蓋シ刑法第九十五條第一項ニ所謂公務員ノ職務ノ執行トハ公務員タル本件巡查赤堀吉三郎ノ適法ナル行爲ナラサルヘカラス然ルニ前述同巡查ノ行爲ハ親告罪ニ付告訴ナキニ拘ラス本件被告人ヲ逮捕シタルハ適法ナル職務ノ執行ト謂フコトヲ得サレハナリ然モ同巡查カドテラヲ著シテ現場ニ出掛ルニ於テオヤ仍テ原判決カ本件事實ニ付公務執行妨害罪ヲ以テシタルハ違法タルヲ免レスト云フニ在レトモ

告訴ハ親告罪ノ構成要件ニ非スシテ單ニ訴追條件ニ過キササルヲ以テ告訴ノ有無ハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス而シテ漁業法第四十一條間接國稅犯則者處分法第八條ノ規定ニ依レハ警察官吏ハ漁業ヲ監督スル職權ヲ有シ漁業者ノ漁業ニ關スル現行犯アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ日没後日出前ト雖漁業者ノ船舶其ノ他ノ犯所ニ臨檢シテ捜索ヲ爲シ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲シ得ルコト明ニシテ未タ告訴ノ提起アラサル親告罪ノ現行犯ニ付テモ告訴ヲ豫期シテ敍上

臨檢搜索差押ノ處分ヲ爲ス必要存スルコトアルヘキヲ以テ敍上ノ處分ハ警察官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキハ親告罪ニ付テモ告訴ヲ待タスシテ之ヲ爲シ得ルモノト解スルヲ相當トス原判決ノ事實判示ハ其ノ文辭粗漫ニシテ意義明確ヲ缺ク嫌ナキニ非スト雖其ノ判旨ノ存スル所ハ被告人ハ漁業者ナルモ判示東濱名村外二箇町村寄鮭漁業組合ノ組合員ニ非サルニ拘ラス同組合員ニ非サル叔父水谷平七ト共

漁業ニ關スル現行犯罪ト警察官吏ノ職權 漁業ニ關スル親告罪ノ現行犯處分ト 告訴ノ要否

ニ昭和八年二月二十三日ノ夜半頃濱名湖ノ右漁業組合ノ専用漁場ニ到リ鮭ノ密漁現行中同組合員ノ爲
 發見セラレ其ノ届出ニ因リ所轄巡查駐在所詰巡查赤堀吉三郎カ右密漁現場ニ出張シ被告人等ノ漁船ニ
 臨檢シ同組合員ノ助力ニ依リ被告人等ノ投下シタル密漁用漁網ヲ搜索シ居リタルトコロ被告人ハ右巡
 査ニ逮捕セラレンコトヲ憂ヒ其ノ逮捕ヲ免レンカ爲同巡查ヲ同湖中ニ突落シテ逃走センコトヲ企テ同
 巡查ヲ突落スニ於テハ當然同巡查ノ臨檢搜索處分ノ執行ヲ妨害スヘキコトヲ認識シナカラ突如同巡查
 ヲ湖中ニ突落シテ逃走シタリト云フニ在ルコト原判決ノ全趣旨ニ徴シ明瞭ニシテ該事實ハ判示證據ニ
 依リ優ニ之ヲ認ムルニ足り被告人ノ判示密漁行爲ハ漁業法第六十條ノ犯罪ニ該當シ告訴ヲ待テ其ノ罪
 ヲ論スヘキモノナルコト所論ノ如シト雖漁業者ノ漁業ニ關スル犯罪ノ現行犯ニ外ナラサルヲ以テ赤堀
 巡查カ被告人等ノ漁船ニ臨檢シ搜索ヲ爲シタルハ漁業法ノ規定ニ依ル職務ノ執行ナルコト前顯ノ説明
 ニ照シ明ナルニヨリ被告人カ暴行ヲ以テ之カ執行ヲ妨害シタルコト原判示ノ如クナル以上公務執行妨
 害罪ヲ構成スルコト勿論ナレハ原判決カ被告人ヲ同罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アル
 モノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
 檢事佐々波與佐次郎關與

○横領被告事件(昭和八年(九)第八五八號
 同年九月十一日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小野田保三郎 辯護人 深澤貞雄

【第一審】 靜岡區裁判所 【第二審】 靜岡地方裁判所

○判示事項

受任者ノ債權ノ取立ト其ノ所有權ノ歸屬

○判決要旨

債權者カ債務者ニ對スル金錢債權ノ取立ヲ第三者ニ委任シタル場
 合ニ於テハ其ノ委任ハ特ニ反對ノ事情ノ見ルヘキモノナキ限り受
 任者カ自己ノ名ヲ以テ債權ノ取立ヲ爲シ之ヲ委任者ニ移轉セシム
 ルノ趣旨ニ非スシテ受任者カ債務者ヨリ取立テタル金錢ノ所有權

受任者ノ債券ノ取立ト其ノ所有權ノ歸屬

ハ直接之ヲ債權者本人ニ歸セシムヘキコトヲ本旨トスルモノト解スルヲ相當ナリトス

【參照】 刑法第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

民法第六百四十三條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

同法第六百四十六條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル金錢其他ノ

物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實亦同シ

受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ

第一 昭和五年二月頃清水市清水受新田四百二十二番地ノ三物品販賣業片山音吉ヨリ豫テ其ノ販賣ニ

係ル米穀並漁業餌ノ賣掛代金及貸金取立方ノ委任ヲ受ケ手数料トシテ取立金ノ一割五分ノ割合ニ依ル金員ヲ受クル約ナリシトコロ該委任ニ基キ

(一) 同年八月頃迄ノ間ニ三回ニ互リ前田金平ノ手ヲ經テ安倍郡長田村用宗漁船第二清壽丸船長山崎三吉ヨリ右賣掛代金六百五十三圓八十錢ノ内金百五十圓ヲ

(二) 同年八月末頃迄ノ間ニ數回ニ互リ庵原郡由比町由比漁船朝日丸船主望月音吉ヨリ米穀賣掛代金及貸金合計六十五圓ノ内金四十圓ヲ

各取立テタルニ拘ラス約定手数料ヲ控除シタル殘金中金十圓ヲ委任者タル片山音吉ニ交付シタルニ止リ其ノ餘ノ金百五十一圓五十錢ハ同人ニ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第二 同年二月頃清水市清水受新田四百二十二番地ノ三油類商望月兄弟商會主任大石茂平ヨリ豫テ其ノ販賣ニ係ル油類ノ賣掛代金取立方ノ委任ヲ受ケ手数料トシテ取立金ノ一割ノ割合ニ依ル金員ヲ受クル約ナリシ處該委任ニ基キ

(一) 同年十月十三日迄ノ間ニ約二十回ニ互リ庵原郡蒲原町蒲原七百七番地井上金六ヨリ右賣掛代金六百五十圓六十錢ノ内金二百八十五圓ヲ

(二) 同年二月二十五日同町中四百二十番地磯部佐太郎ヨリ右賣掛代金六十圓八十錢ノ内金三十圓

受任者ノ債權ノ取立ト其ノ所有權ノ歸屬

四十錢ヲ

(三) 同年三月十四日迄ノ間ニ同町漁船住榮丸船主ヨリ右賣掛代金三十七圓三十錢ノ内金三十五圓ヲ

(四) 同年四月、五月頃同町松井作太郎ヨリ右賣掛代金八百九十九圓七十錢ノ内金十圓ヲ

(五) 同年七月頃迄ノ間ニ三回ニ互リ同町五十嵐磯吉ヨリ右賣掛代金百六十四圓ノ内金十五圓ヲ

各取立テタルニ拘ラス約定手數料ヲ控除シタル殘金中金三十圓ヲ委任者タル大石茂平ニ交付シタルニ止リ其ノ餘ノ金三百七圓八十六錢ハ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第三 同年六月二十三日清水市清水仲町七百四十五番地鐵工業伊藤德太郎ヨリ豫テ同人カ田方郡西浦村古字吉田秀吉ニ對シ賣渡シタル發動機賣掛代金四百七十九圓八十錢ノ取立方ノ委任ヲ受ケ手數料トシテ取立金ノ一割ノ割合ニ依ル金圓ヲ受クル約ナリシトコロ該委任ニ基キ同年八月九日右秀吉ヨリ金二十圓ヲ取立テタルニ拘ラス手數料ヲ控除シタル殘金十八圓ハ擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第四 同年三月上旬清水市清水受新田八十九番地ノ一油類及船具商(五)清水出張所主任白鳥茂作ヨリ豫テ其ノ販賣ニ係ル油類及船具ノ賣掛代金取立方ノ委任ヲ受ケ手數料トシテ取立金ノ一割五分ノ割合

ニ依ル金員ヲ受クル約ナリシトコロ該委任ニ基キ

(一) 同年五月二十二日迄ノ間三回ニ互リ庵原郡西奈村瀬名川四百八十五番地櫻井吉三ヨリ右賣掛代金四十圓ノ内金二十二圓ヲ

(二) 同年三月二十四日清水市入江新富町三百二十七番地望月勝次郎ヨリ右賣掛代金百圓ノ内金三十圓ヲ

(三) 同年四月十七日榛原郡吉田村住吉善一事松浦倉吉ヨリ右賣掛代金六百圓餘ノ内二圓五十錢ヲ
(四) 同年四月十三日ヨリ同年九月頃迄ノ間ニ五回ニ互リ清水市三保三千三百二十番地内藤鐵太郎ヨリ右賣掛代金二百六十圓ノ内金二十五圓ヲ

各取立テタルニ拘ラス内手數料ヲ控除シタル殘金中金五圓ハ之ヲ委任者タル白鳥茂作ニ交付シタルモ其ノ餘ノ金六十二圓五十七錢ハ同人ニ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消以テ之ヲ横領シ

第五 同年三月上旬頃清水市入江新富川町三百二十七番地表具師望月勝次郎ヨリ豫テ其ノ販賣ニ係ル紙布ノ賣掛代金取立方ノ委任ヲ受ケ手數料トシテ取立金ノ一割ノ割合ニ依ル金員ヲ受クル約ナリシトコロ該委任ニ基キ

(一) 同年四月頃迄ノ間ニ數回ニ互リ庵原郡由比町北田五十四番地ノ一望月悟一ヨリ右賣掛代金四

十圓ノ内金三十圓ヲ

(二) 同年五月十九日横濱市中區常盤町五丁目六十一番地伊勢屋紙店事岡本伊之助ヨリ右賣買代金百七十九圓二十五錢ノ内金六十圓ヲ

(三) 同年六月頃ヨリ同年八月頃迄ノ間ニ數回ニ互リ東京市城東區龜戸町二丁目三十六番地原田林藏ヨリ右賣掛代金百九十圓ノ内金三十三圓ヲ

各取立テタルニ拘ラス内手數料ヲ控除シタル殘金中金二十八圓ハ之ヲ委任者タル望月勝次郎ニ交付セシメタルモ其ノ餘ノ金八十二圓七十錢ハ同人ニ交付セス其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ生活費及旅費等ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第六 同年九月二日清水市清水受新田石油商北條源治ヨリ豫テ同人カ前示第三掲記ノ吉田秀吉ニ對シ賣渡シタル石油賣掛代金三百七十圓ノ取立方委任ヲ受ケ手數料トシテ取立金ノ二割ノ割合ニ依ル金員ヲ受クヘキ約ナリシトコロ該委任ニ基キ昭和六年十二月三十日頃迄ノ間ニ二十數回ニ互リ右秀吉ヨリ内金八十一圓ヲ取立テタルニ拘ラス約定手數料ヲ控除シタル殘金六十四圓八十錢ハ之ヲ委任者タル北條源治ニ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ生活費及旅費等ニ費消シ以テ之ヲ横領シ
第七 昭和五年五月頃安倍郡長田村用宗前田德次郎ヨリ輕節及密柑ノ賣掛代金取立方ノ委任ヲ受ケ手數料トシテ輕節代金ニ付テハ取立金ノ一割ノ割合ニ依ル金員密柑代金ニ付テハ取立代金ノ半額ヲ受

クヘキ約ナリシトコロ該委任ニ基キ

(一) 同年十二月迄ノ間ニ數回ニ互リ横濱市中區眞砂町二丁目十七番地石川憲一ヨリ輕節ノ賣掛代金九百五十圓ノ内金二十圓ヲ

(二) 同年十二月頃宇都宮市大町麥倉竹次郎ヨリ密柑ノ賣掛代金二千百圓ノ内金三圓ヲ各取立テタルニ拘ラス約定手數料ヲ控除シタル殘金十九圓五十錢ハ之ヲ委任者タル前田德次郎ニ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第八 同年六月二十二日清水市江尻鑄物師町百八十番地元米穀商遠藤福次郎ヨリ同人ノ米穀商當時ニ於ケル賣掛代金取立方ノ委任ヲ受ケ手數料トシテ取立金ノ二割ニ依ル金員ヲ受クヘキ約ナリシトコロ該委任ニ基キ

(一) 同年七月頃清水市清水受新田四十六番地出口眞太郎ヨリ右賣掛代金八圓ヲ

(二) 同年十二月十五日迄ノ間ニ約二十回ニ互リ同市入江受新田百四十四番地望月重作ヨリ右賣掛代金十二圓六十錢ヲ

(三) 昭和六年四月二十四日迄ノ間ニ約五十回ニ互リ同市清水上町百三十九番地服部松藏ヨリ右賣掛代金二十一圓六十錢ノ内金二十圓六十錢ヲ

(四) 同年六月七、八日頃同市清水上町一丁目百三十七番地天野辰藏ヨリ右賣掛代金八圓ノ内金二

受任者ノ債權ノ取立ト其ノ所有權ノ歸屬

圓ヲ

- (五) 同年七月五日同市千歲町四百七十八番地ノ五小松與治ヨリ右賣掛代金六圓ノ内金五圓ヲ
 - (六) 同年同月十四日同市波止場名倉秀太郎ヨリ右賣掛代金二十二圓七十五錢ノ内金二圓ヲ
 - (七) 同年十一月九日迄ノ間ニ約十五回ニ互リ同市入船町二丁目長崎辰次郎ヨリ右賣掛代金三十九圓九十二錢内金十三圓五十錢ヲ
 - (八) 同年十二月三日迄ノ間ニ二十一、二回ニ互リ同市清水上町二丁目片山彌作ヨリ右賣掛代金二十圓三十錢ノ内金二十三圓ヲ
 - (九) 同年同月十七日迄ノ間ニ約二十回ニ互リ同市清水上町鈴木菊次郎ヨリ右賣掛代金四十圓三十九錢ノ内金三十七圓ヲ
- 各取立テタルニ拘ラス約定手数料ヲ控除シタル殘金中金十一圓ハ之ヲ委任者タル遠藤福次郎ニ交付シタルモ其ノ餘ノ金八十七圓九十六錢ハ同人ニ交付セス擅ニ其ノ頃肩書地其ノ他ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

第九 昭和六年十一月中旬頃清水市入江町三丁目百九十五番地中野貞作ヨリ手数料トシテ取立金ノ三割ノ割合ニ依ル金員ヲ受クル約ニテ同人カ富士郡富士町水戸島村松象作ニ對シ有スル貸金二十圓ノ取立方ヲ委任セラレ其ノ頃之カ請求ノ爲村松方ニ到リタルトコロ更ニ村松ヨリ手数料トシテ右同率

ノ割合ニ依ル金員ヲ受クヘク且取立金額ノ内金二十圓ハ中野ニ對スル債務ノ辨濟ニ充ツヘキ約ニテ村松カ庵原郡富士川町中之郷梶浦久雄ニ對シ有スル貸金百圓ノ取立方ヲ委任セラレタルヨリ右委任ニ基キ昭和七年九月四日迄ノ間ニ約二十回ニ互リ梶浦ヨリ合計金八十圓ヲ受取リタルカ以上各契約ノ趣旨ニ基キ内金十四圓ハ前ノ委任者タル中野ニ交付スヘキモノ又金三十六圓ハ後ノ委任者タル村松ニ交付スヘキモノナルニ拘ラス何レモ擅ニ其ノ頃肩書地等ニ於テ自己ノ用途ニ費消シ以テ之ヲ横領シ

タルモノニシテ以上ノ各所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘク原審ニ於ケル未決勾留日數中五十日ハ同法第二十一條ニ則リ之ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人深澤貞雄上告趣意書第二點本件斷罪ノ根源トナル可キ委任契約ニ付按スルニ原院判決判示第一乃至第九ノ事實ハ何レモ其ノ事務終了セサルモノニシテ民法ノ命スル報告時期又ハ受取物交付ノ時期

受任者ノ債權ノ取立ト其ノ所有權ノ歸屬

ニ達スルモノニ非ス即チ犯罪構成ノ要件ニ欠缺アルモノニシテ右ハ違法ノ判決タルヲ免レサルモノナリト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルニ因リテ成立スル犯罪ナリ然リ而シテ債權者カ債務者ニ對スル金錢債權等ノ取立ヲ第三者ニ委任シタル場合ニ於テハ其ノ委任ハ特ニ反對ノ事情ノ見ルヘキモノナキ限り受任者カ自己ノ名ヲ以テ債權ノ取立ヲ爲シ之ヲ委任者ニ移轉セシムルノ趣旨ニ非スシテ受任者カ債務者ヨリ取立テタル金錢等ノ所有權ハ直接之ヲ債權者本人ニ歸セシムヘキコトヲ本旨トスルモノト解スルヲ相當ナリトス從テ受任者カ取立物件ノ占有中擅ニ之ヲ領得スルニ於テハ横領罪ヲ構成スヘキモノナルコト明白ナリトス原判決モ亦此趣旨ニ於テ判示横領事實ヲ認定シタルモノト解スヘク而シテ斯クノ如キ場合ニ於テハ素ヨリ所論時期ノ問題如何ニ依リ横領罪ノ構成ヲ妨クルモノニアラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス) 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス 檢事佐々波與佐次郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和八年(れ)第八六九號 棄却)

【上告人】 松村 武雄 辯護人 三輪 長生

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

戸別訪問及個々面接ト選舉運動ノ報酬收受

○判決要旨

戸別訪問及個々面接ニ依ル選舉運動行為ト選舉運動ノ報酬トシテ金品ヲ收受シタル行為トハ關連シテ行ハレタルトキト雖衆議院議員選舉法第二百二十九條ノ罪ト同法第一百十二條第四號ノ罪トノ併合罪トシテ處分スヘキモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行為ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

四 第一號若ハ前號ノ供與要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

同第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問戸別訪問及個々面接ト選舉運動ノ報酬收受

ヲ爲スコトヲ得ス
何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス
同第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
刑法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス
同法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松村武雄 野村源藏 松田隆司 山口幹雄 藤間嘉十 中山森一郎 三谷岩八 野口輝ヲ各罰金三十圓ニ被告人花田玉琴 岡戸巳之助 岡部秀次 西川保二郎 若林實盛ヲ各罰金二十圓ニ處シ被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間夫々被告人等ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人山口幹雄ヲ除キタル其ノ餘ノ被告人等ハ昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ東京府第五區ノ選舉人被告人山口幹雄ハ同區選舉人ニ非スシテ孰レモ同區ヨリ立候補シタル右議員候補者三上英雄ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルモノナル處

第一 被告人松村武雄ハ

(一) 昭和七年二月十二、三日頃及同月十八日頃ノ二回ニ互リ犯意ヲ繼續シテ當時東京府荏原郡荏原町中延三百七十四番地ノ居宅ニ於テ右候補者ノ選舉委員須賀孝英カ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノ爲メニ爲ス投票竝ニ選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ被告人花田玉琴ヲ介シテ合計金十五圓ノ供與ヲ受ケ
(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十日頃ヨリ同月十八日頃迄ニ至ル間前記居宅ニ於テ同區選舉人同町同番地菊入牧太郎外數名ニ對シ個々ニ面接シ暗ニ右候補者ニ投票方ヲ慫慂シ以テ選舉運動ヲ爲シ
第二 被告人花田玉琴ハ同年二月十二、三日頃及同月十八日頃ノ二回ニ互リ犯意ヲ繼續シテ當時同町中延二十一番地ノ居宅ニ於テ右須賀孝英ヨリ同人カ右第一ノ(一)記載ノ如キ趣旨ヲ以テ被告人松村武雄ニ供與スルモノナルコトヲ知リナカラ其ノ都度金員供與方ノ依頼ヲ承諾シ同人ヨリ受取リタル合計金十五圓ヲ該記載ノ場所ニ於テ右被告人ニ交付シ以テ前掲金員供與方ノ周旋ヲ爲シ

第三 被告人藤間嘉十ハ

(一) 同年二月十七、八日頃當時同町上蛇窪三百七十七番地ノ居宅ニ於テ前記須賀孝英及被告人若林實盛等カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ同候補者ノタメ爲ス投票竝選舉運動ノ報

酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人等ヨリ合計金十二圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十七日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間同區選舉人ナル同町上蛇窪百二十三番地豊田佐吉外數名ヲ戸別訪問シテ同候補者ニ對スル投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第四 被告人中山森一郎ハ

(一) 同年二月十五、六日頃當時同町上蛇窪四百四十五番地ノ居宅ニ於テ前記須賀孝英カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ同候補者ノタメ爲ス投票竝選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金十五圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十五、六日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間同區選舉人ナル同町上蛇窪六百四番地保科平四郎外二名ヲ戸別ニ訪問シテ同候補者ニ對スル投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第五 被告人山口幹雄ハ

(一) 同年二月十三、四日頃當時同町戸越六百九十三番地ノ右候補者ノ選舉事務所ニ於テ前記須賀孝英カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ非法定ノ選舉運動者タル被告人ノ該選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十二、三日頃ヨリ同月十七、八日頃迄ノ間同區選舉人ナル同町中延三百七十四番地水谷二郎外四名ヲ戸別ニ訪問シテ同候補者ニ對スル投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第六 被告人岡戸己之助ハ同年二月十日頃當時同町戸越六百九十三番地ノ右候補者ノ選舉事務所附近ノ路上ニ於テ前掲須賀孝英カ該候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノ爲メニ爲ス投票竝ニ選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金五圓ノ供與ヲ受ケ

第七 被告人三谷岩八ハ

(一) 同年二月十日頃右選舉事務所ニ於テ前掲須賀孝英カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ同候補者ノタメニ爲ス投票竝選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金五圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月四、五日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間同區選舉人同町中延二百九十七番地野田政信外數十名ヲ戸別ニ訪問シテ同候補者ニ對スル投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第八 被告人野口輝ハ

(一) 同年二月十四、五日頃當時同町下蛇窪七百三十八番地鶴田國治方ニ於テ同人カ右候補者ニ當

選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノタメ爲ス選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金五圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十九日同區選舉人同町戸越千三百五十八番地山田久平外十數名ヲ戸別ニ訪問シテ右候補者ニ投票方ヲ依頼シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第九 被告人岡部秀次ハ

(一) 同年二月十五日頃右鶴田國治方ニ於テ同人カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ同候補者ノタメ爲ス投票竝ニ選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金五圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十六、七日頃同町中延五百五十五番地池崎吉太郎外數名ヲ戸別ニ訪問シテ右候補者ニ對スル投票方ノ依頼ヲ爲シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第十 被告人西川保二郎ハ

(一) 同年二月十七日頃前記鶴田國治方ニ於テ同人カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノタメ爲ス投票竝ニ選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金二圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十三、四日頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間同區選

舉人同町下蛇窪七百十四番地池田茂外數十名ヲ戸別ニ訪問シ右候補者ノ爲メ投票方ノ依頼ヲ爲シ以テ選舉運動ヲ爲シ

第十一 被告人野村源藏ハ同年二月十七日頃當時同町戸越七百十三番地ノ居宅ニ於テ吉田吉三郎カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノ爲メ爲ス投票竝ニ選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人ヨリ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第十二 被告人松田隆司ハ同年二月十六日頃前掲候補者ノ選舉事務所ニ於テ松本直次郎及吉田吉三郎ノ兩名カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ右候補者ノタメ爲ス選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ同人等ヨリ金十圓ノ供與ヲ受ケ

第十三 被告人若林實盛ハ犯意ヲ繼續シテ

(一) 同年二月上旬頃及同月十八日頃ノ二回ニ互リ前掲候補者ノ選舉事務所外一箇所ニ於テ鏑木小平次カ右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人ノ同候補者ノタメ爲ス選舉運動ノ報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ諒シテ金五圓宛合計金十圓ノ供與ヲ受ケ

(二) 右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十八日頃同區選舉人ナル前示被告人藤間嘉十ニ對シ前掲同人ノ居宅ニ於テ同人ノ該候補者ノタメ爲ス選舉運動ノ報酬トシテ金二圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人花田玉琴ヲ除キタル其ノ餘ノ被告人等ノ夫々金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ハ各衆議院議員選舉法第十二條第四號第一號ニ尙被告人松村武雄ニ付テハ更ニ刑法第五十五條ニ被告人花田玉琴ノ金錢供與ノ周旋ヲ爲シタル所爲ハ同選舉法第十二條第五號第一號刑法第五十五條ニ被告人若林實盛ノ金錢供與ヲ爲シタル所爲ハ同選舉法第十二條第一號ニ各該當シ(イ)被告人松村武雄ノ個々面接ノ所爲ハ同法第九十八條第二項第二百二十九條ニ(ロ)被告人藤間嘉十(ハ)同中山森一郎(ニ)山口幹雄(ホ)同三谷岩八(ヘ)同野口輝(ト)同岡部秀次(チ)同西川保二郎ノ各戸別訪問ノ所爲ハ各同法第九十八條第一項第二百二十九條ニ尙右(イ)乃至(チ)ノ各被告人及同若林實盛ノ各無資格選舉運動ノ所爲ハ同法第九十六條第二百二十九條ニ各該當スルトコロ右(イ)乃至(ホ)ノ各被告人ノ個々面接若ハ戸別訪問ト該無資格選舉運動竝被告人若林實盛ノ前掲金錢供與ヲ爲シタル所爲ト該無資格選舉運動トハ夫々一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又被告人若林實盛ノ前掲金錢供與ヲ受ケタル所爲ト右金錢供與ノ所爲ハ連續犯ナルヲ以テ前者ハ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ後者ハ同法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ヲ各適用シ前者ハ犯情重キ無資格選舉運動ノ刑ニ從ヒ後者ハ最モ重キ金錢供與ヲ爲シタル刑ニ從ヒ以上各被告人等ニ對シ夫々罰金刑ヲ選擇スヘク尙前掲(イ)乃至(チ)ノ各被告人等ノ各金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ト前示無資格選舉運動ノ所爲トハ同法第四十五條前

段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ則リ併合罪ノ加重ヲ爲シタル罰金額ノ範圍内ニ於テ處斷シ以上各被告人等ヲ主文第一項掲記ノ罰金ニ處スヘク其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ付同法第十八條第一項第四項ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間夫々被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人三輪長生上告趣意書第二審判決ニ依レハ各被告人等ノ金錢供與ヲ受ケタル行爲ト戸別訪問ヲナシタル行爲トハ併合罪ノ關係ニ立ツヘキモノニシテ刑法第四十八條ヲ適用スヘキ旨判示セラレタリ然レトモ金錢ノ供與ヲ受クル行爲ト戸別訪問ノ行爲トハ等シク選舉運動ニ關スル犯罪ニシテ同種ノ行爲ト見ルヘキモノナルカ故ニ刑法第五十五條ノ連續犯ノ規定ヲ適用スルコトヲ要スヘキモノトス然ルニ原判決ハ事茲ニ出テス併合罪トシテ之ニ關スル法條ノ適用ヲナシタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアレトモ

【要旨】 衆議院議員選舉法第九十八條第二百二十九條ノ罪ハ戸別訪問及個々面接ニ依ル選舉運動ヲ禁遏スルヲ目的トシ同法第十二條第四號ノ罪ハ選舉人又ハ選舉運動者カ投票又ハ選舉運動ヲ爲スニ付金品其ノ他

ノ利益ヲ收受スル行爲ヲ禁止スルヲ目的トスルモノニシテ彼是其ノ構成要件ヲ異ニシ罪質ヲ同シクセサルカ故ニ是等ノ罪カ連續シテ行ハレタル場合ニ於テモ刑法第五十五條ヲ適用シテ一罪トシテ處斷スヘキモノニアラス然レハ本件ニ於テ被告人武雄ノ個々面接ノ行爲被告人嘉十森一郎岩八輝秀次保二郎幹雄ノ各戸別訪問ノ行爲ト右被告人等ノ各金圓收受ノ行爲トハ等シク同一ノ選舉ニ於テ同一ノ議員候補者ノ爲ニ爲サレタルモノナリト雖敍上ノ如ク同種ノ罪ニアラサルヲ以テ連續犯ノ關係ニ立ツモノニアラス從テ原判決カ右被告人等ノ行爲ヲ夫々併合罪トシテ處斷シタルハ正當ナリ尙右以外ノ被告人玉琴 巳之助 源藏 隆司 寶盛ニ付テハ原判決ハ何等所論ノ如キ法律ノ適用ヲ爲シタルモノニアラサルカ故ニ其ノ不當ヲ論スル論旨ハ謂ハレナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○公正證書原本不實記載行使詐欺同未遂被告事件

(昭和八年(九)第九〇七號 棄却)
同年九月十三日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 鹽崎 鶴藏 辯護人 猪股 吾郎
外一名 山中 逸郎
【第一審】 靜岡地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

犯意ト法律ノ不知

○判決要旨

假裝ノ配當要求及公正證書原本不實記入等ヲ爲シタルコトノ認識アル以上假令法律専門家ノ意見ニ依リ敍上ノ行爲ハ罪ト爲ラスト信スルモ法律ノ不知ニ該當スルモノニシテ罪ヲ犯スノ意ナシト謂フヲ得ス

【參照】 刑法第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス
罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス
法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕
犯意ト法律ノ不知

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人鹽崎鶴藏ヲ懲役一年ニ被告人栗原安平ヲ懲役十月ニ各處ス被告人兩名ニ對スル第一審ニ於ケル未決勾留日數中各百五十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス訴訟費用中豫審ニ於テ證人栗原末吉同川名豐兩名ニ支給シタル分ハ被告人栗原安平ノ負擔トシ第二審ニ於テ證人小野賢一ニ支給シタル分ハ被告人鹽崎鶴藏ノ負擔トシ豫審ニ於テ西野鑑同伏見義一同阿部常次郎及第一審ニ於テ西野鑑ニ支給シタル分ハ被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人鹽崎鶴藏ハ京都市合資會社小堂商店ニ對シ金千二百圓ノ約束手形金債務ヲ負擔シ居リタルトコロ訴訟ノ結果同被告人敗訴ノ判決確定シ自己所有ノ有體動産ニ付強制執行ヲ受ケ昭和四年十月二十三日ヲ其ノ競賣期日ニ指定セラルルヤ尾鷲としニ對シ金千圓ノ約束手形金債務竝木村源太郎ニ對シ金一萬三千圓ノ貸金債務ヲ各負擔セル事實ナキニ拘ラス之アルカ如ク裝ヒ同人等名義ヲ以テ右各假裝債權ニ基ク配當要求申立ヲ爲シ因テ競賣配當金ヲ騙取センコトヲ企テ右競賣期日頃沼津市本字淺間町二百四十三番地ノ一被告诉人居宅ニ於テ沼津區裁判所執達吏ニ對シ

(一) 尾鷲としニ對スル昭和四年六月二十八日振出ニ係ル額面金一千圓支拂期日同年八月三十一日ノ約束手形金債務

(二) 木村源太郎ニ對スル大正十三年六月十日付金一萬三千圓ノ貸金債務ヲ各負擔シ居ル旨ノ右兩名名義ノ虚偽ノ配當要求申立書ヲ提出シ因テ同執達吏ヲ欺罔シ以テ昭和五年五月十九日頃同裁判所ヲシテ配當表ニ從ヒ尾鷲とし名義ヲ以テ金二十三圓三十六錢木村源太郎名義ヲ以テ金三百三圓四十三錢ノ各配當金ヲ夫々交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 被告人鹽崎鶴藏ハ麻場權也ニ對シ金三萬圓及金五千圓ノ債務ヲ負擔シ右金三萬圓ノ債務ニ對シテハ同被告人所有ノ(イ)沼津市本字白銀町四百八十番田四反二十一步内畦畔二十八步(ロ)同所四百八十三番田一反三步内畦畔十八步(ハ)同所四百七十七番田七畝二十二步内畦畔十一歩ノ三筆ノ土地ニ付右金五千圓ノ債務ニ對シテハ同被告人所有ノ(ニ)同市本字松下八百五十八番田一反八畝八步外畦畔一畝三步ノ一筆ノ土地ニ付夫々抵當權ヲ設定シ居リタルトコロ右麻場權也ヨリ抵當權實行ニ因ル競賣ノ申立ヲ受ケ之カ競賣開始決定アリタルカ昭和六年一月七日右麻場權也ハ沼津經濟株式會社ニ對シ前示債權竝抵當權ヲ讓渡シタル結果右會社ハ同月二十四日金二萬圓餘ニテ前示四筆ノ土地ヲ競落シタルヲ被告人ハ抗告ノ申立ヲ爲シタル上同年二月十三日沼津市大富旅館ニ於テ同會社取締役西野鑑ト同年三月十七日マテニ金二萬圓ヲ辨濟スヘク萬一其ノ履行ナキ場合ニハ競賣不動産全部ヲ金二萬七千三百二十圓ニテ同會社ニ賣渡シ右代金ハ債權額一部ト相殺スヘキ旨ノ示談契約ヲ締約シ其ノ履行ヲ確保スルタメ不動産ノ所有權移轉登記ニ必要ナル一切ノ書類ヲ西野鑑ニ交付シ

因テ同會社ヲシテ競賣ノ申立ヲ取下ケシメタルモ右期日マテニ金員調達ノ見込立タサリシ爲茲ニ被告
人栗原安平ト相謀リ前記不動産ニ對シ假裝ノ抵當權設定其ノ他ノ登記ヲ爲シ同會社ノ前記示談契
約ノ實行ヲ妨クル爲前記不動産ヲ擔保トシテ眞實尾鷲とし及被告人栗原安平ヨリ金員ヲ借受ケタル
事實ナク又田中和作ト該不動産ニ付貸借契約ヲ締結シタル事實ナキニ拘ラス被告人兩名ハ共謀ノ
上被告人鹽崎鶴藏カ

(一) 昭和六年三月九日前示(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 四筆ノ土地及同人妻みと所有ノ(ホ) 沼津市
本字市道七百八十六番ノ七宅地六十八坪(ハ) 同市本字松下敷鼻八百三十五番畑一反三畝二十三
歩ノ二筆合計六筆ノ土地ヲ擔保ト爲シ尾鷲としヨリ金三千五百圓ヲ辨濟期昭和七年九月三十日ノ
定メニテ右みとト連帶ノ下ニ借受ケタル旨ノ昭和六年三月九日付虛偽ノ抵當權設定登記

(二) 昭和六年三月一日同人所有ノ前示(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 四筆ノ土地ヲ擔保ト爲シ被告人栗
原安平ヨリ金二千圓ヲ辨濟期同月十五日ノ定ニテ借受ケタル旨ノ同月十一日付虛偽ノ抵當權設定
登記

(三) 右金二千圓ヲ辨濟期ニ辨濟セサルトキニ於テ被告人栗原安平ノ爲前記四筆ノ土地ニ付效力ヲ
發生スル代物辨濟ニ因ル所有權移轉請求權保全ノ同月十一日付虛偽ノ假登記

(四) 同月五日前示(イ)(ロ)(ハ)(ニ) 及同人所有ノ同所市道七百九十番宅地七十一坪合計五筆

ノ土地ニ付田中和作ト賃料一坪ニ付一箇年金一圓期間五箇年ノ定メニテ其ノ賃料敷金トシテ金一
萬圓ヲ受領シタル旨ノ同月十六日付虛偽ノ賃借登記

ノ各登記申請ヲ爲シ沼津區裁判所登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ各其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即
日同廳ニ之ヲ備付ケシメテ行使シ

第三 被告人栗原安平ハ曾テ被告人鹽崎鶴藏ノタメ金策ニ奔走シ若干ノ報酬ヲ受クルコトト爲リタル
ヨリ其ノ債權ヲ確保スル目的ヲ以テ先ツ同人ニ對シ金員ヲ貸與シタルコトナキニ拘ラス被告人兩名
ハ共謀ノ上被告人鹽崎鶴藏ハ山中傳ヲ代理人トナシ被告人栗原安平ハ右代理人ト共ニ昭和六年三月
十二日横濱市神奈川區青木町字宮洲三千六百十九番地ノ一横濱地方裁判所所屬公證人山森平成方役
場ニ至リ同公證人ニ對シ被告人栗原安平ハ昭和五年九月五日金五千圓ヲ辨濟期昭和六年二月二十日
利息年一割ノ定ニテ被告人鹽崎鶴藏及其ノ妻みと兩名連帶ノ下ニ貸付ケ右借主ハ之ヲ受理借用シタ
ルモノナルコトヲ承認シ更ニ元金五千圓及之カ利息ハ同年三月十三日限り連帶シテ辨濟スルコト其
ノ履行ヲ爲ササルトキハ直チニ強制執行ヲ受クルモ異議ナキコトヲ承認シタル旨ノ虛偽ノ事實ヲ申
立テ因テ同公證人ヲシテ公正證書ノ原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ即時同公證人役場ニ之ヲ備
付ケシメテ行使シ

第四 被告人栗原安平ハ其ノ父栗原末吉カ千葉區裁判所昭和五年(ハ)第三三〇號事件和解調書ニ基キ

鷺尾一義ニ對シ負擔セル金三百八圓ノ債務ニ付昭和六年三月十四日千葉縣印旛郡旭村山梨ナル右末吉方居室ニ於テ同人所有ノ有體動産ノ差押ヲ受ケ競賣期日ヲ同月二十八日ト指定セララルルヤ眞實右末吉ニ於テ川名豊ニ對シ金五千三百六十圓ノ債務ヲ負擔セル事實ナキニ拘ラス之アルカ如ク裝ヒ同人名義ヲ以テ右假裝債權ニ基ク配當要求ノ申立ヲ爲シ因テ競賣配當金ヲ騙取センコトヲ企テ競賣期日前ナル同月下旬頃前示末吉方ニ於テ佐倉區裁判所執達吏ニ對シ右栗原末吉ハ大正十四年三月一日川名豊ヨリ金五千三百六十圓ヲ借用セルニ付配當要求ヲナス旨ノ右川名豊名義ノ虛偽ノ配當要求申立書ヲ提出シ因テ同執達吏ヲ欺罔シ以テ配當金ヲ騙取セントシタルモ競賣期日延期セラレ其ノ目的ヲ達セサリシモノナリ

而シテ被告人兩名ノ判示第二並第三記載ノ各登記簿並公正證書原本不實記載及其ノ行使ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

被告人栗原安平ハ(一)昭和二年十二月二十三日東京地方裁判所ニ於テ偽造有價證券行使詐欺罪ニ依リ懲役八月ニ處セラレ當時其ノ刑ノ執行ヲ終リ(二)昭和八年三月四日東京地方裁判所ニ於テ文書偽造行使詐欺罪ニヨリ懲役十月ニ處セラレ右裁判確定シタルモノトス

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示所爲中被告人鹽崎鶴藏ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第二百五十一條第二百四十二條ニ被告人兩名ノ判示第二及第三ノ各所爲中公正證書ノ原本ニ不實ノ記

載ヲ爲サシメタル所爲ハ同法第五百五十七條第一項第六十條ニ其ノ備付行使ノ所爲ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十七條第一項第六十條ニ被告人栗原安平ノ判示第四ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ各該當スルトコロ判示第二及第三ノ各不實記載ヲ爲サシメタル所爲ト各其ノ備付行使ノ所爲トハ夫々連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ則リ各一罪トナシ前者ト後者トハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ犯情重キ不實記載ノ公正證書原本ヲ備付行使シタル罪ノ刑ニ從フヘキトコロ被告人栗原安平ハ前示(二)ノ確定裁判ヲ受ケタルモノナルヲ以テ右確定裁判アリタル罪ト本件犯罪トハ刑法第四十五條後段ノ併合罪ニ係リ同法第五十條ニ依リ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付處斷スヘキ關係ニアルモノトス而シテ敍上ノ行爲ハ前示前科(一)ト再犯ニ係ルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ則リ右各罪ニ付累犯ノ加重ヲ爲スヘク被告人鹽崎鶴藏ノ右不實記載ノ公正證書原本備付行使ノ罪ト右判示第一ノ詐欺罪被告人栗原安平ノ右不實記載ノ公正證書原本備付行使ノ罪ト右判示第四ノ詐欺未遂ノ罪トハ夫々同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ被告人鹽崎鶴藏ニ付テハ重キ詐欺ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル範圍内ニ於テ又被告人栗原安平ニ付テハ重キ詐欺未遂ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ其ノ範圍内ニ於テ被告人鹽崎鶴藏ヲ懲役一年ニ被告人栗原安平ヲ懲役十月ニ夫々處スヘク尙同法第二十一條ニ依リ被告人兩名ニ對スル第一審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日宛ヲ右各本刑ニ算入

スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ夫々主文第三項記載ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人鹽崎鶴藏辯護人猪股吾郎上告趣意書原判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ第一項被告人鹽崎鶴藏ノ詐欺罪ニ關スル點右件ハ斷罪ノ結論トシテ尾鷲とし名義ヲ以テ金二十三圓三十六錢木村源太郎名義ヲ以テ金三百三圓四十三錢合計金三百二十六圓七十九錢ノ配當金ヲ騙取シタリト認定セラレタルモ第一、二審ニ於ケル被告本人ノ陳述並押收ニ係ル(押第三四三號)執達吏小林次郎ノ動産競賣調書ニ徴シ右競賣執行中ニ於テ金二百圓也ヲ差押債權者ニ支拂ヒタル事實ハ明瞭ナリ且原審證人小野賢一ノ證言ニ依リ之カ配當要求ノ申立書類等ハ凡テ被告人若クハ單純ナル代書人等カ作成シタルモノニ非スシテ當時被告ノ信賴シタル法律専門家ノ手ニ成レル事實モ亦明白ナリトス果シテ然ラハ本件事案ハ認定ノ如キ騙取行爲ト同一時機ニ又被害者ニ對シ正當ナル債務辨濟行爲アリト斷スヘキモノナリ凡ソ配當要求ニ因リ賣得金ノ一部ヲ騙取セントスルカ如キ狀態ニ於テ前記配當額計三百二十六圓七十九錢ニ比較シ金二百圓ヲ支拂フ如キハ通常ノ犯罪狀況トシテハ有リ得ヘカラサル

事實ナリ此事實ハ被告カ差押債權(小堂商店)金千二百圓ノ内容ニ付高田久五郎ト被告ノ取引關係ヨリ金九百圓ヲ高田ヨリ差押債權者ニ支拂ヒタリト信シ殘金三百圓ニ付被告ハ辨濟義務ヲ感シタル結果金二百圓ヲ提供シタルモノニシテ即本件騙取ノ認定ヲ受クルモ一面ニ於テ被告ハ斯ノ如キ正當ナル辨濟行爲ヲ履行シツツアリ仍テ犯罪成立スルモ本件ハ極メテ犯意輕微ニシテ後項所論ト相俟ツテ原判決ハ刑ノ量定甚シク不當リナト思料ス第二項右被告人ノ公文書偽造行使罪ニ關スル點本事案ハ複雑ナル民事關係ノ錯綜シ一度各代理辯護士ニ因リ債務ノ示談成立シタルモ(告訴狀添附第一號契約證)勸業銀行ノ借入困難ニ因リ相被告栗原安平ニ財産整理ヲ依頼シタルタメ其ノ端ヲ發シタルコト一件記録ニ徴シ明瞭ナリ而モ原判決理由中ニモ(記録八九九丁)「鹽崎ヨリ何トカ救ツテ貰ヒタイ抵當不動産ヲ助ケタキ故方法ハナキカ考ヘテ見テ吳レトノ話アリタル故自分カ腹案ヲ立テ鹽崎ノ同意ヲ得結局虛偽ノ登記ヲ鹽崎カ爲シタリ云々……斯クセハ幾分財産モ残り抵當權實行カ困難トナルコトハ鹽崎ニ話シ聽カセタル旨ノ供述」ト記載アリ凡ソ本件不正登記行爲等ハ一吳服商人タル被告單獨ニテハ到底想像モ及ハサル手續ニシテ全ク相被告栗原安平等ノ指示ニ基キ教ヘラルル儘ニ溺レントスル者藁ヲモ摺ム輕卒ノ心理ニテ行ヒタル次第ニシテ且斯ノ如キ巷間三百代官的ノ脫法行爲モ本件ノ發生原因タル民事關係ニ於テハ既ニ告訴人ノ債權ハ抵當權設定登記後ナルヲ以テ本事案ハ競賣ノ實行ヲ不能ナラシムル如キ私的法益ノ侵害ヲ伴フモノニ非ス仍テ被告ハ自己ノ法律知識ノ無智ノタメ右ノ如ク相被告栗原ニ

依リ輕卒ニ左右サレタル犯情ノ酌量スヘキ點ヨリシテ全ク原判決ハ刑ノ量定ノ不當ナルモノト思料スル次第ナリ第三項前一、二項事案ニ共通スル事由原判決ハ被告ニ對シ懲役一年未決勾留日數百五十日算入ノ言渡アリタルモ被告ハ昭和六年三月二十日未決勾留ニ附セラレ昭和七年一月三十日保釋決定ニ至ル迄三百十日ノ長期間終始接見禁止ノ許ニ勾留ヲ受ケタリ且前記公文書偽造行使事件ハ爾後告訴人ニ於テ抵當權實行ニヨリ競賣ノ結果全部ノ抵當不動産ハ告訴人ノ所有ト歸シ(第一審證人西野鐮證言御參照)且不足債權額ノタメ被告ハ沼津區裁判所ニ於テ既ニ破産宣告ヲ受ケ破産管財人ノ許ニ被告ノ全資産ハ換價處分セラレ之カタメ被告人ハ吳服販賣ノ生業ヲ失ヒ現在貧窮ノ苦境ニ呻吟シ八十四歳ノ祖母竝妻子ノ扶養ニモ困苦スル次第ニテ既ニ被告ハ精神物質上全ク反省懲戒ヲ受ケタル次第ニテ情狀酌量ノ餘地充分ニ有之モノト思料ス敍上第一、二項所論ノ如ク本件事案ニ對スル被告ノ犯意ノ惡性輕微ニシテ相被告其ノ他周圍ノ者ニ因リ犯行ニ誘導セラレタル點竝爾後懲戒ノ實ノ充分ニ有之タル點ヲ綜合シ原判決ノ破毀ヲ求ムルタメ茲ニ上告趣意書ヲ差出ス次第ナリト云ヒ」被告人鹽崎鶴藏辯護人林逸郎上告趣意書第一點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人鹽崎鶴藏ハ京都市合資會社小堂商店ニ對シ金千二百圓ノ約束手形金債務ヲ負擔シ居リタルトコロ訴訟ノ結果同被告人敗訴ノ判決確定シ自己所有ノ有體動産ニ付強制執行ヲ受ケ昭和四年十月二十三日ヲ其ノ競賣期日ニ指定セラレルヤ尾鷲としニ對シ金千圓ノ約束手形金債務竝木村源太郎ニ對シ金一萬三千圓ノ貸金債務ヲ各負擔セル事實ナキニ拘

ラス之アルカ如ク裝ヒ同人等名義ヲ以テ各假裝債權ニ基ク配當要求申立ヲ爲シ因テ競賣配當金ヲ騙取センコトヲ企テ(中略)各配當金ヲ夫々交付セシメテ之ヲ騙取シ」ト判示シタリ然リ而シテ被告人カ其ノ斯クノ如キ行爲ニ出テタルハ被告人ニ對スル第二回訊問調書中「私ハ小堂商店ニ對シ三百圓位ノ債務ハアツタカモ知レマセヌカ其ノ餘ノ請求ハ誠ニ不當ト思ヒマシタ其ノ爲ニ私所有ノ財産ノ差押ヲ受ケテ之ヲ小堂商店ニ取ラレルコトハ誠ニ殘念ニ思ヒマシタ故其ノ競賣ノ一部テモ良イカラ自分ノ方ニ取戻シ度イト思ヒマシタ」ナル旨ノ供述記載竝證人鹽崎みとニ對スル證人訊問調書中「小堂商店カラ主人ノ財産ヲ差押ヲ受ケマシタ處カ主人カラ同商店ニ金ヲ拂フ謂カナカツタノテ同商店ニ金ヲ取ラレルノカ詰ラナク思ヒ云々」ナル旨ノ供述記載ニ依リテ明カナルカ如ク被告人ニ於テ小堂商店ヨリ支拂ヲ強制セラルヘキ債務ノ存在セサルヲ確信シ之カ防禦ノ方法ニ付苦慮シタル結果第二審第一回公判調書中被告人ノ陳述トシテ「山本辯護士ニ相談シタ所山本辯護士ハ手遅レニナツテ居ルカラ配當要求ヲ出シタラヨカロウト云フノテ山本辯護士方ノ書生小野ト云フ者ニ頼ミマシタ」ナル旨ノ記載アルト第一審第一回公判調書中被告人ノ陳述トシテ「其ノ各書類ハ辯護士山本立太郎ノ所ニ居ル事務員小野某ニ作成シテ貰ツタテアリマス」ナル旨ノ記載アルト第二審第二回公判調書中證人小野賢一ノ陳述トシテ「證八號ノ六配當要求申立書ハ確カニ私カ書イタモノニ相違アリマセヌ」ナル旨ノ記載アルトヲ綜合シテ明瞭ナルカ如ク專門家ノ意見ニ聽從シ之カ指導ニ依リテ敢行セラレタル所ニシテ直ニ以テ

罪ヲ犯スノ意思ニ出發シタルモノナリト斷スル能ハス要ハ法律家ニ信賴スルコト餘リニ深刻ナリシニ
 基因スル過誤ナリト嘆セサル可カラサルナリ果シテ然ラハ第二審判決ハ徒ラニ行爲ノ結果ヲノミ重視
 シ其ノ因ツテ來ル所以ノモノヲ究明スルニ聊カ吝ナリシモノニシテ從テ刑ヲ量定スルニ當リ之カ執行
 ヲ猶豫スヘキ寬典ヲ與ヘサル點ニ於テ著シク不當ナルモノナリトスト云ヒ」第二點第二審判決ハ其ノ
 理由ニ於テ被告人鹽崎鶴藏ハ麻場權也ニ對シ金三萬圓及金五千圓ノ債務ヲ負擔シ右金三萬圓ノ債務ニ
 對シテハ(中略)三筆ノ土地ニ付右金五千圓ノ債務ニ對シテハ(中略)一筆ノ土地ニ付夫々抵當權ヲ
 設定シ居リタルトコロ右麻場權也ハ沼津經濟株式會社ニ對シ前示債權並抵當權ヲ讓渡シタル結果右會社
 カ昭和六年一月七日右麻場權也ハ沼津經濟株式會社ニ對シ前示債權並抵當權ヲ讓渡シタル結果右會社
 ハ同月二十四日金二萬圓餘ニテ前示四筆ノ土地ヲ競落シタルタメ被告人ハ(中略)示談契約ヲ締結シ
 (中略)タルモ右期日迄ニ金員調達ノ見込立タサリシタメ茲ニ被告人栗原安平ト相謀リ前記不動産ニ對
 シ假裝ノ抵當權設定其ノ他ノ登記ヲ爲シ同會社ノ前記示談契約ノ實行ヲ妨クル爲前記不動産ヲ擔保ト
 シテ眞實尾鷲とし及被告人栗原安平ヨリ金員ヲ借受ケタル事實ナク又田中和作ト該不動産ニ付貸借
 契約ヲ締結シタル事實ナキニ拘ラス被告人兩名ハ共謀ノ上被告人鹽崎鶴藏ハ(中略)各登記申請ヲ爲
 シ沼津區裁判所登記官吏ヲシテ登記簿ノ原本ニ各其ノ旨ノ不實ノ記載ヲナサシメ即日同應ニ之ヲ備付
 ケシメテ行使シ」ト判示シタリ然リ而シテ被告人鹽崎鶴藏カ其ノ斯クノ如キ行爲ニ出テタルハ(一)何

等カノ方法ヲ以テ事件ヲ引延ハシ(二)其ノ間ニ於テ金策シ依テ圓滿ニ示談契約ヲ實行セントシ(三)
 之カ爲必要ナル研究ヲ専門家ニ依囑シ(四)法律ニ違背セストノ確信ヲ得タルニ依リ始メテ爲シタル
 モノナルコトハ爭フ可カラス(一)何等カノ方法ヲ以テ事件ヲ引延サントシタル事實ハ第二審第一回
 公判調書中被告人鹽崎鶴藏ノ陳述トシテ「問要スルニ終局ノ目的ハ示談契約ノ實行ヲ土地ヲ取ラレナ
 イヤウニシヤウト云フノタナ答私ニハ判リマセスカ栗原カ一時引張ル爲ニヤツタノテアリマス何ント
 カ引張ツテ置イテ其ノ間ニ金策シヤウト思ツタノテアリマス」ナル旨ノ記載アルニ徴シ自ラ明カナリ
 (二)其ノ間ニ於テ金策シ得テ依テ圓滿ニ示談契約ヲ實行セントシタル事實ハ被告人鹽崎鶴藏ニ對ス
 ル第二回訊問調書中一所カ金ヲ作ルノニハ擔保カ必要テアリマシテ栗原ハ金策ノ便宜ヲ得ル爲ニ私ノ
 所有土地テ既ニ經濟會社ニ擔保ニ這入ツテ居ル不動産ヲ新タニ抵當權ヲ設定シタコトニシテ其ノ登記
 ヲシテ置ケハ栗原カ金ヲ借リルノニ都合カヨイカラ左様ニシテ置イタ方カ良カロウト勸メラレタノテ
 私ハ之ヲ承諾シ」タル旨ノ供述記載アルト證人鹽崎みとニ對スル證人訊問調書中「栗原ハ其ノ當時私
 ニハ金ヲ拵ヘル爲ニ左様ナ登記ヲシテ置クト云フテ居リマシタ」ナル旨ノ供述記載アルト第一審第一
 回公判調書中被告人鹽崎鶴藏ノ陳述トシテ「栗原カラ斯様ニシタ方カ金策上良カロウト云フ話カアツ
 タノテ私モソレヲ承諾シ同人ニ其ノ登記ニ必要ナ書類ヲ作成シテ貰ヒマシタ私ハ栗原ノ斯様ナ登記ヲ
 シテ置ケハ良イト云フ言ニ信ヲ措キヤツタ事テアリマス」ナル旨ノ記載アルト第一審第二回公判調書

中被告人栗原安平ノ陳述トシテ其ノ方針ニ依テ金策ニ著手致シマシタ茲ニ一寸東京邊リテ私共カ金策ヲスル方法ヲ申上ケマスト甲カ金カ欲シイト思フト實際乙カラ甲カ金ヲ借リタコトハナイノニ恰モ乙カ甲ニ金ヲ貸シ其ノ登記手續カ完了シタト云フ様ニ證書ヲ作り證書ノ登記濟ニナツタモノヲ乙カ持ツテ丙ノ處ニ行キ丙ニ對シ實際自分カ甲ニ金ヲ貸シテ登記ヲ了シタカ都合カアルカラ之ヲ讓受ケテ吳レル事ハ出來ヌカト云ヒマス丙ハソレヲ信用シテ讓渡ヲ承諾シテ債權額ニ少シ足リヌ位ノ金ヲ出シマスノテ乙ハ丙ニ對シ債權ト共ニ抵當權移轉ノ登記ヲ濟マセテ丙カラ受取ツタ金ヲ甲ニ渡シテ金ヲ作ルト云フ様ナ金策ノ方法カアリマス詰リ私ハ此ノ方法ヲ他カラ金ヲ作ル考ヘテ其ノ場合ノ適當ナ手段ト考ヘ虚偽ノ抵當權設定登記等ヲ致シタ譯ナノテアリマスナル旨ノ記載アルト第二審ニ於テ辯護人林逸郎カ提出シタル第一號證ノ一、二早川辯護士ヨリ山中辯護士ニ宛テタル書信第二號證ノ一、二山中辯護士ヨリ鹽崎みとニ宛テタル書信第五號證ノ一、二被告人鹽崎鶴藏ヨリ辯護人林逸郎ニ宛テタル書信ヲ綜合シテ極メテ明瞭タリ(三)之カ爲必要ナル研究ヲ専門家ニ依囑シタル事實ハ押第三十八號被告入栗原安平ヨリ被告人鹽崎鶴藏ニ宛テタル費用計算書中受入ノ部ニ昭和六年三月十日沼津ニテ鹽崎氏ヨリトシテ百五十圓ヲ記入シ支出ノ部ニ昭和六年三月十一日山中辯護士事件調査費トシテ五圓八十錢同月十二日山中行自動車往復トシテ一圓五十錢山中辯護士給與トシテ十圓橫濱鳥菊辯護士座談會山中今岡分四人トシテ四十一圓八十三錢同上女中手當トシテ三圓同上出席辯護士車代トシテ三十圓橫

濱一泊山中 栗原トシテ十二圓五十錢此支出通計一百四圓六十三錢ヲ記入セルト前掲第二審ニ於テ辯護人林逸郎カ提出シタル第一號證ノ一、二早川辯護士ヨリ山中辯護士ニ宛テタル書信第二號證ノ一、二山中辯護士ヨリ鹽崎みとニ宛テタル書信第五號證ノ一、二被告人鹽崎鶴藏ヨリ辯護人林逸郎ニ宛テタル書信トニヨリ明々白々タリ(四)法律ニ違背セストノ確信ヲ得タルニ依リ始メテ爲シタルモノナル事實ハ第二審第一回公判調書中被告人鹽崎鶴藏ノ陳述トシテ「私ハ嘘ノ登記ヲシテ其ノ人ニ土地ヲ取ラレハシナイカト心配シタ夫レカ惡イト云フコトモ心配シテ栗原ニ聽イタ處栗原ハ日本ノ法律ニ不備ノ點カアルカラ差支ナイト云ヒ什ウ云フコトヲ鑑定シテ貰ツタカ判リマセンカ辯護士ニ鑑定シテ貰ツタト云フテ鑑定料ノ受取ヲ見セラレタノテ安心シタ様ナ譯テアリマス」ナル旨ノ記載アルト第二審ニ於テ辯護人林逸郎カ提出シタル第五號證ノ一、二被告人鹽崎鶴藏ヨリ辯護人林逸郎ニ宛テタル書信中其ノ旨ノ記載アルト竝押第三十八號被告人栗原安平ヨリ被告人鹽崎鶴藏ニ宛テタル費用計算書トヲ照應シ之ヲ否定スル能ハサルナリ即知ル被告人鹽崎鶴藏ハ斯クノ如ク多數ノ法律家ニ鑑定料ヲ支拂ヒ鑑定ヲ乞ヒ其ノ意見カ行爲犯罪トナラストナス點ニ於テ合致シタリトノ確信ニ基キ行動シタルモノニシテ其ノ行爲ハ罪ヲ犯スノ意思ナキモノナルト共ニ罪本重カル可キヲモ毛頭感知セサリシモノナリ又以テ法律家ニ信賴スルコト餘リニ深刻ナリシニ基因スル過誤ナリト悲マサル可カラス果シテ然ラハ第二審判決ハ又徒ラニ行爲ノ結果ヲノミ重視シ其ノ因リテ來ル所以ノモノヲ究明シ之ヲ被告人利益ノ

爲ニ判斷スルニ聊カ吝ナリシモノニシテ從テ執行猶豫ノ寬典ヲ與ヘサリシ點ニ於テ其ノ刑ノ量定著シク失當ナリト斷スルヲ得ヘシト云ヒ」第三點被告人鹽崎鶴藏ハ其ノ教育ニ於テ甚タ低シト雖今日ニ至ルマテ營々孜々トシテ稼業ニ精勵シ未タ曾テ前科ヲ有セス高齡八十四歳ノ母ニ仕ヘテ孝養至ラサルナク家庭極メテ圓滿ナリ然ルニ計ラヌモ不良ノ徒輩ニ乘セラレテ財ヲ散シ信ヲ失ヒ殆ント再ヒ起ツ能ハサルノ窮狀ニ陥レラレタリ被告人ノ犯シタル罪業素ヨリ決シテ輕カラスト雖其ノ動機情狀一掬同情スヘキモノナシトセス蓋シ其ノ事情斯クノ如ク憫諒スヘキモノニ對シ直ニ實刑ヲ科シ之カ爲其ノ家族ヲモ亦共ニ終生起ツ能ハサルノ悲境ニ沈淪セシムルハ刑ヲ以テ刑ナキヲ期スル日本法律ノ寬容ニアラスト思料セラルルナリ果シテ然ラハ第二審判決ハ刑ヲ量定スルニ當リ之カ執行猶豫ノ寬典ヲ與ヘサリシ點ニ於テ著シク不當ナルモノナリト云ハサル可カラサルナリト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決カ第一乃至第三事實ニ付舉示セル各證據ニ依レハ優ニ同事實ヲ認メ得ヘク記錄ニ徵スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルヲ認メヌ又被告人鶴藏ニ對スル刑ノ量定ニ於テモ甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルヲ見ス爾餘ノ所論ハ要スルニ被告人鶴藏ハ法律専門家ノ意見ニ從ヒ行動シタルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナキカ如ク云爲スルニヨリ案スルニ原判決カ被告人鶴藏ニ對シ認メタル事實ハ同被告人ニ於テ假裝ノ配當要求及虛偽ノ公正證書原本不實記入等ヲ爲シタルコトニ付認識アル趣旨ニ外ナラサルヲ以テ縱シ同被告人ニ於テ法律専門家ノ意見ヲ徵シタルニセヨ右辯疏ハ畢竟刑法第三十八條第三項ニ所謂法律ノ不知ヲ主張スルニ歸スヘク犯意ヲ阻却スル事由ト爲ラサルモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松井和義關與

○新聞紙法違反被告事件 (昭和八年(九)第九一三號 棄却)

(昭和八年九月二十七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 深谷進 並原番辯護人 青柳盛雄 辯護人 青柳盛雄

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

公開ヲ停メサル訴訟ノ辯論ト新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲紊亂事項

公開ヲ停メサル訴訟ノ辯論ト新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲紊亂事項

○判決要旨

新聞紙掲載ノ事項ニシテ朝憲ヲ紊亂セムトスル虞アルモノナルニ於テハ其ノ事項カ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ニ關スルモノナルトキト雖處罰ヲ免レサルモノトス

【参照】新聞紙法第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル搜查又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス

同法第三十六條 第十九條第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

憲法第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ發行人編輯人及印刷人ノ資格ニ於テ各禁錮一月及各罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日二圓ノ割合ヲ以テ被告人ヲ勞

役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ東京市神田區今川小路一丁目一番地プロレタリア科學研究所ニ於テ新聞紙法ノ規定ニヨリ發行スル雜誌プロレタリア科學ノ編輯人發行人兼印刷人ナリシ所昭和六年十一月五日發行ノ同誌臨時增刊日本共產黨公判闘争傍聴記號第一輯ニ一九二七年七月ノコミタインノテーゼハ絕對ニ正シイ。コレヲ誤ツタモノトシ訂正シマタハ逃避セントスルモノハブレノフ主義テアリ敗北主義テアル解黨派ノ態度ハ全然誤謬テアル。吾々ハ七月テーゼヲ絕對ニ正シカッタト信スル。吾々ハ二七年テーゼヲ發展サセネハナラス。十三ノスローガンハ二ツノ中心スローガント共ニ妥當性ヲ有シテ居ル。1、大土地所有ノ××2、植民地ノ完全ナル獨立3、大産業ノ沒收××4、××制ノ××5、プロレタリアイトノ××コレハ絕對ニ正シイシ重大テアル。(五十三頁)日本ノプロレタリアイトハ共產黨及ヒコミタインノ旗ノ下ニ於テノミ勝利スルコトカ出來ル。プロレタリアイトノ獨裁ノ爲メノ闘争ノミカ資本家地主ノ束縛カラ全被壓迫大衆ヲ解放スルコトカ出來ル。共產黨ハ日本ノ唯一ノ革命的黨テアル此黨ノ旗ノ下ニノミ労働者農民及ヒ一切ノ被搾取大衆ハ勝利スルコトカ出來ル。(五十四頁)共產黨ハ軍隊軍艦内ニモ細胞ヲ作ル。コミタインニ加盟セントスル場合ノ義務ノ一ツハ軍隊内ニ共產主義思想ヲ普及スルコトヲマツテ非合法的ナ方法テモヤラネハナラス。軍隊内ニ共產主義思想ヲオシ廣メルコトヲ拒否スルコトハ裏切テアル。軍隊——特ニ兵卒水兵ハ労働者農民ノ子弟テアル。大體時事年鑑ニヨレハ八〇

パーセント乃至九〇パーセントハ労働者農民テアル。其ノ内五〇パーセントハ貧農タ。此ノ階級的地位カラ見ルト共産黨ノ側ニ有利テアル。(中略)軍隊テハ兵卒水兵ハ過酷ナ壓迫ヤ奴隸教育ヲ抑制サレテキルタケテアル。帝國主義ノ崩壊ノ前ニハ軍律モ奴隸的教育モ無力テアルコトヲ曝露セサルヲ得ス。兵卒水兵ノ間ニ共産黨ノ影響ヲ強メル可能性ハ増大シテ居ル。事實四・一六迄ノ此ノ方面ノ經驗ハ豊富テハナカッタ。カシカシ多クノ經驗ヲ持ツテ居ル。軍艦内ニ細胞ヲ作り新聞ヲ發行シ非合法集會ノ確立ヲ援助セネハナラヌ。更ニ入營前ノ青年ニ對シテハ共産青年同盟ヲ支持シ指導シテ宣傳煽動ヲ行ハネハナラヌ。迫リツツアル帝國主義ヲモ考慮シテ軍隊内ノ共産黨ノ擴大強化ト共ニ労働者ノ決定的部分ニ共産黨ノ力ヲ強メル爲メニ特別ナ方策ヲ取ルコトカ必要テアル。レーニンハ云フテ居ル。法定的瞬间ニ決定の勢力ヲ味方ニツケルコトハ軍事的成功ノ原則テアルカ又同時ニ革命的成功ノ原則テアル。(六十九頁七十頁)ブルジョア民主主義革命ト云フハ裁判長ハスク君主制廢止ノ問題タト思ツテ心配スル。然シブルジョア民主主義ハブルジョア獨裁ノ一形態テアツテ日本共産黨ハ其ノ敵手テアル。然シ日本共産黨ハ過度的スローガントシテ君主制廢止ノスローガンヲ以テ闘フ必要カアル。同シク過渡的スローガントシテ普通選舉ノタメニ戰ハネハナラヌ。之ハ革命ノ當面ノ段階テソノ指導ヲ確保シサウエイト權力ノタメノ鬭爭ヲ踏ミカタメル爲ニ必要ナノテアル。(百二十四頁)等朝憲ヲ紊亂セムトスル記事ヲ掲載シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ新聞紙法第四十二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑及金額ノ範圍内ニ於テ發行人編輯人及印刷人ノ資格ニ於テ各禁錮一月及各罰金二十圓ニ處スヘキモノトシ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ主文二項掲記ノ期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人青柳盛雄上告趣意書第一點原判決カ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ナリトシテ居ル本件問題ノ記事ハ公開サレタル公判廷ニ於ケル治安維持法違反刑事被告事件ノ公判手續ノ模様ヲ其ノ儘ニ文章上表現シタルモノノ一部分テアツテ裁判長ノ訴訟指揮權並法廷警察權ノ行使セラレタル下ニ於テ爲シタル被告ノ陳述ヲ録取シタモノテアル公開サレタル公判ノ模様カ文章ニヨツテ一般ニ公表セラルル場合其レカ他ノ取締法令ノ對象トナリ得ルコトハ抽象的ニハ觀念セラルルコトテアルカソレハ唯其ノ表現カ公開サレタル公判ノ模様ヲ故ラニ歪曲シ客觀的事實ト相違スル場合ニ限ルト解スルヲ正當ト考ヘル何トナレハ國家機關トシテノ裁判所カ其ノ獨立ノ見解ニ基クトハ云ヘ其ノ公判手續カ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認メスシテ公判ノ公開ヲ停止スルコトナク訴訟手續ヲ進行シタル以上當該裁判所ハ

勿論國家トシテモ其ノ公判手續ノ模様カ傍聽者ニ知ラレ且一般社會ニ其ノ儘公表セララルコトハ當然豫想セネハナラヌトコロテアル而カモ一方公判ノ公開ヲ停止セスシテ他方其ノ結果トシテ當然豫想セラレタル事實ヲ他ノ法令ニヨツテ處罰ノ對象トスルカ如キハ甚シキ矛盾撞著テアツテ如何ナル理由ニヨツテモ矛盾ヲ合理化スルコトカ出來ナイカラテアル若シコレヲ何等カノ理由ニ依テ合理化セントスルナラハ一般的ニハ憲法ニヨツテ保障セラレ且具體的ニハ當該裁判所ニヨツテ其ノ適用ヲ制限セラレサル公判公開ノ原則竝其ノ實施ヲ完全ニ空文ニ歸セシメ其ノ實踐的效果ヲ無意義ニスル制度上ノ缺陷不當ヲ暴露スル以外ノ何モノヲモ發見スルコトカ出來ナイテアラウ何故ナラハ日本ノ現存司法制度ノ下ニ於テハ極メテ制限セラレタル者ノミカ公判廷ニ於ケル傍聽ヲ爲シ得ルニ止マリ其ノ模様カ自由ニ發表セラレナイトシタラ何ノ意味ニ於ケル公判ノ公開テアルカ殆ント其ノ意義ヲ爲サナイカラテアル果シテ然リトセハ原判決カ本件記事ヲ以テ法律ニ違反スルモノナリトシコレヲ掲載シタル故ヲ以テ處罰セントシタルハ制度上ノ害惡ヲ無反省ニ實行シタルニ非スンハ正ニ法律適用上ノ重大ナル誤謬ヲ犯シタモノト云ハネハナラヌト云フニ在リ

【要旨】

仍テ按スルニ新聞紙法第四十二條ハ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ處罰スヘキ旨ヲ規定スルカ故ニ苟モ新聞紙ノ事項ニシテ朝憲ヲ紊亂セントスル虞アルモノナルニ於テハ其ノ事項カ縱シ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ニ關スルモノナルトキト雖處罰ヲ免レサルモノト解セサルヘカラス尤モ新聞紙法第十九條ニ於テ新聞紙ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得サル旨ヲ規定シ第三十六條ニ於テ右規定ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ處罰スヘキ旨ヲ規定スルカ故ニ其ノ反面解釋トシテ公開ヲ止メサリシ訴訟ノ辯論ハ之ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁セサルカ如ク解シ得ラレルニ非サルモ此等ノ法條ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ハ絕對ニ之ヲ新聞紙ニ掲載シ得ラレサルモノナルコトヲ明ニシタルニ止リ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ヲ自由無制限ニ新聞紙ニ掲載スルコトヲ許シタルノ法意ニ非スト解スルヲ以テ相當トスヘシ夫レ憲法第五十九條ハ一裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得ト規定ス而シテ其ノ之ヲ規定スル所以ノモノハ他ナシ一般民人ニ裁判傍聽ノ機會ヲ與ヘ以テ裁判ノ公正ヲ保障セムトスルニ在リ敢テ辯論ノ内容ヲ聞知セシムルコトヲ以テ目的トスルモノニ非ス然レハ傍聽者ノ如キモ自ラ法廷ノ收容シ得ル少數ノ者ニ限ラレ其ノ員數ノ如キ之ヲ新聞雜誌等公刊物ノ讀者ノ無數ナルニ到底比スヘクモアラサルナリ隨テ訴訟ニ於ケル辯論ニシテ辯論トシテハ未タ以テ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アリトシテ之ヲ禁セサルヘカラサル場合アルヘク又訴訟ノ辯論公開ヲ停ムルコトハ法律ニ依ル場合ノ外ハ裁判所ノ決議ヲ以テスルモノナレハ訴訟ノ辯論ニシテ公開ヲ停ムルノ要アルニ拘ラス裁判所之ヲ行ハサル場合アルヘキハ亦想像ニ難カラサル所トス然ラハ公開

ヲ停メサリシ辯論ト雖之ヲ新聞雜誌ニ掲載スルコトニ因ル社會ニ對スル影響ヲ慮リ朝憲ヲ紊亂シ又ハ安寧秩序若ハ風俗ヲ害スル虞アリトシテ其ノ掲載ヲ禁止シ又處罰スルハ毫モ妨ナキ所ト謂ハサルヘカラス故ニ此ノ點ヲ以テスル所論攻撃ハ當ラス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ罪トナルヘキ事實ノ表示トシテ昭和六年十一月五日發行ノ雜誌プロレタリア科學臨時増刊日本共產黨公判闘争傍聴記號第一輯ニ問題トナリタル記事ノ掲載セラレタコトヲ示シ同時ニソノ問題トナリタル記事ノ内容ヲ一々具體的ニ摘示シテ居ル併シ茲ニ我々ノ注意ヲ惹クノハ其ノ摘示シタ記事ノ内容カ檢事ノ原審公判廷ニ於テ公訴事實ノ陳述トシテ第一審判決記載ノ事實通リト述ヘ審判ヲ求ムルニ際リ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項掲載ノ嫌疑アリトシタ其ノ記事ノ内容ト全ク一致シテハ居ナイト云フコト換言スレハ原判決ハ其ノ一部分ヲ採リ一部分ヲ捨テ更ニ一部分ヲ更ラニ新シク附加シテ居ルト云フコトアル更ラニ進ンテ我々ハ原判決カスノ如ク罪トナルヘキ事實ヲ認定シタルニ對シ如何ナル法律上ノ判斷ヲ爲シタルカヲ點檢シテ其處ニ唯新聞紙法第四十二條ノ適用アルヲ見ルノミニシテ何故ニ公訴事實ニ摘示セラレタル記事ト異ナル形態ニ於テ「朝憲ヲ紊亂セムトスル事項」ヲ表示シタノテアルカノ理由ヲ明ニシテ居ナイコトヲ知ルソコト原判決ノ斯ノ如キ態度カ法律上正當ナリヤ否ヤニ付次ノ二點ヲ考ヘテ見ル必要カアルト思フ即チ先ツ原判決ハ前記ノ如ク一々列舉サレタ記事ノ内容カ其ノ一ツ一ツニ於テ新聞紙法第四十二條ニ所謂朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ニ該當スルモノトシ

タノカソレトモ各記事ノ全部ヲ一括綜合シタ上其處ニ一ツノ纏ツタ思想ヲ發見シコレカ始メテ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ニ該當スルモノトシタノカト云フ點ヲ考ヘテ見ル乍併此ノ點ニ關シテハ原判決カ訴訟手續ノ進行ニ從ツテ爲サレタ被告ノ陳述ヲ其ノ儘ニ錄取シタ記事ヲ任意ニ各部分ニ分チ其ノ一部ヲ抜摘シテ居ルコト及其ノ摘示サレタル各部分カ思想上ノ統一ハアルトシテモ一ツノ纏ツタ具體的主張トシテハ前後何等ノ有機的連絡カナイト云フコトニヨツテ問題ナク先ノ見解即チ其ノ記事ノ一ツ一ツカ各々ソレ自體トシテ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ニ該當スルトノ見解ヲ採ツタモノト斷定スルコトカ出來ル而シテ更ニ第二ニハ此等ノ各記事カ掲載セラレタト云フ事實ハ夫々相合シテ一個ノ犯罪事實ヲ構成シテ居ルノテアルカソレトモ此等ノ各記事ハ一ツノ纏ツタ記事ヲ掲載シタト云フ一個ノ事實ヲ具體的ニ表現スルタメニ單純ニ例示シタニ止マルカト云フコトカ問題トナル我々ハコノ問題ヲ先ノ如ク解釋スル見解ヲ正當ト考ヘル即チ法律上一定ノ記事ヲ掲載シタト云フコトヲ問題トスル場合具體的ナ記事ノ内容ヲ仔細ニ餘ストコロナク檢討シテ始メテ意義カアルノテアツテ記事ヲ離レテ掲載事實自體カ法律上問題トナルト云フコトハ意味ヲナサナイ從ツテ苟モ掲載ヲ問題トスル限リコレト密接不可離ノ記事ノ内容ハスヘテコレヲ問題トシ苟モソレカ法律上問題トスヘキモノテアル以上スヘテ之ヲ表示スヘク其ノ一、二ヲ例示シ以テ朝憲ヲ紊亂セムトスル事項掲載ノ事實ヲ特定セシメルト云フカ如キコトハ正當ト云フヘキテハナイト考ヘル又實際問題トシテモ本件ノ如ク公訴事實ニ朝憲ヲ紊亂セムト

スル事項ニ該當スル嫌疑アリトシテ附加シタル記事カ摘示サレテアルノニ其レヲ任意ニ削除シ而カモ此ノ點ニ付テハ法律適用上何等ノ判斷ヲ爲サナイ結果ヲ招來シ果シテ其ノ部分ハ罪トナラヌノテアルカソレトモ罪トナルノテアルカヲ不安定ノ状態ニ置クコトニナルノテアル果シテ然リトセハ犯罪ノ一部分ヲ構成スルモノナリトシテ審判ヲ求メラレタル公訴事實ニ對シ原判決カ之ヲ犯罪事實中ヨリ削除シ乍ラ證據ニヨリテコノ事實ヲ認定シ得ナカツタノカ又ハ法律上罪トナラヌト判定シタノカヲ明ニシテ居ナイノハ明ニ違法ナリト云フヘキテアルト云フニ在レトモ

本件公訴ノ目的物ト爲レルモノハ判示昭和六年十一月五日發行ノ雜誌プロレタリア科學臨時増刊日本共産黨公判闘争傍聴記號第一輯ニ掲載セラレタル事項全體ナルヲ以テ裁判所ハ必シモ檢事ノ起訴狀記載ノ事實ニ拘束セラレルコトヲ要セス掲載事項自體ニツキ自由ニ犯罪事實ヲ認定シ得ルモノトス然ラハ原判決カ所論ノ如ク起訴狀記載以外ノ事實ヲ認定シ又起訴狀記載ノ事實ヲ除外シテ認定シタレハトテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

被告人上告趣意書一、署名人タル小生ハ「共産黨公判闘争傍聴記」ニツイテソノ編輯發行印刷ニ全然關與シナカツタコト二、右出版物ハ公開サレタ公判ノ記録ニ過キヌコト三、其ノ内容カ資本家地主階級ニトツテ不愉快且一種ノ恐怖テアルカモ知レヌカ人民ノ壓倒的多數ヲ構成スル勤勞者大衆ニトツテハ何等害惡ナルモノテハナイト信ス四、從テ斯ノ如キハ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス五、ソレ故

控訴公判ニ於ケル小生ニ對スル判決ハ全ク不當ト信シ茲ニ無罪ヲ主張スルモノテアルト云フニ在レトモ

新聞紙ニ於ケル署名ノ發行人編輯人印刷人ノ責任ハ絶對的ノモノナルヲ以テ現實ニ編輯印刷發行ノ任ニ當ラサリシノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルヲ得ス而シテ公開ヲ停メサリシ訴訟ノ辯論ト雖朝憲ヲ紊亂シ又ハ安寧秩序若ハ風俗ヲ害スル虞アルモノナルトキハ其ノ掲載ヲ禁止又ハ處罰シテ妨ナキコト辯護人青柳盛雄上告趣意書第一點ニ對シテ説明シタル如クナルヲ以テ此ノ點ヲ以テスル所論ハ當ラサルノミナラス原判決認定ノ事實ハ新聞紙法第四十二條ニ規定スル朝憲ヲ紊亂セムトスル事項ヲ掲載シタル犯罪ニ該當スルヲ以テ原判決カ同條ヲ適用シテ處斷シタルハ寔ニ正當ナリ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○暴力行為等處罰ニ關スル法律違反恐喝横領詐欺被告事件

(昭和八年(九)第九一九號 棄却)
同年九月二十七日第三刑事部判決

【上告人】 被告人 横田 忠夫 辯護人

外二名

河上丈太郎
三輪壽吉
海野普三
泉國三郎

【第一審】 盛岡區裁判所 【第二審】 盛岡地方裁判所

○判示事項

審理ヲ更新スヘキ公判ニ於ケル被告事件ノ陳述前ニ爲シタル證據決定—公判手續ヲ更新セスシテ爲シタル證人訊問

○判決要旨

一 審理ヲ更新スヘキ公判ニ於テ證人訊問ノ申請アリタル場合ニ於テハ檢事ノ被告事件ノ陳述前ト雖證據決定ヲ爲シ得ルモノトス

【要旨第一】

二 公判手續ヲ更新スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲スコトナク曩ニ爲シタル決定ニ基キ證人ノ訊問ヲ爲シタルトキト雖其ノ公判調査ニ於ケル該證人ノ供述記載ハ之ヲ罪證ニ供シ得ルモノトス【要旨第二】

【参照】 刑事訴訟法第三百二十六條第一項 裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公

判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

同法第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第二百二十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ

被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

同法第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他

ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

○事實

第一審裁判所ハ(一)昭和七年八月十一日被告人池田謙造ニ對スル恐喝横領被告事件及被告人高橋三右衛門ニ對スル詐欺横領等被告事件ニ付第一回公判ヲ開廷シ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽キタル後事件ヲ審理シ又(二)同年同月十二日被告人横田忠夫ニ對スル暴力行為等處罰ニ關スル法律違反及恐喝横領被告事件ニ付公判ヲ開廷シ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽キタル後次回期日ヲ同月三十日午前十時ト指定スル旨宣告シ(三)同月三十日ノ公判ニ於テ右被告人三名ニ對スル事件ヲ併合審理シタルカ前ノ公判開廷後十五日以上ヲ經過シタルニ拘ラス公判手續ヲ更新スルコトナク被告人ノ訊問及證據調ヲ爲シ辯護人ノ申請シタル證人伊藤イシヲ喚問スル旨ノ決定ヲ爲シ次回期日ヲ九月八日午前九時ト指定シ(四)九月八日ノ公判ニ於テモ公判手續ヲ更新スルコトナク伊藤イシヲ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメ訊問

審理ヲ更新スヘキ公判ニ於ケル被告事件ノ陳述前ニ爲シタル證據決定 公判手續ヲ更新セスシテ爲シタル證人訊問

シタルモノニシテ第二審判決ハ右九月八日ノ公判調書ニ於ケル證人伊藤イシノ供述記載ヲ罪證ニ供シタルモノトス尙右第一審ノ(一)(二)(三)(四)ノ公判ニハ孰レモ同一ノ判事裁判所書記檢事列席シタリ

○主 文

本件上告ハ孰モ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人横田忠夫辯護人海野普吉上告趣意書第一點原判決ハ探證ノ法則ヲ誤リタル違法アルモノト信ス一、原判決ハ判示第四事實ノ認定ヲ爲スニ當リ第一審第四回公判期日ニ於テ取調ヲ爲シタル證人鷹背岩雄ノ證言ヲ引用シ判示第六事實ノ認定ヲ爲スニ當リ第一審第三回公判期日ニ於テ取調ヲ爲シタル伊藤イシノ證言ヲ引用シタリ仍テ第一審公判記録ヲ調査スルニ(一)被告人横田忠夫ニ對シ檢事ハ昭和七年七月三十日暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ヲ起訴シ(記録第一冊五二二丁)第一審裁判所ハ昭和七年七月三十一日右事件ニ對スル公判ヲ開廷シ(記録第一冊五二九丁)(二)被告人横田忠夫ニ對シ檢事ハ昭和七年八月九日更ニ恐喝横領被告事件ヲ起訴シ(記録第三冊一三一四丁)第一審裁判所ハ昭和七年八月十一日右事件ノ公判ヲ開廷シ(記録第三冊一三二三丁)次テ第一審裁判所ハ昭和七年八月十二日暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ノ第二回公判ヲ開廷シ(記録第一冊五六二丁)

以下)同公判ニ於テ被告人横田忠夫ニ關スル暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ト前記恐喝横領被告事件トヲ併合審理スルコトト爲シ被告人横田忠夫ニ對スル審理ヲ他ノ被告人ト分離シテ爲スコトトシ次回公判期日ヲ同年八月三十日午前十時ト指定シタリ(記録第一冊五六六丁)而シテ第一審裁判所ハ昭和七年八月三十日被告人忠夫ニ係ル恐喝横領及暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ノ公判ヲ開廷シタリ(記録第四冊一七七一丁以下)右ノ如キ關係ナルヲ以テ昭和七年八月十二日ノ公判ト同年同月三十日トノ公判ノ間十五日以上存シ其ノ間一回ノ公判ヲモ開廷シタルコトナシサレハ右八月三十日ノ公判期日ニ於テハ刑事訴訟法第三百五十三條ニ依リ公判手續ノ更新ヲ爲ササルヘカラサルハ論ナキ處ナリ然ルニ第一審裁判所ハ前記八月三十日ノ公判ニ於テ審理更新ノ手續ヲ爲ササルハ勿論其ノ後開廷セラレタル九月八日同月十三日ノ各公判ニ於テモ審理更新ノ手續ヲ爲サス從テ八月三十日以後ノ公判ニ於テハ檢事ノ公訴事實ノ陳述スラモナカリシモノニシテ公判手續ハ全部無効タルコト亦疑ノ餘地ナシ然ルニ原判決ハ無効タル公判手續ニ於テ取調ヲ爲シタル證人鷹背岩雄(昭和七年九月十三日公判)ノ證言及同様無効タル公判手續ニ於テ取調ヲ爲シタル證人伊藤イシ(昭和七年九月八日公判)ノ證言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ證人ノ證言トシテ證據ト爲シ得サルモノナルヲ以テ當然破毀ヲ免レサルモノト信ス二、或ハ前記鷹背岩雄伊藤イシノ陳述ハ證人ノ證言トシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シ得サルモノトスルモ右兩人ノ供述記載ハ證據力アルモノニシテ證據ニ供シ得ルモノトノ議論ナキニアラサ

審理ヲ更新スヘキ公判ニ於ケル被告事件ノ陳述前ニ爲シタル證據決定 公判手
續ヲ更新セスシテ爲シタル證人訊問

レトモ右供述記載ハ刑事訴訟法第三百四十條ノ證據書類ニアラス何トナレハ右兩人ノ供述記載ハ法令ニ違背シ無効ナル公判手續ニ於テ作成セラレタル文書ナレハナリ從テ右供述記載ヲ斷罪ノ資料ニ供スルニ當リテハ刑事訴訟法第三百四十一條ノ證據物ナルヲ以テ裁判長ハ右供述記載自體ヲ被告人ニ展示シ意見辯解ヲ求ムヘキモノナリ然ルニ原審公判調書ヲ熟讀スルニ第一審公判調書ヲ展示シタル事跡更ニナシ此ノ點ヨリ考察スルトキハ原判決ノ引用シタル前記鷹岩雄伊藤イシノ各供述記載ハ證據調ノ手續ヲ誤リタルモノニシテ斷罪ノ資料ニ供スヘカラサルモノナルヲ以テ當然破毀ヲ免レサルモノト信ス三、更ニ前記證人鷹岩雄伊藤イシノ各供述記載ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ左ノ點ニ於テモ亦採證ノ法則ヲ誤リタルモノト信ス即チ第一審第三回及同第四回各公判調書ヲ閱スルニ孰レモ其ノ冒頭ニ「第一回公判調書ニ記載シタルト同一ノ判事裁判所書記列席ノ上公判ヲ開廷ス」(第三回ハ記錄二〇〇一丁第四回ハ記錄二〇八〇丁)ト記載シアリ而シテ第一回公判ハ昭和七年七月三十一日開廷セラレ判事荒井虎雄裁判所書記小原小一郎列席審理ヲ爲シタルモノナルコトハ一件記錄ニ徵シ明白ナル處ナリトス(記錄第一冊五二九丁參照)然ルニ右第三回第四回各公判調書ノ末尾ニハ同公判ニ列席セサル「判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏」ノ署名捺印アリテ却テ右審理ニ列席シタル第一回公判調書記載ト同一ノ判事荒井虎雄裁判所書記小原小一郎ノ署名捺印ナク右各公判ハ適法ニ行ハレタルモノト認ムルニ由ナキモノト謂ハサルヘカラス既ニ然リトセハ右各公判ニ於ケル證人ノ供述ハ證據

ト爲スコトヲ得サルモノナルニ右各證人ノ供述記載ヲ採用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ採證ノ法則ニ違背シ破毀ヲ免レサルモノト信ス要之原判決ハ前陳孰レノ點ヨリスルモ採證ノ法則ヲ誤リ當然破毀セララルヘキモノナリト云フニ在リ

仍テ記錄ヲ調査スルニ第一審盛岡區裁判所ハ(一)昭和七年八月十一日判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏檢事岡沼扶列席ノ上池田謙造ニ對スル恐喝横領被告事件及高橋三右衛門ニ對スル私文書偽造行使詐欺横領被告事件ニ付第一回公判ヲ開廷シ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽キタル後事件ヲ審理シ又(二)昭和七年八月十二日判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏檢事岡沼扶列席ノ上横田忠夫ニ對スル暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反及恐喝横領被告事件ニ付公判ヲ開廷シ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽キタル後次回期日ヲ八月三十日午前十時ト指定スル旨宣告シタルカ右八月十二日ノ公判ハ右忠夫ニ對スル暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件ノミヨリ立言スレハ所論ノ如ク第二回公判ナルニ相違ナキモ同人ニ對スル恐喝横領被告事件ヨリ立言スレハ第一回公判ニシテ同公判ニ於テ併合審理セラレタル右兩事件ノ公判トシテハ正ニ第一回公判ニ該當スルコト明ニシテ(三)同年八月三十日開廷ノ同裁判所ノ公判ニ於テ右(一)(二)ノ事件總テ併合審理セラレ而モ其ノ公判調書ノ表題ニ「第二回公判調書」ト明記シアルニ由リテ觀レハ同公判調書ニ「第一回公判調書」トアルハ右(一)(二)ノ公判調書ヲ指稱スルモノト解スヘキヲ以テ之ニ「第一回公判調書ニ記載シタルト同一ノ判事裁判所書記列席ノ上檢事岡沼

扶立會公判ヲ開廷ス「トアル以上右八月三十日ノ公判ニモ右(一)(二)ノ公判ト同一ノ判事裁判所書記即チ判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏列席シタルモノト認ムヘク從テ右八月三十日ノ公判(所謂第二回公判)ニ引續キ開廷セラレタル所謂第三回ノ公判調書(昭和七年九月八日開廷ノ公判調書ニシテ第三回公判調書ト標記アリ)及所謂第四回ノ公判調書(同月十三日開廷ノ公判調書ニシテ第四回公判調書ト標記アリ)ニ「第一回公判調書」トアルハ右(一)(二)ノ公判調書ヲ指稱スルモノト解スヘキヲ以テ右第三回及第四回公判調書ニ執レモ所論ノ如キ記載存スル以上第三回及第四回ノ各公判ニモ右(一)(二)ノ公判ト同一ノ判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏列席シタルモノト認ムルヲ相當トス然ラハ右第三回及第四回各公判調書ノ末尾ニ判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏カ署名捺印シタルハ正當ニシテ右第三回及第四回公判調書ハ所論ノ如ク公判ニ列席シタル判事及裁判所書記ノ署名捺印ヲ缺ク違法アルモノト謂フヘカラス又記録ニ依レハ原判示第四犯事實ニ關スル公訴ハ昭和七年九月七日ノ追公判請求書ニ依リ提起セラレタルモノニシテ同月八日開廷セラレタル右第三回公判ニ於テ判事石川富四郎裁判所書記藤村清藏列席檢事岡沼扶立會ノ上檢事ヨリ右追公判請求書ニ基キ被告事件ノ陳述アリタル後判事ハ右判示第四事實ニ付被告人忠夫ヲ訊問シ同月十三日開廷セラレタル右第四公判ニ於テ同判事裁判所書記列席同檢事立會ノ上適式ノ證據決定ニ基キ應答岩雄ヲ證人トシテ宣誓セシメタル上訊問シタルモノナルコト明ナレハ原審カ右第四回公判調書中同證人供述記載ニ付證據調ヲ爲シタル

上之ヲ判示第四犯事實認定ノ資料ニ供シタルハ正當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス又記録ニ依レハ第一審ハ原判示第六事實ニ關スル公訴事件ニ付テハ昭和七年八月十一日及同月十二日ノ公判開廷後引續キ十五日以上開廷スルコトナク同月三十日ニ漸ク開廷(所謂第二回公判)シタルニ拘ラス公判手續ヲ更新スルコトナク從テ更ニ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽クコトナク其ノ後同年九月八日開廷セラレタル所謂第三回公判ニ於テモ同様更新ノ手續ヲ執ラザリシコト明ナルヲ以テ右第二回及第三回ノ各公判手續ハ刑事訴訟法第三百五十三條ノ規定ニ違背セルト所論ノ如シト雖同裁判所ハ右第二回公判ニ於テ辯護人ヨリ伊藤イシヲ證人トシ訊問アリタキ旨ノ申請ヲ爲シタルニ因リ右イシヲ證人トシテ訊問スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ該決定ニ基キ右第三回公判ニ於テ伊藤イシヲ證人トシテ宣誓セシメタル上訊問ヲ爲シタルモノナレハ其ノ公判調書ニ於ケル證人伊藤イシノ供述記載ハ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得ルモノトス何トナレハ公判ニ於テ證人訊問ノ申請アリタル場合ニ於テハ檢事ノ被告事件ノ陳述前ト雖證據決定ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ決定ヲ爲シタル以上裁判所ハ之カ施行ヲ爲ス義務ヲ有スルト同時ニ其ノ施行ハ必スシモ公判ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニ非ス公判外ニ於テスラ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ苟モ適法ニ構成セラレタル裁判所カ公判ニ於テ之カ證人訊問ヲ爲シタル以上縱令檢事ノ被告事件ノ陳述前ト雖右決定施行ノ義務ハ適法ニ履踐セラレタルモノト謂フヘク該公判手續ニ所論ノ如キ違法アルノ故ヲ以テ該證據決定ノ施行モ亦違法ナリト爲スヘキニ非サレハナリ然ラハ原審カ右

【要旨第一】

【要旨第二】

審理ヲ更新スヘキ公判ニ於ケル被告事件ノ陳述則ニ爲シタル證據決定 公判手續ヲ更新セシメタル證人訊問

第三回公判調書中證人伊藤イシノ供述記載ヲ原判示第六犯罪事實ノ罪證ニ供シタルハ其ノ職權行使ニ外ナラスシテ毫モ違法ニ非サルノミナラス原判決ノ引用シタル右判示犯罪事實ノ證據中右イシノ供述記載ヲ除外スルモ爾餘ノ證據ニ依リ優ニ右判示犯罪事實ヲ證明スルニ足ルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○傷害被告事件(昭和八年(九)第九三九號
同年九月二十七日第三刑事部判決) 棄却)

【上告人】 被告人 青木卯三郎 辯護人 太田 寛

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

違法ナラサル行爲ニ對スル正當防衛ノ不成立

○判決要旨

醉者役員集會ノ室ニ入り惡口雜言ヲ爲シタルニ役員等ノ爲退去ヲ求メラレ之ニ應セサルヨリ室外ニ拉致サレタルヲ憤リ役員ノ一人ヲ蹴リ打撲挫傷ヲ負ハシメタル行爲ハ正當防衛ト爲ラサルモノトス

【参照】 刑法第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス
防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
同法第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料金十圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ肩書住所ニ居住シ舊東京府豊多摩郡淀橋町カ東京市ニ編成セララル迄同町第二區民會ノ會員ナリシトコロ豫テヨリ同會役員ニ區民會ノ費用支出其ノ他ニ關シ不正ノ行爲アリトナシ之ヲ糺彈シ居

違法ナラサル行爲ニ對スル正當防衛ノ不成立

リシカ昭和七年五月十八日夜同町第二小學校ニ於テ右第二區民會ノ役員會カ開カレタル際之ヲ聞知シタルニヨリ同區民會ノ臨時總會招集方ノ要求ヲ爲サンカ爲同夜八時半頃右小學校ニ赴キ同會會長代理小島鑛吉ニ面會ヲ求メ右役員會カ會合協議シ居リタル同校御眞影奉安室内ニ入り前記要求ヲ爲シタルニ同役員等ノ爲ニ廊下ニ連レ出サレ且同役員ノ一人ナル田中重藏ヨリ黙ツテ歸レト云ハレタルヲ憤リ該廊下ニ於テ靴履ノ儘右足ニテ重藏ノ左前脛部ヲ蹴リ因テ同人ニ對シ同部位ニ加療七日間位ヲ要スル打撲挫傷ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中科料刑ヲ選擇シ被告人ヲ科料金十圓ニ處シ右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人太田寬上告趣意書第一點原裁判所ノ判決ニ於テ被告人ノ所爲ヲ正當防衛行爲ニ非スシテ傷害罪ナリトシテ罪金十圓ニ處シタルハ事實ノ認定ヲ誤リ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ即チ法律ニ違背シタルモノトス元來本件ノ事實關係ハ淀橋區角等二丁目町會ノ役員等ハ永年間に互リテ町民ヨリ集

メタル公金ヲ種々ナル名義ニ名ヲ藉リテ横領費消シタルトコロ之ヲ聞知シタル町民ハ大ニ憤慨シ町會役員ニ對シテ其ノ責任ヲ問フ事トナリ當時被告人カ交渉ノ任ニ選ハレ町會役員ニ面談スルコトトナリタルモノナリ然ルニ一方町會役員等ハ當時淀橋第二小學校ニ會合シテ右町民ノ叫ヒニ對スル對策ヲ協議中被告人ヨリ面會ヲ求メラレ爰ニ町會役員ト被告人トノ間ニ於テ衝突スルニ至リシモノニシテ當時町會役員等カ町民ノ叫ヒニ對シ反感の態度ニ出テタルコトハ一件記録ニ載シ「誰ヤラカ毆ツテ仕舞ヘト言ヒマシタ云々トノ陳述」明白ナリ町會役員等ハ當時町民ヲ代表シテ面會ヲ求メタル被告人ニ對シテ故ナク面會ヲ拒絕シタル上不法ニモ此ノ野郎毆ツテ仕舞ヘト數人シテ連發シ更ニ進ンテコレ等數名ノ町會役員ハ被告人ノ身ノ周圍ヲ取り圍ミ小島鑛吉ノ如キハ被告人ノ後ニ廻リテ羽ガイ締メニシテ自由ヲ奪ヒ他ノ者等ハ被告人ヲ毆打シ掛ラントシタル等急迫不正ノ侵害ニ遭遇シタルモノニシテ相手ハ數名被告人ハ一人ニシテ如何トモ術ナカリシモノナリ被告人ハ此等不正ノ侵害者ニ對シ自己ヲ防衛スル爲止ムヲ得ス不正者ノ一人ヲ足ニテ拂ヒ除ケ其ノ場ヲ逃カレントシタルモノニシテ當時ノ現場ノ狀態ヨリ他ニ術ナカリシモノナリ然ルニ當時奸智ニ長ケタル町會役員等ハ自己ノ不正ヲ棚ニ上ケ被告人カ暴行シタルモノナリトシテ派出所ニ急報シテ臨檢ノ巡查ニ被告人ヲ引渡シ右數名ノ町會員カ口ヲ揃ヘテ被告人ノ不利トナル可キ證言ヲナシ以テ本件ヲ不利ニ作成セラレタルモ眞實ノ事實關係ハ前陳ノ如ク急迫不正ノ侵害ニ對シ自己ヲ防衛スル爲止ムヲ得ス不正者ヲ足ニテ拂ヒ除ケタルモノニシテ此ノ

事實關係ヨリ見テ被告人ノ所爲ハ正ニ正當防衛ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ原裁判所カ事實ノ認定ヲ誤リ傷害罪ナリトシテ罰金十圓ニ處シタルハ法則ニ違背セルモノニシテ結局破毀ヲ免レサルモノナリトスト云ヒ」第二點假リニ正當防衛ニ非ストスルモ當時被告人ハ身ヲ以テ逃レントシ緊急ノ状態ニアリタル際後口ヨリ田中重藏カ來リ毆ツテ仕舞ヘト聲ヲ掛ケ周圍ヲ取り卷カレ居リタルヨリ現在ノ危難ヲ避クル爲已ムコトヲ得ヌ田中重藏ヲ足ニテ拂ヒ除ケテ表口ニ避難シタルモノニシテ被告人ノ所爲カ正當防衛ニ非ストセハ緊急避難行爲ナリト謂ハサルヘカラス而モ其ノ動機ヨリ見ルモ被告人カ私利私慾ヲ遂ケントシテ斯ル事件ヲ發生セシメタルモノニ非スシテ反ツテ町會役員コソ面會ヲ求メタル被告人ヲ毆ツテ仕舞ヘト捕ヘテ暴言ヲ吐キ其ノ上數名共謀ノ上被告人一人ヲ捕ヘテ暴行ヲ加ヘ始メタルモノニシテ町會役員コソ暴行罪ニ非スヤ當時ノ町會役員ノ一人ナル本件ノ被害者田中重藏ハ深ク其ノ非ヲ謝シ自發的ニ告訴ノ取下ヲ爲シ居レル等ヨリ見テモ本件事實ノ善惡ハ被告人ヨリモ反ツテ町會役員ニ不正行爲カ行ハレアリ之ヲ糾サントシタル町民ノ代表ナル被告人ヲ反ツテ町會役員等カ暴行ヲ加ヘントシタルコト被告人ハ一人相手ハ數人ナリシ故止ムヲ得ヌ防衛行爲ニ出テ或ハ現在ノ危難ヲ避クル爲已ムコトヲ得ヌ他人ノ法益ヲ侵害シタル事ハ記録上明瞭ナリトス然ルニ原審裁判所カ事實ノ認定ヲ誤リ傷害罪ナリトシテ罰金十圓也ニ處シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノニシテ結局破毀ヲ免レサルモノナリトスト云フニ在レトモ

原判決ニ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ判示事實ヲ認メ得ヘク被告人カ田中重藏ヲ蹴リタルハ已ムコトヲ得サルニ出テタルモノナルコトハ原判決ノ認メサル處ナリ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルヲ見ス而シテ原判示事實ヲ其ノ引用ノ證據ト對照スルニ被告人ハ酒氣ヲ帶ヒテ淀橋町第二區民會ノ開カレタル淀橋第二小學校御眞影奉安室ニ入り惡口雜言ヲ爲シタルニ役員等ノ爲退去ヲ求めラレタルモノ之ニ應セサルヨリ同人等ノ爲廊下ニ拉致サレ役員ノ一人田中重藏ヨリ黙ツテ歸レト云ハレタルヲ憤リ靴履ノ儘右足ニテ重藏ノ左前脛部ヲ蹴リ打撲挫傷ヲ負ハシメタル趣旨ニ外ナラサレハ彼上役員等カ被告人ヲ廊下ニ拉致シタル行爲ハ違法ナラサルモノト謂フヘク刑法第三十六條ニ所謂不正トハ違法ナルコトヲ指斥セル法意ナルカ故ニ被告人ノ重藏ニ加ヘタル打撲挫傷ハ正當防衛ノ觀念ヲ以テ論スル限りニ非ス又同法第三十七條ノ緊急避難ハ現在ノ危難カ他人ノ法益ヲ害スル外他ニ救助ノ途ナキ状態ニ在ルヲ必要トスルニ拘ラス前敍ノ如ク被告人ノ行爲ハ已ムコトヲ得サルニ出テタルコトナキノミナラス更ニ原判示事實ヲ其ノ引用證據ト對照スルニ寧ロ被告人ニ於テ其ノ場ヲ避ケ得ル機會アリシ趣旨ヲ看取シ得ヘキヲ以テ緊急避難ヲ以テ云爲スル所論モ亦當ラサルモノトス論旨理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

【要旨】

檢事平井彦三郎關與

○放火被告事件

(昭和八年(九)第九四七號
同年九月二十七日第三刑事部判決)

棄却

【上告人】

被告人

木島次作

辯護人

(宮澤要次郎
北井波三郎
中村源三郎)

【第一審】

長野地方裁判所

【第二審】

東京控訴院

○判示事項

住宅燒燬ノ豫見ト犯意

○判決要旨

人ノ住居ニ使用セサル建造物ニ放火スルニ當リ之ニ放火セハ隣接
セル人ノ住家ハ燒燬ヲ免レサルヘキコトヲ豫見シ乍ラ放火シタル
トキハ隣接住家ノ燒燬ハ犯人ノ目的トスル所ニ非スト雖仍ホ人ノ

住宅燒燬ノ豫見ト犯意